とやま緑づくり

財団法人 花と緑の銀行

はじめに

近年、市民生活の場や地域社会を、花や緑豊かな快適でうるおいのある環境に整備することが強く望まれます。

当銀行では、さきに県民の皆さんが、家庭や地域社会で楽しみながら花づくりを進めていただくための手引書として、「とやま花づくり」を発刊したところであります。一方、緑づくりにつきましては、本県は、積雪地帯としての厳しい気象条件下にあり、また、緑化技術も必ずしも十分には普及していない実情にあります。

そこで、皆さん方に本県の気候、風土に適した緑化を進めていただくうえでの一助になればと、このたび、「とやま緑づくり」を発刊いたしました。

県民の皆さんが、家庭での緑づくりを楽しみ、地域の緑づくりを進めていただくための手引書として、親しみやすく、わかりやすい内容になるよう心がけたつもりであります。

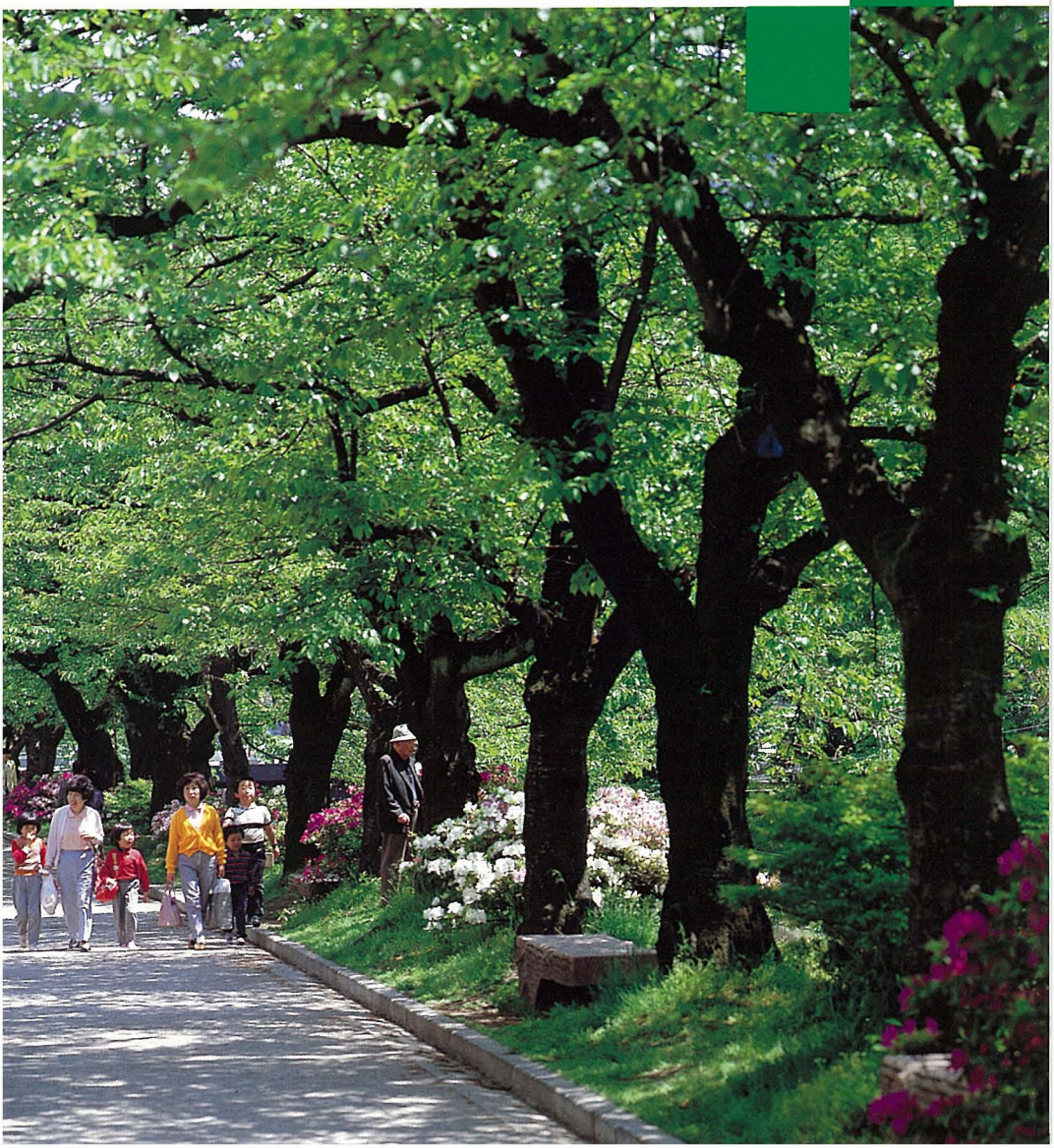
本書が、県民の皆さんとともに、「日本一の花と緑の県づくり」を進めていくうえで、少しでもお役に立ちますよう心から念願するものであります。

平成３年３月

財団法人　花と緑の銀行
理事長　中沖　豊

富山市松川沿いの桜並木

とやまの緑



目　次

（口絵）
とやまの緑
Ⅰ　知っておきたい緑の知識
1　樹木の分類……5
2　樹木の特性……6
(1)　樹　形……6
(2)　樹　高……6
(3)　陽樹と陰樹……7
(4)　移植の容易な樹木と困難な樹木……7
(5)　紅葉の美しい樹木……8
(6)　実の美しい樹木……9
(7)　花期の長い花木……9
3　樹木のいろいろなふやし方……10
(1)　実生によるふやし方……10
(2)　挿し木によるふやし方……12
(3)　接ぎ木によるふやし方……14
(4)　取り木によるふやし方……16
4　どこにどんな樹を植えたらよいか……18
(1)　一般住宅……18
(2)　都市公園……20
(3)　街路樹の整備……21
(4)　工場とその周辺の緑化……22
(5)　学校の緑化……23
(6)　記念樹……24
(7)　防火樹……24
(8)　日陰棚用樹……24
(9)　緑陰樹……25
(10)　神社に多く使われる樹木……25
(11)　有毒植物……25
(12)　小鳥食餌樹……26

5　これだけは知っておきたい……27
(1)　植え方……27
(2)　整枝、せん定……30
(3)　病虫害の発生と防除……37
(4)　肥料のやり方……44
(5)　庭木の防寒と雪囲い雪吊り……47

Ⅱ　とやまで多く使われている樹
1　高　木……58
2　中　木……113
3　低　木……127
4　つる性植物ほか……166

Ⅲ　楽しい緑づくり
1　住宅の庭づくり……177
2　生垣づくり……182
3　盆栽づくり……186
4　観葉鉢物……190
5　実もの……196

Ⅳ　その他
1　花ことば（樹木）……202
2　めでたい縁起木のはなし……206
3　庭と庭木のおもな手入暦……207
さくいん……214

ケヤキ（富山城址公園）

サツキ

生垣（砺波）

並木通り（護国神社前）

マツ
（新湊市専念寺）

植樹祭

光久寺(氷見市)

しだれ桜

フウノキの紅葉

Ⅰ　知っておきたい緑の知識

県庁松川沿い

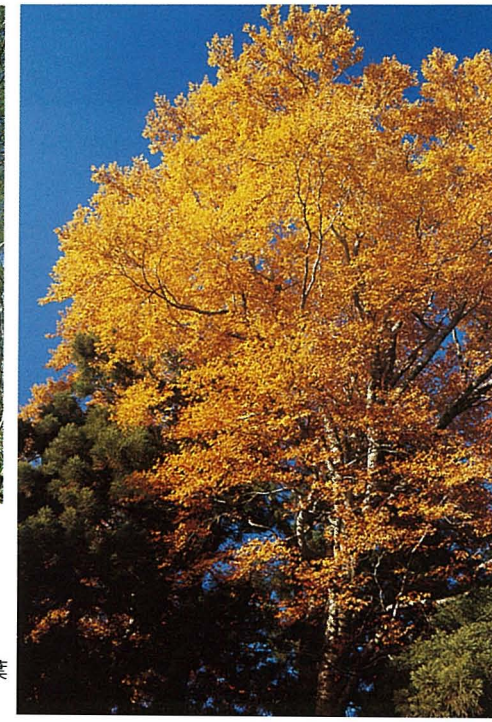
高岡市大手町
ポケットパーク

富山城祉公園

ヤマモミジ(砺波市五鹿屋)

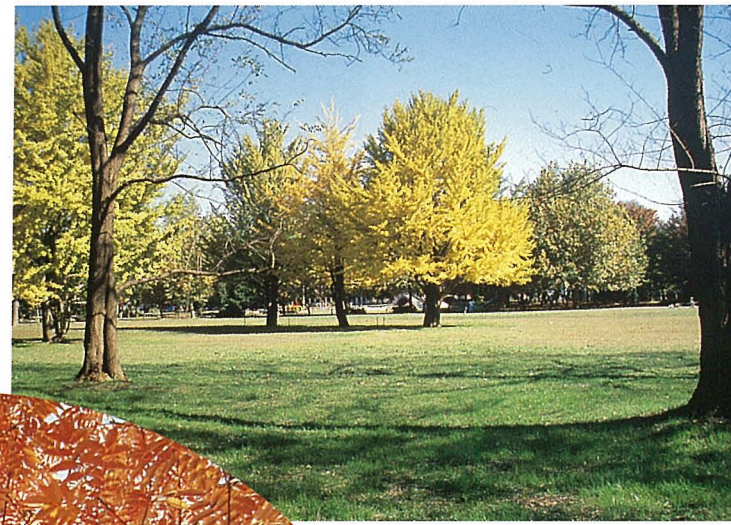
高岡市駅南（市町村緑化推進事業）

シラカバ



秋の紅葉

太閤山ランド



ハゼノキの紅葉

1 樹木の分類

樹木の種類は一般的なものから、特殊なものまで含めるとその数はきわめて多いが、わが国で一般に造園に使用されている樹種は、400種類程度といわれています。これらを葉の形態から分けると針葉樹、広葉樹、特殊樹木、タケおよびササ類の4種類になります。また葉の着生状態から分けると、年間を通じて葉が着生しているものを常緑樹、冬季に葉をすべて落とすものを落葉樹としています。

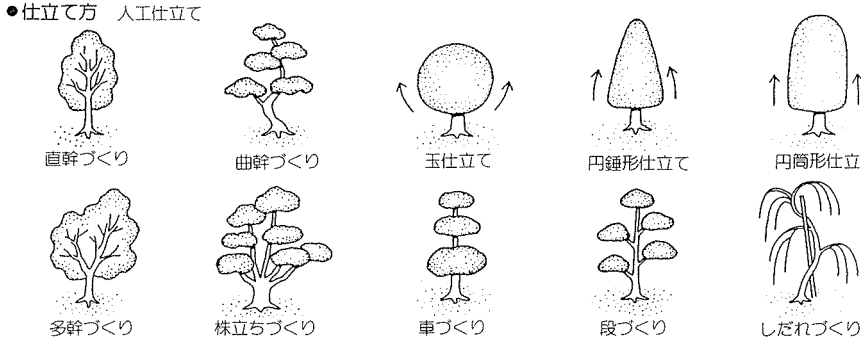
区分	樹種
常緑針葉樹	アカマツ、イチイ、エゾマツ、カイズカイブキ、クロマツ、コウヤマキ、コノテガシワ、ゴヨウマツ、サクラ、ヒマラヤスギ、ラカンマキ、スギ、ヒノキなど
落葉針葉樹	カラマツ、メタセコイヤなど
常緑広葉樹	アオキ、アセビ、シラカシ、カクレミノ、カナメモチ、キンモクセイ、ケヤキ、クチナシ、タイザンボク、モチノキ、ジンチョウゲ、ヒイラギ、ヤツデ、ツゲなど
落葉広葉樹	アオギリ、ウメ、ケヤキ、コブシ、サクラ、サルスベリ、シラカバ、ドウダンツツジ、ネムノキ、ミズキ、モクレン、ヤマブキ、ユリノキなど
特殊樹木	トウシュロ、ドラセナ、バショウ、キミガヨランなど
タケ、ササ類	クロタケ、モウソウチク、オカメザサ、クマザサなど

2 樹木の特性

(1) 樹　形

樹木の樹形には、自然に生育した自然樹形と人為的につくった人工樹形の２種類があります。

●仕立て方　人工仕立て



(2) 樹　高

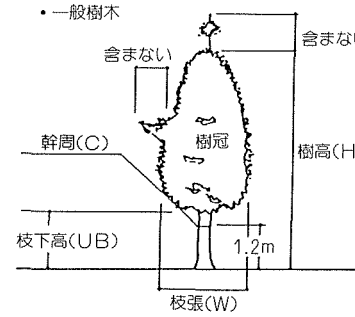
地表から幹の先端までの高さを樹高といいますが、先端が徒長しているとき、その部分は樹高に含みません。自然に生長した状態で限界点に達した高さで分けますと、高木・中木・低木の３種類になりますが、中木と高木、低木のいずれかに入れて２種類とする場合があります。

高木　ケヤキ、ヒマラヤシーダ、シラカシなど

中木　サザンカ、イヌツゲ、ツバキ、サンゴジュなど

低木　ユキヤナギ、ナンテン、ハギ、ツツジなど

樹木の寸法規格項目



(3) 陽樹と陰樹

樹木には、陽光が十分ないと衰弱・枯死する陽樹と、陽光が少なくても生育が可能な陰樹があります。

区　　分	樹　　種
陽　　樹	アカマツ、カイヅカイブキ、ヒマラヤシーダ、クロマツ、キョウチクトウ、ピラカンサス、エニシダ、カイドウ、ケヤキ、サルスベリ、シラカシ、ムクゲ、レンギョウ、ハナズオウなど
陰　　樹	カヤ、コウヤマキ、アオキ、カクレミノ、ツゲ、サンゴジュ、クチナシ、サカキ、ジンチョウゲ、ヒイラギ、ヤツデ、アジサイ、マサキ、マンリョウなど

(4) 移植の容易な樹木と困難な樹木

樹木の移植の不適期に動かすと、移植が容易なものでも失敗する場合があり、樹木のなかには、移植の容易なものと非常に移植を嫌うものがありますので、樹の性質を知り、移植の時期、方法、取扱いに十分注意しなければなりません。また移植が困難な樹木は、適期に行っても失敗します。しかし事前に根回しを行えば容易に移植できます。いずれの場合も枝葉をある程度切り込んでやることが大切です。苗木は殆どの樹木は容易に移植できます。

移植の容易な樹木　サワラ、アオキ、サンゴジュ、シラカシ、ツツジ類、ツバキ、マサキ、アジサイ、ウメ、サルスベリ、トウカエデ、ヤナギ類、シュロ、ユッカ類など

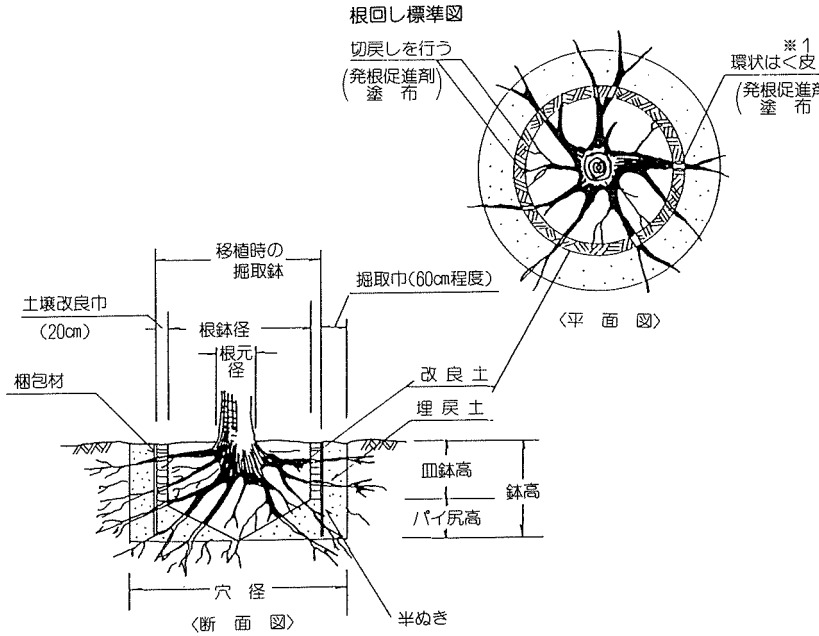
移植の困難な樹木　イチイ、スギ、トウヒ、モミ類、キョウチクトウ、クス、ジンチョウゲ、タイサンボク、ピラカンサス、ケヤキ、コブシ、トチ、ネムノキ、ハクモクレン、ホオノキ、ユリノキなど

ア、根回しとは

移植に必要な根の範囲をいちど切断し、細根を発生させることをいいます。時期は根が発生しているときならいつでもかまいませんが、樹種、樹令によって異なります。一般には根が発生するまでにおおむね６ヵ月～１年かかるので、移植の時期を考慮し、逆算して行います。

イ、根回しの方法

- 枝を落とし、葉の量を減らしておく。
- みぞを掘り、樹木をささえる根を数本残して他は直角に切断する。
- 残した根は根鉢の外周から15cmの間を、材部に達するまで皮をはぐ（環状はく皮）。



(5) 紅葉の美しい樹木

紅葉というと一般的には、秋の紅葉をいいますが、春の新葉の赤いのも美しいものです。紅葉とは赤いものだけでなく、黄葉、その他の美しい色も含めます。また、落葉樹の紅葉の美しさが一般的ですが、常緑樹にも紅葉の美しいものがあります。

区　　分	樹　　種
秋から冬の紅葉	イロハモミジ、ガマズミ、ドウダンツツジ、ナナカマド、ナンテン、ハゼ、ニシキギ、ハナミズキ、メギ、ヤマボウシ、ヤマモミジ、ハウチワカエデ、マユミなど
春の新葉の美しいもの	カエデの一部、カナメモチ、ナンテン、チャンチン、カツラ、ブナなど
黄色の美しいもの	イチョウ、イタヤカエデ、カツラ、ザクロ、ケヤキ、マンサク、ヤマブキ、ニレ、フジなど

(6) 実の美しい樹木

実の観賞は、一般に赤紅色系のものが対象となりますが、この他黄色系、黒色系、青紫色系のものにも美しいものがあります。

区　分	樹　種　名
赤　色	アオキ、ウメモドキ、ガマズミ、ザクロ、マンリョウ、ナンテン、ニシキギ、ベニシタン、ナナカマド、ヤマボウシ、ハナミズキなど
黄　色	イチョウ、ウメ、カリン、ユズ、ミカン、ビワ
青紫色	ムラサキシキブ、ブドウ
黒　色	キヅタ、ヤツデ

(7) 花期の長い花木

花木には10日以内で花の咲き終わるものや、1ヵ月も2ヵ月も咲き続けて、目を楽しませてくれるものがあります。この場合、花期は1個の花の寿命ではなく、1個の花は1～2日で落花しても、つぎつぎと咲いて長く花が見られる期間をいいます。

区　分	樹　種
花期の長い花木	サツキ、シモツゲ、キョウチクトウ、アベリア、ムクゲ、サルスベリ、サザンカ、ミヤギノハギ、ノウゼンカズラなど

Q & A

Q、3～4日家をあけたいのですが、鉢花や、観賞植物がしおれないか心配です。よい方法を教えて下さい。

A、水をたっぷり与えておけば、1～2日は問題はないが、それ以上長くなるときは少し工夫が必要です。

簡単で効果的なのは「腰水法」です。鉢受皿に少し多目の水を入れ鉢底を浸しておく方法です。長くなれば根が呼吸困難になり根ぐされを起こします。

根ぐされをなくする場合は、いったん十分水を与え、日の当たらない場所へ移動させ、水ごけや新聞に十分水を浸して厚く覆ってもよい。

もし、小型の鉢でしたら、ダンボール箱の中へいくつも並べて、水ごけを湿して入れておけば空中湿度も高く、1週間ぐらいは大丈夫でしょう。

山野草か、小盆栽は、水盤に細かな砂を敷き、水を十分ふくませてその土に並べるのもよい方法です。なおその上へ日覆いをしてやれば2～3日はもちます。

3 《樹木のいろいろなふやし方》

(1) 実生によるふやし方

- 利点　技術的には簡単で、誰でも大量に増殖することができる。
- 欠点　母樹と全く同じ形質を備えたものを増やすことはできない。開花結実に年月がかかる。

ア、種子の取り方

種子は完熟してから採種するのが望ましいが、マツ、スギ、カエデなどは黄熟したら採種します。

ウメモドキ、ナンテン、ベニシタンなどの果肉のあるものは早目に取り、小鳥に食べられないようにします。

イ、種子の調整

スギ、マツ、カエデなどの球果実は、陰干しして、不純物を除いて選別します。

ウメモドキ、ナンテンなどの果実は、果肉を取り除き、水洗いします。

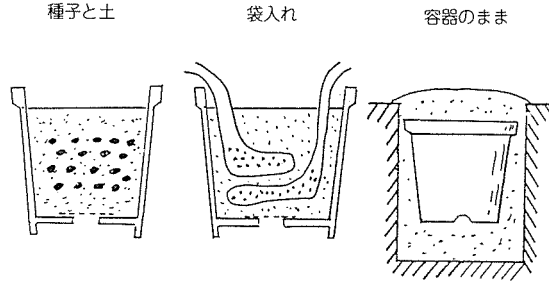
イチョウ、クルミなどは、土中に埋め、果肉を腐敗させて水洗いします。（カブレを起こすので素手で触れない。）

ウ、種子の貯蔵

種子の種類によって貯蔵の仕方が異なります。

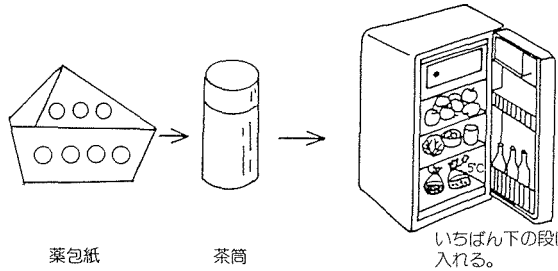
(ア)、湿性貯蔵

果肉に覆われている樹種は、極端に乾燥を嫌うため、果肉を取り水洗い後、播種時まで湿気のある清潔な川砂に埋めておきます。



㈠、乾燥貯蔵

球果などは、薬包紙で包み、茶筒に入れて冷蔵庫へ入れて保存します。



エ、播種方法（時期別）

㈠、取りまき

採種後、ただちに播種する方法で、とくに乾燥を嫌うものや、ヒイラギナンテンのように梅雨期に成熟し、年内に発芽するものについて行う。

㈡、春まき

一般に彼岸すぎに播種を行います。湿性貯蔵したものは、発芽を始めたものもあり、注意が大切です。

㈢、秋まき

秋に採種し、乾燥すると発芽しないコナラ、ミスナラなどをまきます。

オ、播種の仕方

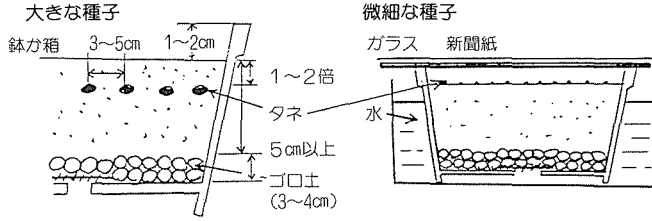
㈠、畑へまく場合

精選された種子は、大量の場合や大粒のものは、畑に畦作りして播種します。

通常は、畦巾は１ｍ、畦高10～20㎝、よく耕転する。覆土は、種子の厚さの１～1.5倍くらいとし、よく鎮圧する。その後は乾燥を防ぐため敷ワラをします。

㈡、容器へタネをまく場合

大きな種子は、鉢か箱に入れ土中に埋めますが、細かい種子の場合は、覆土しないで、鉢や箱のまま水槽の中へ入れ下部の穴から吸水し所定の場所へ置きます。



(ウ)、用土

大きな種子は、川砂または赤玉土の単用でよく、細かい種子は、バーミュキュライト、ピートモス、水苔を細かく切ったものを利用します。

(エ)、播種後の管理

春まきの場合は、暖かい所に置きます。夏の取りまきの場合は、日陰におき、秋まきの場合は、冬期間凍らせないようにします。

いづれの場合も乾かさないことが大切です。

樹種によって発芽日数が異なりますので、注意深く見守り、少しでも発芽を見かけたら敷ワラを取り除き、不良苗を間引きし、播種後1ヶ月くらいから薄い液肥を散布します。移植は翌年の春に行います。

(2) 挿し木によるふやし方

挿し木は、植物体の一部を切取って、土中に挿して新しい個体を作る方法で、実生とともに多く使われます。

- 利点　母樹と同一のものを一時に多量再生させることができます。生長が早く、誰でも簡単にできます。
  実生より着花結実が早い。
- 欠点　実生に比べて根が一般に浅く一方に片よる場合が多い。
  一般に短命であり、挿し木のできない樹種もあります。

ア、挿し木の時期

春挿し　3月下旬～4月中旬（落葉樹、針葉樹）
梅雨挿し　6月中旬～7月中旬（常緑樹）
土用挿し　7月中旬～8月中旬（常緑樹で梅雨にまだ組織が充実していない樹種）
秋挿し　9月中旬～11月上旬（落葉樹）

イ、場所と用土

挿し木を行う場所は、半日陰で風があたらない排水のよい場所がよい。適当な場所がなく、本数の少ないときは箱や鉢にさして半日陰におきます。

用土は、水はけがよく、空気の流通のよいもので、保水力があり清潔なものを用います。

種類は赤玉土、川砂、バーミュキュライト、ピートモスなどがよい。畑土は土壌中に腐敗菌が多いので避けたほうがよい。

ウ、挿し穂の取り方

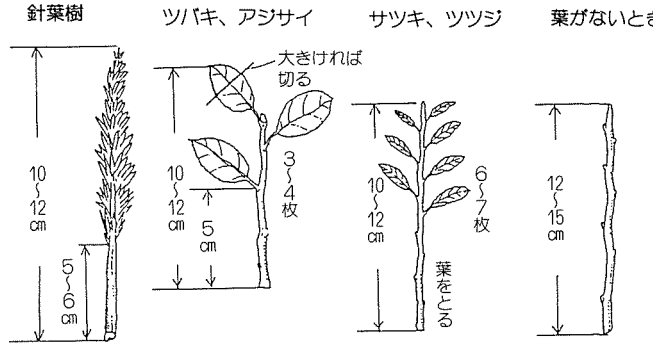
若い勢いのある樹で、よく充実した、健全な枝を用います。一般には、春挿しは昨年枝の一部を使い、梅雨挿しは、今年枝を用います。

ツツジ類は、昨年枝の一部をつけたほうがよい。

エ、挿し穂の長さ、葉の枚数

樹種や発根の難易によって異なります。葉の枚数は葉の大きいものは少な

く残し、葉の小さいものは多く残します。



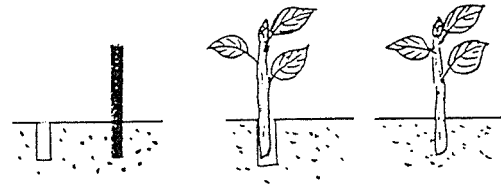
オ、挿し穂の切り方

挿し穂の切断は、発根を高め、促進するためいろいろな方法が用いられています。現在は、木本植物では切返し、斜め切りが多く用いられ、挿し穂の軟らかい草本植物は、水平切りが多く、天ざし、管ざしは細い枝のものが用いられます。いずれも、よく切れる刃物を使い一気に切るのがコツです。

カ、挿し穂の処理

挿し穂は、穂作り後、数時間から一昼夜挿し穂の茎部を水に浸漬するのが常識となっています。

発根阻害物質を除き、また水分を吸収してしおれる予防にも効果がありますが、長くなると逆に発根率が悪くなる場合が多い。



また、発根の悪いものは科学薬品を使う方法もあります。

キ、挿し方

立挿し、斜め挿しが一般に行われ、いずれも、床に案内棒で穴をあけ、挿し穂を1/3程度土中に入れ、両手で軽く押さえて、その後は灌水をします。

ク、挿し木後の管理

挿し木後の活着は、なんといってもその後の管理の善しあしにあります。

いつも適度の湿度を保つようにします。西日のあたるところは避け、日中は日除けをします。夜露があたるようにします。

(3) 接ぎ木によるふやし方

接ぎ木は、実生、挿し木の困難な樹木の増殖の場合に行います。同種のなかで生育の弱い種類に、樹勢の強い台木を使って強い木をつくる場合や、病虫害の抵抗性を高めるため、結実を早めるためや花の咲き分けをさせるためなどに行います。

ア、台　木

台木は、実生、挿し木によって根張りのよいものをつくります。一般には、太さがエンピツ大から人指し指ほどのものが理想的です。

イ、接ぎ穂の採取と貯蔵

接ぎ穂は壮令樹の徒長枝か、今年枝の生長のよいもの、病虫害に侵されていない完熟したものがよい。

接ぎ穂の採取は、通常１～２月の休眠期に採取し、湿り気のある川砂に入れて保存する土中埋蔵法と、厚みのあるビニール袋に入れて冷暗所に貯蔵する密閉法があります（長期間保存できます。）。

ウ、接ぎ木に必要な用具

- せん定バサミ　　切れ味のよいもの。
- 切りだしナイフ　よく切れて、刃の薄いもの。
- 接ぎ木テープ　　幅1.2cm、厚さ0.05mmくらい。打ちワラでもよい。
- 接ぎロウ　　太い台木の場合、効果が高い。
- ビニール袋　　接ぎ木したものにかけ、湿度を高める。芽の伸びをみて徐々にはずす。

エ、接ぎ木の時期

春先に行う休眠枝の接ぎ木は、枝接ぎのなかでも最も多く使われます。春先、芽がふくらみ始めたときが適期ですが、植物の種類によって差があります。

まず、２月下旬頃に、ウメ、バラ、マツなどで、ナシ、リンゴ、カキなどがこれに次ぎ、４月になればスギ、カンキツ類などを行います。

オ、切り接ぎ

(ア)台木の調整と切りこみ方

春に行う場合は、台木を掘り上げ根を切りつめます。

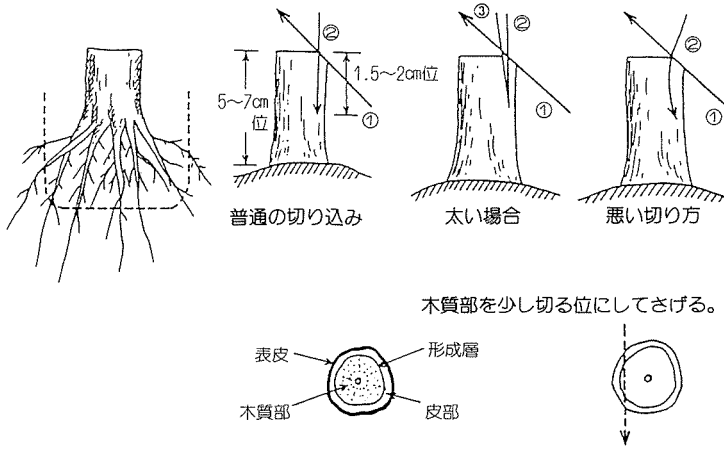
ツバキを夏に接ぐ場合は、鉢植えのまま行います。

(イ)穂木の調整

よく充実した枝で、先端とつけ根は切り捨てます。穂は２～３芽を残し

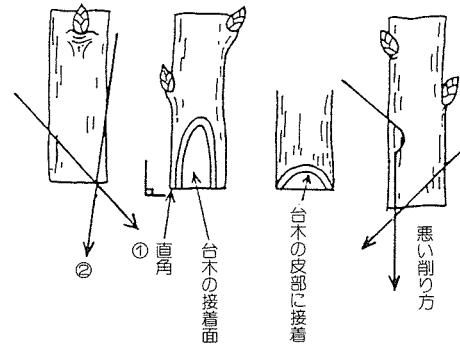
て鋭利なナイフで一気に削ります。

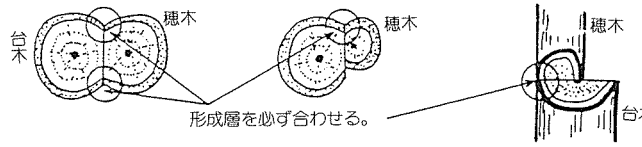
削り面に凸凹をつくらないように削り、台木の切り込みより穂の切り込みを5㎜ほど長く削るとよい。



㈠穂木の挿入

台木と穂木の太さが同じくらいの場合は同じくらい削って形成層を合わせる。台木より穂が細い場合は片方の形成層だけを合わせます。台木と穂の先端部を密着させることが大切です。





㈡ 結 束

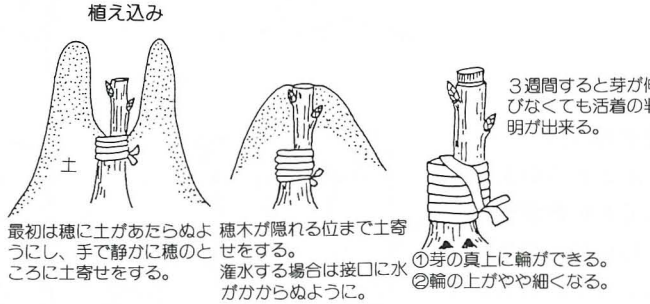
接ぎ木テープ、ラフィヤ、打ちワラなどで結束するが、形成層がはずれないように十分注意します。

接ぎ終わったら、切口と削り口に接ぎロウを塗り、ビニールの袋をかけ、葉が1㎝くらい伸びたとき、袋の先端を一部切ります。

㈦　接ぎ木後の管理

盛り土をしたあと、さらにビニール袋をかけ、ヨシズをかけておきます。

接ぎ木後、３週間ほどたったら、朝夕日光にあて、徐々に日光にあてる時間を長くします。この頃から、台木の芽がよく伸びるのでかき取ります。



㈧　割り接ぎ

この接ぎ方は、マツ、果樹類、ツバキ、ボタンなど太いものや、台木が裂けやすいものに用いられる。

台木の調整は、地上部を５～10cmに切ります（マツは20～30cmくらいがよい。）。

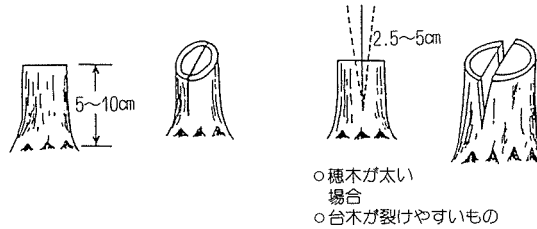
割り接ぎは、幹の中心に1.5～２cm切り下げます。太い台木、ボタン、シャクヤク台木は、両側からナイフをＶ字形に入れ、クサビ状に残ったものははずします。

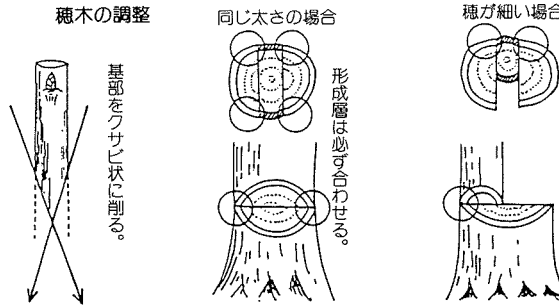
穂木の調整は、芽を２芽以上つけ、なるべく短くして、クサビ状に削ります。

結束、ビニール袋かけは切り接ぎに準じて行います。

(4)　取り木によるふやし方

取り木は、親から切り離さずに枝や幹の途中から発根させる方法です。





ア、取り木の時期

一般に、春から夏にかけて行います。

- 落葉樹　　新梢の伸びが止まり、硬くなった梅雨期がよい。
- 常緑樹　　４月上旬の新芽の活動する頃からできます。

イ、取り木する位置

活力旺盛な親木で、２～３年生の部分を利用します。

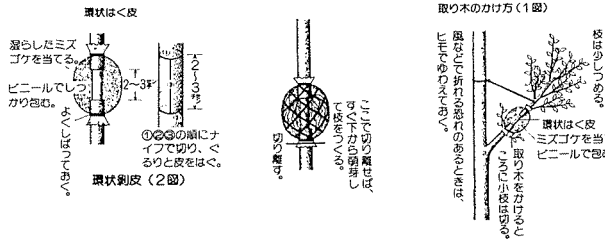
皮をはぐとき、皮層の一部を残しますと発根しないので絶対残さないようにします。

ウ、切り離しの時期と位置

発根したものは、９月頃に切植えしますが、その位置は水苔のすぐ下で切り離します。

水苔のついたまま仮植えを行い、翌春、水苔をきれいに取り除いて植えかえます。

切り離すときは、根の量に応じて、葉をせん定することが大切です。



4 どこにどんな樹を植えたらよいか

庭づくりや公園、街路の緑化について、いろいろな緑化木が使われています。これらの樹木は、それぞれ樹種特有の個性があります。その個性を十分知って、植栽することが大切です。

(1) 一般住宅

ア、植栽場所と樹種

和風、洋風、和洋折衷の庭があります。それぞれにふさわしい植栽を考えましょう。

区　分	植　栽	樹　種
和風向き	庭の中心に真木をおく。常緑樹が適する。	クロマツ、アカマツ、ラカンマキ、モツコク、キンモクセイ、シラカシ、モチノキ、タイサンボク、コブシ、ウメなど
洋風向き	明るい庭づくりで花木が適する。直線的、曲線的に植栽し刈込んで美しいもの。	アメリカハナミズキ、ドウダンツツジ、アベリア、キャラボク、イチョウ、カイズカイブキ、コウヤマキなど
玄関周辺の低木または低生垣	内生垣などで、家の品格を表わすための低木を入れる。	キャラボク、イヌツゲ、サツキ、ヒラトツツジ、オオムラサキ、クチナシ、アベリア、ヤツデ、ツバキ、サザンカ、アジサイ、ドウダンツツジ、ハクチョウゲ、ユキヤナギなど
車寄せ周辺の樹	景観を強調し、家の品位を出すための樹種の選定。	ラカンマキ、クロマツ、イチイ、スイリュウヒバ、モチノキ、タイザンボク、キンモクセイ、ヒイラギなど

イ、和風庭園の樹木

区　分	植　栽	樹　種
真　木　(心)	庭の中に植栽され、前庭を支配するような主木で雄大な樹勢のものがよい。	アカマツ、クロマツ、ゴヨウマツ、イチイ、ラカンマキ、スギ、タイザンボク、ウバメガシ、ユズリハ、モチノキ、タラヨウ、キンモクセイ、ハクモクレンなど
添　(副)	真木の樹形を補うための樹で、真木と同じもので選ぶ。	上に同じ
対	真、添に相対させるために全く正反対の感じのものを入れる。真木が針葉樹なら広葉樹を用いる。	イロハモミジ、ハウチワカエデ、ウメ、ウメモドキ、コブシ、コナラ、アジサイ、ウツギ、シモツケ、ニシキギ、マサキ、ドウダンツツジ、サルスベリなど
前　付	真、添、対が完全でない場合に欠点を補うもの。そのほとんどが潅木（低木）で、常緑、落葉どちらでもよい。	キャラボク、ヒイラギナンテン、ツバキ、サザンカ、ヒサカキ、ジンチョウゲ、サツキ、ヒラトツツジ、シャクナゲ、クチナシ、ハクチョウゲ、ドウダンツツジなど
見　越　し	植栽樹木の背景に不満があるときこれを補う植栽。真、添の樹によって異なる。一般に常緑広葉で葉の茂ったもの。	マツ類、スギ、ヒノキ、サワラ、コウヤマキ、アラカシ、シラカシ、ウバメガシ、カナメモチ、モチノキ、ツバキ、サザンカ、ボタン、キンモクセイ、サンゴジュ、サクラ、ヤマモミジなど

ウ、洋風庭園の樹木

洋風の庭は面積が大きければ幾何学的な庭が美しいか一般家庭の庭では芝生をベースにすることが多い。

樹種としては

区　分	樹　種
高　木	シュロ、ソテツ、ケヤキ、ユリノキ、プラタナス、エンジュ、タブノキなど
中　木	カイズカイブキ、カシ類、キンモクセイ、サンゴジュ、ゲッケイジュ、サザンカなど
低　木	ツツジ、イヌツゲ、クチナシ、ハクチョウゲ、ドウダンツツジ、ユキヤナギ、アベリア、ジンチョウゲなど

エ、和洋折衷の庭の樹木

和風庭に一般に使う樹種と洋風に使う樹木を合せて庭づくりをしたもので、最近は花壇などを加えた庭づくりが多い。

(2) 都市公園

都市公園の緑化の重要性

経済の高度成長がもたらした、人口、産業の集積化により、都市及び都市近郊は自然破壊、大気汚染、水質汚濁、騒音などにより生活環境が悪化し、そのため緑の必要性が高まっている。公共団体は児童公園、近隣公園、普通公園、運動公園などの多様な公園を造成し管理している。

公園樹木の条件

- 市街地の土地的、気候的環境条件に強いもの。
- 樹形が美しく、移植の容易なもの。
- 病虫害に強く、植栽後の保護管理の容易なもの。
- 大きな緑陰を与えるもの。
- 樹体に有刺、有毒性の成分あるいは悪臭を発生しないもの。
- 美しい花を咲かせる花木類。

Q & A

Q、開花中のサツキを室内で楽しみたいのですが、水やりの仕方を教えて下さい。

A、サツキの花の咲くころは、梅雨時期で雨の日が多いので、せっかく咲いた花も雨にあった後、強い直射日光を受けると、菌核病にかかり花が長もちしません。室内の観賞もよい方法だと思います。ただし、あまり暗い室内におくと生育上よくありません。日当たりのよい縁側などに置きましょう。

開花時は、とくに水分を多く求めますので、毎朝、外に出してたっぷりと水を与えましょう。

水は鉢土に静かに与え、花にかからないようにします。しかし、葉にしてみれば湿度が必要ですから、夜間だけ軒下に出しておき、夜露にあわせた方が樹のためになります。

室内におくのも一週間くらいです。あまり長く楽しもうとすると樹が衰弱し、芽吹きが悪くなったり、枝枯れを起こすことがあります。

公園の種類と植栽樹種

公園の種類	植　　栽	樹　　種
児　童　公　園 (0.2ha以上)	周囲の植込みと保護者の休息の緑陰樹の植込み。常緑樹7、落葉樹3で有刺、有毒な樹種は避ける。	(高) シラカシ、シイ、ケヤキ、トウカエデ、イチョウ、プラタナス、アオギリ、(中) サンゴジュ、ユズリハ、カイズカイブキ、(低) サツキ、ヒラトツツジ、イヌツゲ、クチナシ、アベリア、ハクチョウゲ、ユキヤナギなど
近　隣　公　園 (5.0ha以上)	老若を問わず、一般の人の保健と憩いの場としての植込み。緑陰樹、風致園など。	(高) イチョウ、メタセコイヤ、シラカシ、モチノキ、タイサンボク、プラタナス、ケヤキ、ユリノキ、カツラ、シラカバ、(中) カイズカイブキ、キンモクセイ、ツバキ、サザンカ、カナメモチ、ヤマモミジ、ナナカマド、(低) サツキ、ヒラトツツジ、オオムラサキ、アオキ、アジサイ、ヤマブキなど
普　通　公　園 (30ha以上)	都市のなかの公園で緑陰樹、並木、林間歩道、風致園、樹木園など。	近隣公園に準ずるが、園藝種より、自然樹の植栽を重点的に行う。
運　動　公　園	各種競技場の周辺の防風林、防風垣、施設の緑化。できるだけ常緑の広葉樹。	(高) シラカシ、アラカシ、タブノキ、ケヤキ、プラタナス、ユリノキ、エンジュ、(中) カイズカイブキ、サンゴジュ、ツバキ、キンモクセイ、ネズミモチ、(低) サツキ、ヒラトツツジ、オオムラサキ、アオキ、ヤツデなど

(3) 街路樹の整備

都市及びその周辺の景観の整備、環境の美化をもたらし、住民の憧れを充足するとともに防火、防煙、防塵、防暑、防風など、住民の生活、健康の保全のため街路の植栽は重要です。

ア．高　木

道路条件、地域条件を考慮すると、表のとおりとなる。

代表的な樹種

地　域	広　幅　員	狭　幅　員
市　街　地	アキニレ、イチョウ、クロガネモチ、ケヤキ、シンジュ、スズカケノキ、タイワンフウ、タブノキ、トウカエデ、トチノキ、モミジバフウ、ユリノキなど	アメリカハナミズキ、アラカシ、エンジュ、カツラ、サトザクラ、サルスベリ、シラカシ、タイサンボク、ネグンドカエデ、ハクウンボクなど
郊　外	アオギリ、アカマツ、アキニレ、エノキ、クロマツ、ケヤキ、シダレヤナギ、スズカケノキ、ニセアカシア、メタセコイアなど	イロハモミジ、エゴノキ、オオシマザクラ、トネリコ、ナツツバキ、ナナカマド、ヤマボウシなど

イ．中　木

樹　種　　主として常緑樹を使用する。

樹　種	ウバメガシ、カイズカイブキ、キンモクセイ、サザンカ、サンゴジュ、トウネズミモチ、ネズミモチ、ヒイラギモクセイ、モッコク、ヤブツバキなど

ウ．低　木

樹　種　　主として常緑低木を使用する。

樹　種	アベリア、オオムラサキ、カンツバキ、キンシバイ、コデマリ、サツキ、シモツケ、ジンチョウゲ、ドウダンツツジ、ハクチョウゲ、マメツゲ、ヤマツツジ、ハギなど

(4)　工場とその周辺の緑化

工場とその周辺へ造園施設や、緑化木の植栽を行うことにより、地域の環境改善と美化に寄与するとともに、工場に働く人々の憩いと団らんの場を提供する。

場　所	植　　栽	樹　　種
工場内の緑化	四季折々の季節の変化を感じさせる花木を中心とした植栽。	アジサイ、サザンカ、サツキ、ヒラトツツジ、ドウダンツツジ、フジ、バラ、ボケ、ライラック、エニシダ、ムクゲ、アベリア、シモツケなど
工場内の道路沿いの緑化	資材の搬入、搬出や従業員の通行の支障のない植栽。排煙、媒塵などの公害に強い樹。	（高）プラタナス、ユリノキ、イチョウ、トウカエデ、アオギリ、オオシマザクラ、キョウチクトウ、シダレヤナギ、トネリコ、（低）サザンカ、ツバキ、シャリンバイ、イヌツゲ、アオキなど
工場周辺の緑化		工場内の道路沿いの場合と同様の植栽でよい。

(5) 学校の緑化

地域の中心的施設である学校の緑化は、防風、防塵、防音など学校環境や、さらに地域の環境の向上を図るとともに、児童・生徒に教材や憩いの場を提供するなど情操教育にも重要です。

場　所	植　　栽	樹　　種
学校の緑化	学校本館を引立たせるため、明るい芝を中心にするのが一般的。正面（車寄せ）は学校の象徴的な場所として、できるだけ格調の高い植栽に配慮する。本館、校長室、会議室などの前は、針葉樹または常緑の広葉樹がよい。教室前は落葉の広葉樹が適している。	（車寄せ）トウシュロ、アカマツ、クロマツ、ラカンマキ、カイズカイブキなど
		（校舎周辺）ポプラ、プラタナス、ユリノキ、コブシ、カエデ類、アメリカハナミズキ、トチノキ、ケヤキ、カイヅカイブキ、コウヤマキ、モッコク、ゲッケイジュ、サザンカ、ツバキ、サツキ、クチナシ、ヒラトツツジ、ジンチョウゲ、ハクチョウゲ、ユキヤナギなど
		（生垣）キャラボク、イヌツゲ、サザンカ、ドウダンツツジ、カナメモチ、マサキ、サンゴジュ、シラカシなど

(6) 記念樹

企業、個人などを問わず、社会生活または個人生活の一つの節目に樹を植える習わしがあるが、その植樹の目的から永く残るように樹を選びます。

場　所	植　　栽	樹　　種
記　念　樹	大木になるもの。発育が盛んなもの。病虫害の少ないもの。管理が容易なもの。美しいもの。	(針) イチョウ、コウヤマキ、ヒマラヤシーダ、スギ、クロマツ、(広) キンモクセイ、ゲッケイジュ、タイサンボク、ウメ、エンジュ、カツラ、ケヤキ、サクラ類、ハクモクレン、ハナミズキなど

(7) 防火樹

火災時に、住宅などの類焼を防ぐのに、樹木の植栽は大きな効果を発揮します。

一般に、針葉樹より常緑広葉樹が効果が高い。

場　所	植　　栽	樹　　種
防　火　樹	火の粉を防ぐのを除き、輻射熱を防ぐ場合をあげる。樹体が直接火焔に接しなければ発火しないような樹種で葉が密生し、葉が多肉で水分が多いもの、常緑で葉の細いもの。	(針) イチョウ、イヌマキ、コウヤマキ、ラカンマキ、(広) アオキ、カシ類、キョウチクトウ、サカキ、サザンカ、サンゴジュ、シイ、ツバキ、モクセイ、シイノキ、ヤツデ、ユズリハなど

(8) 日陰棚用樹

つる性植物をはわせて日陰用棚をつくり、庭に憩いと潤いのある場所を創り出す。樹種は果実のなるものがよい。

場　所	植　　栽	樹　　種
日陰棚用樹	夏に枝葉が密生し、十分に緑陰を与え、できれば花、果実のつくものが望ましい。冬は落葉するもの。	フジ、ブドウ、アケビ、ツルバラ、ノウゼンカズラ、ヒョウタン、ヘチマなど

(9) 緑陰樹

道端や人の集まる場所に植栽された樹は、人々にやすらぎや潤いを与え、とくに夏は日陰をつくり休息場所となります。

場所	植栽	樹種
緑陰樹	夏は涼しい陰を、冬は暖かい日光を妨げない樹種がよい。また大木になり、生育が盛んで、多少根元を踏まれてもいいもの。	イチョウ、アオギリ、フウ、エンジュ、カエデ、カツラ、ケヤキ、サクラ類、シダレヤナギ、プラタナス、トウカエデ、トチノキ、ホオノキ、ニセアカシヤなど

(10) 神社に多く使われる樹

場所	植栽	樹種
神社に多く使われる樹	神社は雰囲気が静寂、荘厳のなかで神々しさがあり、明るさよりむしろ重厚な暗さ、神秘なものがよい。本殿周辺は常緑樹とする。落葉樹や花木は避ける。	(針) スギ、イチイ、アカマツ、クロマツ、イチョウ、コウヤマキ、ゴヨウマツ、カヤ、モミ、ラカンマキ、(広) アカガシ、イヌツゲ、ヒサカキ、サカキ、サザンカ、シイ、シヤリンバイ、シラカシ、ソヨゴ、モッコク、ウメ、サクラ、カエデ、ケヤキ、フジなど

(11) 有毒植物

種類	部分	成分
キョウチクトウ	葉	―
シキミ	実	アニザチン
コブシ	果実	エゴサポニン
ドクウツギ	実、種子	コリアミルチン、ツチン
レンゲツツジ	茎、葉	コリアミルチン
アオキ	実	アウクビン

⑿ 小鳥食餌樹

小鳥は蜜を求めるもの（メジロ、ヒヨドリ）、花粉を求めるもの（メジロ）、実を求めるもの（殆どの小鳥）などがある。

場　　所	樹　　種
小鳥の好む樹	イヌツゲ、グミ、サンゴジュ、ソヨゴ、ナンテン、ヒサカキ、ウメモドキ、エゴノキ、ガマガミ、エノキ、コナラ、コブシ、サクラ、ナナカマド、ミズキ、ノブドウ、ムラサキシキブ、ノイバラなど

Q&A

Q、ハイビスカスの鉢を買ったのですが、どういう点に気をつけて管理すればよいか教えて下さい。

A、この樹は、熱帯性の植物で、赤、黄、白など鮮やかな色の花をつけます。意外に丈夫で管理も簡単です。

買ってきたら日当たりのよい場所におきます。水やりは鉢土が乾いたら鉢底から流れ出るくらいたっぷり与えて下さい。

4～9月まで枝が伸びますから、株の弱らないうちに月1回油粕を表面にやりましょう。またこの期間中は鉢を外へ出して十分日光を与えることが、よい花をつけるコツです。

鉢植えのハイビスカスは、芽がでる前に枝を整理しますと、小ぶりで形のよい株になり花つきもよくなります。

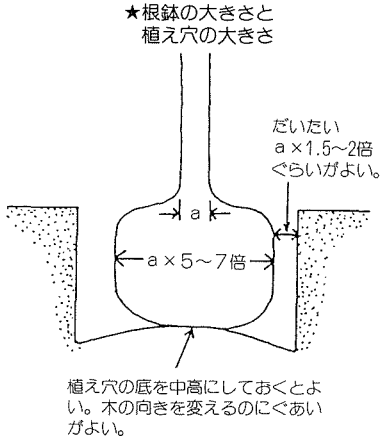
このとき、切り落とした枝を挿し木すると簡単に根がつきます。

5 これだけは知っておきたい

(1) 植え方

ア、植え穴の準備

植え穴は、前もって植える木の種類や大きさ、場所が分かっていれば、5～7日前頃に準備しておきたいものです。植え場所を除草し、根鉢の大きさより深く掘り返し、さらに2～3倍の広さによく耕して通気性や保水性をよくしておきます。とくに通気、排水の悪い粘土質の場所に、植え穴の分だけ小さく掘りますと、降雨量の多いときに穴に水が溜まることになります。湿気を嫌う花木類などは根ぐされの原因になりますので、このような場所は、周囲を広く耕し、浅めに広く盛り土状に植えて排水をよくするようにします。

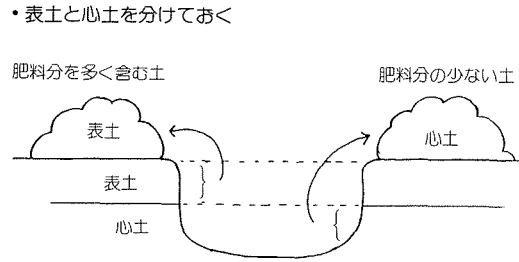


・植え穴の大きさ

植え穴の大きさは、植え方の良否と同様に、その後の生長に大きく影響します。植え穴は直径、深さともに、根鉢または根張りの約1.5倍ぐらいの余裕をもった大きさに掘ります。また、木の種類によって浅根性のもの、深根性のものがあります。浅根性のものは浅く広く掘り、深根性のものは深めに掘ります。

・表土と心土を分けておく

植え穴を掘るときに注意したいことは、表土には肥料分を多く含んだ肥えた土を用います。深くなるにつれて肥料分が少なくなるのが普通です。植え付け時にややもすると、表土が穴の底に埋め戻され、逆に心土が、新根が伸びようとする周囲に戻されることになりがちです。そこで掘るときは表土と心土を植え穴周囲に区別しておくことが大切です。また、生育の障害となるがれきなども取り除きます。



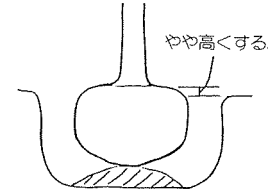
イ、元肥の準備

一般に庭の土は山

砂を入れることが多く有機質が少ないので、植え穴には肥料を入れて立派に育つようにします。元肥として、堆肥、腐葉土、油粕、骨粉などの有機質肥料を心土に混ぜて埋め戻します。２ｍ前後の苗木ではバケツ２杯程度の堆肥を混ぜたいものです。

ウ、苗木の根ごしらえ

植え付けする前には、根ごしらえといって、根鉢の外に出て枯れている根や傷んだ根先を切り戻したり、切り口の古い根も切り直すことによって根の腐りを防ぎ、たくさんの新根を早く発生させることができます。また店先で根が乾いていたものは、いったん水の中に30分程度浸してから植えます。



鉢植えのものを植えるときは、鉢まわりの細根をほぐし、少し切りつめます。また、庭の土と全く違う用土（鹿沼土やピートモス）で育てられていた株は、その用土をていねいに落として植えると生育がよくなります。

エ、植え込み

植え込みの深さは、元の場所にあった状態と同じように植えることが大切です。浅すぎたり、深すぎたりしないようにします。根鉢の大きさに応じて植え穴の中央に盛り上げるように土を入れます。

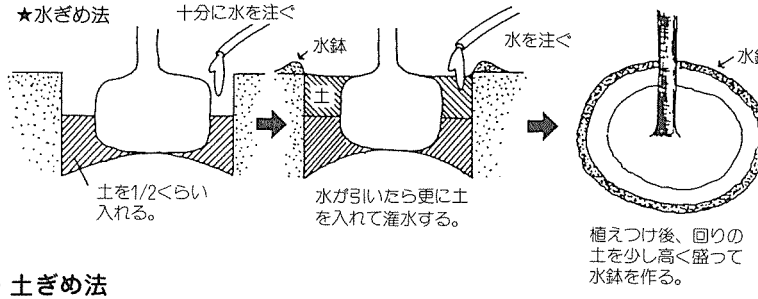
植え付け当時は浅く植えたつもりでも、時が経つにつれて植え穴が沈み、逆に深植えの状態になります。“深植えが一番悪い”ため、元の地面より少し高く盛り土状になるようにします。

オ、水ぎめ法と土ぎめ法

植え込み方には、水ぎめ法と土ぎめ法の二つの方法があります。

・水ぎめ法

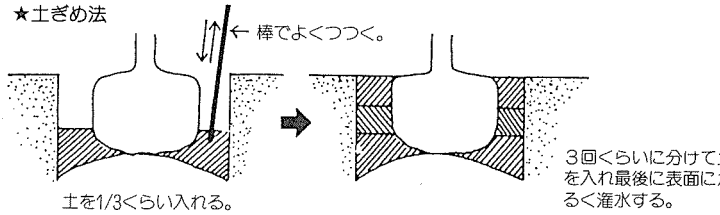
植え穴の中に根鉢を入れ終わったら、根巻きのワラなどを根鉢をくずさないようにていねいに取り除きます。根鉢の周囲に穴の深さの1/2～2/3程度土を入れその上に水を十分注ぎ、水が吸わないうちに、直径３㎝ぐらいの棒で根鉢のまわりをよく突きます。よく突かないと底に水がたまり根から腐ったりします。また、この時根鉢が割れない程度に幹を少しゆり動かし、どろどろの土がむらなく根のまわりに行きわたるようにします。泥水が吸収されたらまた細土を入れ、水を注ぎ、棒で突く作業をくり返して地表まで埋め、根鉢の上をさけて軽く踏みます。このように水を使って植える方法を「水ぎめ法」と呼んでいます。



・土ぎめ法

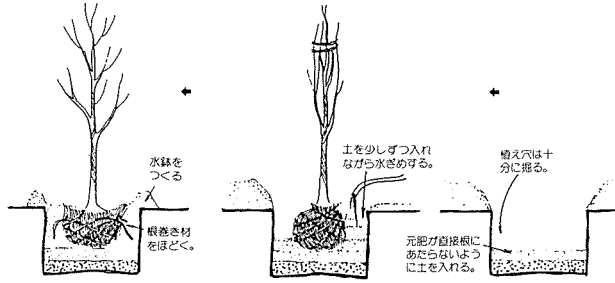
土ぎめ法は水を注がず、細土を棒で突きながら２～３回に分けて埋め戻す方法で、最後まで水を使わないのが「土ぎめ法」です。一名「からぎめ」とも呼ばれています。この方法は水ぎめで植えると葉が落ちてしまうナンテンや、水を嫌うマツ類、ジンチョウゲなどに行います。

なお、ツツジ類のように根が特に細い種類に対しては、根に付いている土をよく落としてから植えた方が生育がよくなります。



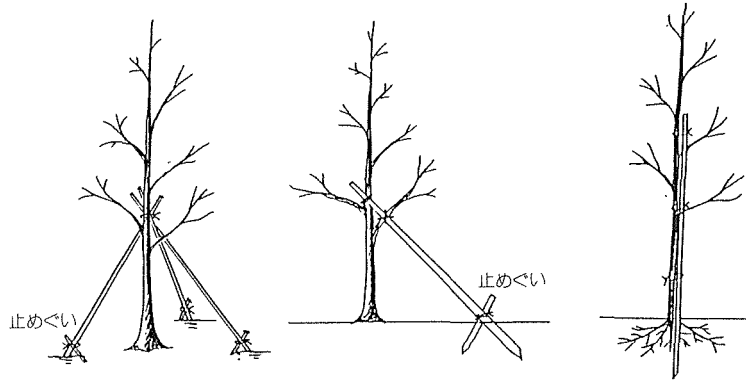
カ、水鉢

いずれの方法で植えても、最後に根鉢の外周に沿って適当な幅で浅い溝を掘るか、あるいは木の根元を平らにしながら根鉢の外周に沿って円形に土を盛り上げて、十分に潅水をします。このように溝をつくることを水鉢を切るといい、雨水や潅水が集まり、浸透しやすく根の吸水を助けます。この水鉢は活着するまでの１年間はつくっておきます。



キ、支柱

植栽された木が強風などでゆり動かされたり、倒れたりしないように支柱を取り付けます。植え付け当時は、ゆれ動いて根と土が離れたり、新しい根が切れたりしますので支柱で固定してやります。苗木のときは根元にしきわらをして保護をしてやります。また、支柱と幹との間に傷がつかないように割り縄をするか、杉皮をはさんで結ぶようにします。



(2) 整枝、せん定

ア、整枝、せん定の目的

庭木は実用または観賞に供するために庭に植えられるもので、放任すると茂りすぎて、樹形が乱れたり、病虫害にかかりやすくなったりしますので、人為的整枝・せん定が必要となります。整枝・せん定は、主として枝を切り取る作業で、次の二つの目的のために行います。

・美しい樹形をつくる

庭に植えられた時の木は、まだ完成された美しい樹形になっていないので、こみすぎた枝など不必要な枝葉を切り取り、今後健全な生育をするようにします。

・美しい樹形を保つ

ある程度の大きさに生育し、その木の美しさが十分発揮されるようになれば、生長を抑制し、美しい樹形をいつまでも維持するようにします。

イ、せん定の時期と花芽分化

わが国のように四季のあるところでは、庭木の生育状態が気候に応じて違います。一般に３～４月頃から生長がはじまり、６～７月頃に最も盛んとなり、秋～冬にかけて生長が停止します。ところで、せん定は葉という光合成に必要な大切な栄養器官を切り取ってしまいますので、この生育状態に合わせて行わないと、樹勢を弱め、ついには枯らしてしまうことにもなりかねま

せん。つまり、せん定には行ってよい時期があるわけです。

しかし、厳密には各樹種によって生育が違うので、せん定の適期も少しずつ違うはずですが、実際の作業では、最も共通した適期を選んで行うようにしています。

- 針葉樹は、11月から翌年３月頃までの生育が停止している期間内のうち厳冬期をさけた時期。
- 常緑広葉樹は、春から伸びた芽が固まる梅雨時期と、夏になって生育をはじめた芽（土用芽）が固まる９～10月頃。
- 落葉樹は、落葉した後の11月から翌年３月までの休眠中と、新芽が固まり葉の生育が一段落した７～８月頃。

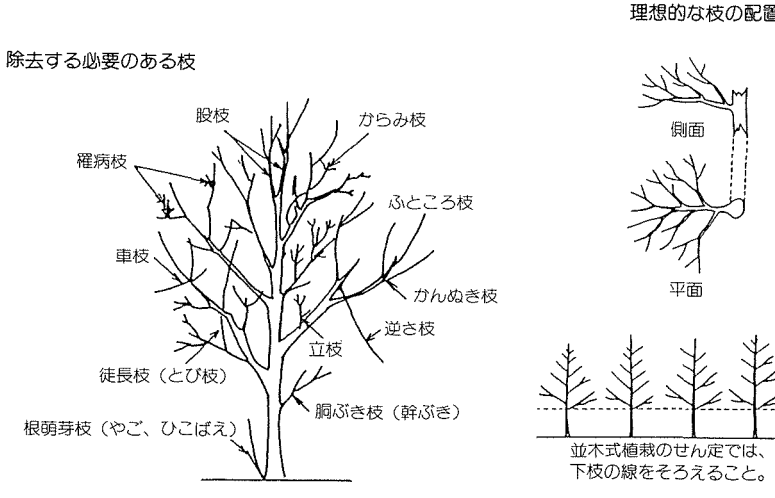
以上がそれぞれの適期になりますが、花を主に観賞する花木では、放任しますと花のよく咲かない年があったりします。そこで花木のせん定時期は、花芽の分化時期がいつ頃であるかを知り、栄養生長と生殖生長とのバランスをコントロールすることが大切な条件になります。

ウ、基本的にせん定すべき枝

せん定に当たっては、各樹種に共通してせん定しなければならない基本があり、次のような枝は原則的に取り除くものです。

せん定すべき枝

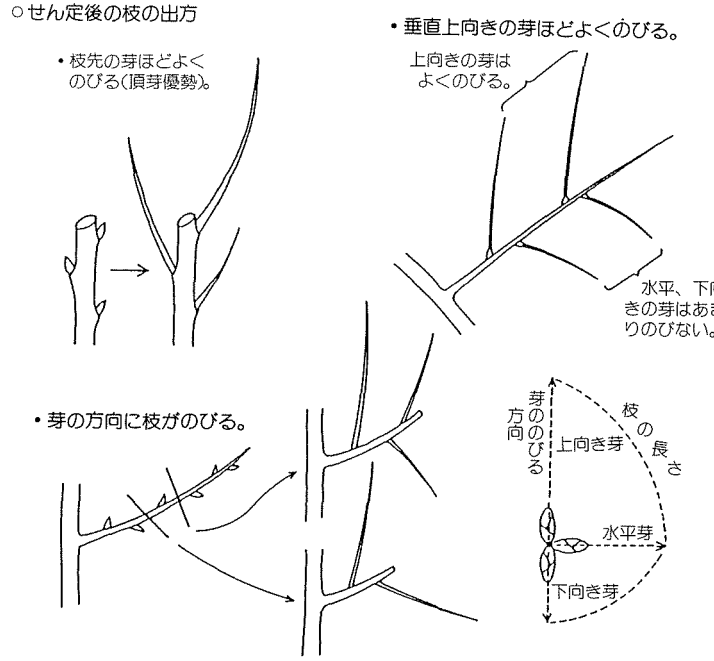
- 平行枝…どちらか片方を切り戻します。
- 交差枝…主要な枝と交差している枝は切ります。
- 幹ぶき枝・ひこばえ…放任すると幹先が弱るので元から切ります。
- 逆枝…腹切り枝ともいい、マツ、ウメなどを除いて普通は切ります。



- 車枝…数を少なくしてすっきりさせます。
- かんぬき枝…樹種によって一方を切ることもあります。
- さし枝…目の高さより正面に長く突き出した枝をいい、切り戻して方向を変えます。
- 枯れ枝…ウメ、ウメモドキなどと風情のある木はほどほどに残します。
- 立ち枝・徒長枝…不用なときは元から切り、必要なときは切り戻します。
- 下垂枝…切ります。
- その他…枯れ枝、病気の枝、折れた枝は切ります。

エ、せん定とその後の枝の出方

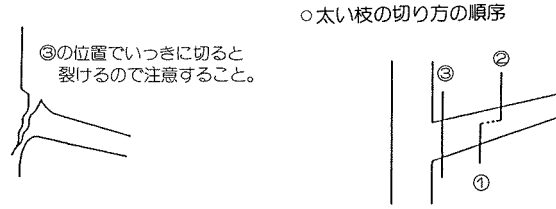
せん定するということは、せん定直後の樹形、枝ぶり、花つきを決定すると同時に、その後の萌芽として生じる新しい枝の出方、方向、長さ、太さ、つまり樹形、枝ぶり、花つきにも強い影響があります。このように木のもっている基本的性質を理解して、いつも現在と将来の枝の姿を同時に考えてせん定しなければなりません。

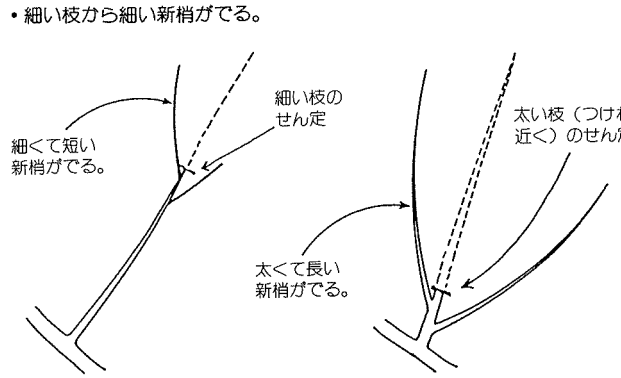


オ、強いせん定と弱いせん定

強いせん定の場合には、つぎのような点を考慮しなければなりません。

- 必ず反発して勢いのよい枝が出るので（樹勢の回復につながる。）、ヤナギ、カエデなどのように柔らかい感じの樹形を望むものはできるだけ避けます。
- 広葉樹類は、時期を誤らなければ、１枚の葉も残さずにせん定しても不定芽が出て回復しますが、針葉樹類は、不定芽が大変出にくいので、必ず各枝に葉を残すようにしなければなりません。





カ、主な樹木のせん定例

花芽のつくられる時期を「花芽分化期」といい、年によってさほど変化するものではありません。主として早春から初夏にかけて開花する花木は前年の夏に花芽がつくられ、また、夏から秋にかけて開花する花木は春から伸びた新枝に花芽がつくられます。花木のせん定は、花芽が、いつ、どのような枝に、どの位置につくられるかという着花習性を知っていないと、せん定の時期や方法を誤り、花芽のついた枝を切ってしまったりしますので注意が必要です。

キ、基本樹形例

- 前年枝の先端に花芽がつき、開花し、先端に花をつけて、開花直後にせん定します（アジサイ、ハコネウツギなど）。
- 今年の新枝に花芽をつけ、年内のうちに開花するものは、秋から翌春の萌芽前までにせん定します（サルスベリ、ムクゲ、キンモクセイ、キョウチクトウ、ナツツバキ、アベリア、ハギなど）。
- 今年の新枝の先端が花芽になり、翌年の春に開花するものは、開花直後にせん定します（ツツジ類、モクレン、コブシ、ハナミズキなど）。
- 今年の新枝の先端からつけ根近くまでの葉腋に多くの花芽をつけ、翌年その位置で開花するものは、開花直後に長い枝を選んで切り戻すようにせん定します（ウメ、ハナモモ、レンギョウなど）。

かむろ(禿)づくり

モチノキ
カシ類
モクセイ

曲幹づくり

マツ
イチイ
ツゲ類

卵円形づくり

カイズカイブキ
ヒバ類

円蓋づくり

クスノキ
カシ類
モクセイ

段づくり

モチノキ
ヒバ類
ツゲ類

しだれづくり

サクラ
ヤナギ

円筒形づくり

モクセイ
ヒバ類
カシ類
ツバキ
ヒイラギ

円錐形づくり

カイズカイブキ
ヒバ類
スギ
コニファー類

玉散らしづくり

カイズカイブキ
ヒバ類

株立ちづくり

雑木類

武者立ちづくり

雑木類

玉づくり

ツツジ類
ツゲ類
クチナシ

ク、花芽の分化

花は、咲く時期がくれば必ず咲くものではなく、開花以前の花芽があることが必要です。花芽の分化には日照時間の長短や気温が関係しています。樹種によって異なるので、熟知して整枝、せん定をします。

主な樹種については、下記の表のとおりです。

主要花木の花芽分化期と着花習性

種　類	花芽分化期	着花習性	開花期
ハクチョウゲ	3月下	新梢頂芽、短い側枝の頂芽	同年5～6月
ザクロ	4月中	新梢の側芽の頂芽	〃 7～8月
アベリア	4月下	新梢の頂芽とこれに次ぐ腋芽	〃 7～9月
ムクゲ	〃	新梢の腋芽	〃 7～9月
ハクモクレン	5月中	新梢の頂芽	翌年3～4月
カリン	5月下～6月上	新梢の腋芽	〃 4月
フジ	5月下～6月下	新梢の腋芽開花枝の基部	〃 4～5月
ヒイラギモチ	6月中	新梢の中部以下の腋芽	〃 4月
ヒュウガミズキ	〃	新梢の腋芽	〃 3～4月
サクラ類	6月下～7月下	新梢の腋芽花束状短枝	〃 4～5月
シャクナゲ	6月下～7月下	新梢の頂芽とこれに次ぐ腋芽	〃 4～5月
サザンカ	6月下～8月上	〃	同年10～12月
ツツジ類	6月下～8月中	新梢の頂芽	翌年3月～4月
ツバキ	6月上～9月上	〃　とこれに次ぐ腋芽	〃 3～5月
レンギョウ	6月下	新梢の腋芽	〃 3～4月
ジンチョウゲ	7月上	新梢の頂芽	〃 3～4月
ハナズオウ	7月上	新梢の腋芽	〃 4月
ウメ	7月上～8月上	〃	〃　〃
ボタン	7月下	開花直下の腋芽	〃 4月
カイドウ	7月下～9上	新梢の腋芽	〃 4月
クチナシ	〃　〃	新梢の頂芽	〃 5～6月
キンモクセイ	8月上	新梢の腋芽	同年9月～10月
ドウダンツツジ	〃	新梢の頂芽とこれに次ぐ腋芽	翌年3～4月
アセビ	8月中	〃	〃　〃
ボケ	9月上	2年枝の腋芽	〃 2月～3月
ユキヤナギ	9月～10上	新梢の腋芽	〃 3月～4月
アジサイ	10月上・中	新梢の頂芽とこれに次ぐ腋芽	〃 6～7月
コデマリ	10月上	新梢の短い側枝の頂芽	〃 4月～5月
エニシダ	10月下	新梢の腋芽	〃 4月

(3) 病虫害の発生と防除

冬が過ぎ、日中気温が上昇し、新芽が動きはじめると、越冬中であった病原菌や害虫類が休眠からさめて一斉に活動を開始しますので、これら病害虫の被害を最小限度に食い止めることが大切です。

ア、樹木の異常を早く発見しよう

日常庭木をみて、「どうもおかしいな」と気づいたら、その樹が病虫害に侵されていると診断してよいと思います。

(ア)症状別の主な病害

症状	病名
葉の変色や斑点のできるもの	褐点病、褐斑病、もざいく病、さび病、葉枯病など
落葉するもの	葉ふるい病、落葉病など
葉が変形するもの	もち病、うどんこ病、とうそう病、ビロード病など
枝や幹が枯れるもの	枝枯病、胴枯病など
枝や幹から樹脂が流出するもの	樹脂病、樹脂胴枯病、樹脂溝腐病など
枝か幹が変形するもの	こぶ病、こうやく病、がんしゅ病、帯化病、てんぐす病など
根の病気	白紋羽病、紫紋羽病、ならたけ病など
菌床の病気	立枯病、根くされ線虫病など

ツノロウカイガラムシ

マツノザイセンチュウ

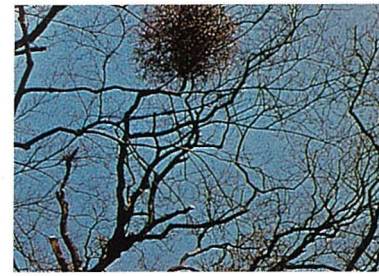
モンシロドクガ

チャドクガ

マイマイガ

ハダニ

すす病



やどりぎ病

こぶ病

マツ葉ふるい病

もち病

赤星病

(イ)加害部分と主な害虫

区　　分	害　　虫　　名
葉を食う虫	ケムシ、イモムシ、アオムシ、イラムシ、ハムシ、ミノムシ、コガネムシ、ハバチなど
葉をつづる虫	ハマキガ
葉から樹液を吸う虫	アブラムシ、カイガラムシ、グンバイムシ、ハダニ
葉を潜る虫	ハモグリガ、ハモグリタマバエ
葉を縮ませる虫	アブラムシ
葉にコブをつくる虫	タマバエ、タマバチ、アブラムシ
新梢や芽に潜る虫	シンクイムシ、キクイムシ、メムシガ、タマバエ、ハムシ
新梢や芽をかじる虫	コガネムシ、カミキリムシ、ゾウムシ
新梢や葉から樹液を吸う虫	アブラムシ、カイガラムシ、キジラミ

(ウ)根、枝、幹などに害を加えるもの

区　　分	害　　虫　　名
枝や幹に潜る虫	キクイムシ、ナガキクイムシ、カミキリムシ、ゾウムシ、タマムシ、キバチ、コウモリガ、コスカシバ、カワモグリガ
枝や幹から樹液を吸う虫	アブラムシ、カイガラムシ
根をかじる虫	コガネムシ、ヨトウムシ
根に潜る虫	キクイムシ、カミキリムシ
根から樹液を吸う虫	ワタムシ、ネカイガラムシ
根にコブをつくる虫	ネコブセンチュウ

イ、病虫害の防除

防除という言葉には予防と駆除の意味があり、被害をなくすということには予防も駆除も違いはありませんが、防除の考え方として、二つの言葉の意味を知っておくことが被害防除に役立ちます。

病虫害が発生したらなんでも薬をかけるというのは誤りで、例えば、伝染源となる病苗、病株、病葉などの焼却。２種類の植物の間を往復するさび病では、中間宿主を除去する。また、ケムシなどは地上に落として踏みつぶしたり、卵塊やマユなどを集めて焼いたり、マツムケムシの越冬幼虫を集めるためのワラ巻きなどは、薬をつかわない防除方法であります。しかし、病虫害の大発生や被害の多い樹木には薬剤による防除が必要です。

薬剤には、殺虫剤、殺菌剤、殺そ剤、除草剤、忌避剤、植物成長調整剤などの種類があり、乳剤、液剤、水和剤、粉剤、粒剤、油剤など形態も異なっておりますので、目的にあった使い方が必要です。殺菌剤の多くは予防効果をねらったもので、治療効果をもつものが少なく、殺虫剤は駆除ということに重点がおかれています。

薬剤の使用にあたっては、容器などに表示してある適用病虫害、濃度、散布量などの使用基準を守るとともに、人畜に接する場所での使用が多いので普通物か劇物を用い、魚毒性についてもＡかＢランクの薬剤を使用することが基本です。

また、植物に対する薬害は、高温の時の散布、新芽が開く時の散布などによって発生しますので注意することが必要です。

Ｑ＆Ａ

Ｑ、カキは、豊作年と不作年があるのはなぜか、毎年平均的にならせるコツはないか。

Ａ、果樹は、放っておくと隔年結果になります。花木と違って、実を収穫するまで付けておくと、実より先え養分が届かないため、翌年実をつける養分を蓄えることかできず、一年休むことになります。カキの実を取るときは枝から折れというのは、枝をつけておいても翌年実がならないからです。毎年ならせるには、せん定によって、今年の結果枝と翌年の結果枝に分けて枝をつくります。枝が切れない場合は摘果します。

主な病虫害の特徴と防除法

病害名	被害の特徴	発生期	防除法
うどんこ病	マサキ、カエデ類、ハナミズキ、サルスベリなどの葉や新梢に白い粉状のカビが発生する。	5～10月	通風、日当たりを良くする。カラセン水和剤、マンネブダイセンM水和剤、トリフアミン水和剤などを月1～2回散布する。
さび病	一般に葉の表、裏面あるいは針葉上に黄色かさび色の粉を吹く。また、枝幹にこぶをつくるもの、黒色あるいは飴色のもの、寒天状に膨らむものなどさまざまである。	4月～6月	多くのさび病菌は、異なる二つの植物の間を往復して完成する。したがって、どちらかを抜きとる。たとえば、マツとブナ科の樹木、ナシとビャクシンとの間を往復。ダイセン水和剤、マンネブダイセンM水和剤、石灰硫黄合剤などを散布する。
すす病	モチノキ、クチナシ、カエデ類、サルスベリなどの葉や茎枝が黒色すす状物で覆われる。アブラムシやカイガラムシなどの排せつ物により発生する場合が多い。	7～10月	通風、日照を良くする、茎、枝ではブラシなどで菌体をこすり落とす。アブラムシやカイガラムシを防除する。
もち病	ツバキ、サザンカ、ツツジ類の葉、花、若芽全体もしくは一部が膨らんで、その表面が白粉に覆われ、もちが膨らんだ状態になる。	5～10月	病葉など見つけしだい除去し、埋めるか焼却する。Zボルドー、オキシボウルドウ、クリーングラス水和剤などを散布する。
こうやく病	ウメ、サクラ、マサキ、モクセイなどの枝や幹に褐色のビロード状の厚いカビの膜ができ、こうやくを貼ったようになる。	通年	通風、日照りを良くする。カイガラムシの排せつ物に依存して繁殖するので、カイガラムシを駆除する。樹皮に傷を付けないようにワイヤーブラシで菌の系膜をそぎ落とし、跡にトップジンMペーストを塗布する。
てんぐす病	サクラに特に被害が多く、マツ類、ツツジ類、キリなど多くの樹種の枝の一部から小枝を叢生し、てんぐす状になる。	通年	冬期から早春にかけて、被害枝の基部より下の健全部から切り取り、切口にトップジンMペーストを塗布する。被害枝は焼却する。
がんしゅ病と紅粒がんしゅ病	枝の基部や穿孔性害虫の食害痕などの傷口から発生し、傷を中心に樹皮が縦長の紡すい形に侵され、患部は年とともに凹み、同様に小さい紅色の顆粒状の菌体を形成し、春から夏には淡桃白色の塊状になる。多くの樹種に発生する。	通年	枝の場合は患部の下で切り取り、切口にトップジンMペーストを塗布する。この処理は開葉期直前から直後にかけて行う。
紫紋羽病	多くの樹種に発生する。根や地際部の樹皮表面に褐色の糸状かひも状の菌系束か網目状にからみつき、紫褐色に変わるとともにフェルト状になる。	通年	堀取りや移植時に土中の根片を残さぬようにする。発病枯死樹もていねいに堀り取り焼却する。跡地はカーバム、ブラシサイド、ユブトールなどを散布し、土とよく混和する。根の一部が侵されたときは病根を切り取り、切口にトップジンMペーストを塗り、土壌消毒し埋め戻す。

病害名	被害の特徴	発生期	防除法
アブラムシ類	ほとんどの樹木の葉や新梢に集団で付着し、樹液を吸収する。巻葉、虫こぶの原因にもなる。	4月～9月	少量であれば布などでつぶす。エストック乳剤、デナポン水和剤50などのほか、スミチオン乳剤、マラソン乳剤などを散布する。
カイガラムシ類	ほとんどの樹木につき、主として白色で、体表がロウ状物質や、粉状、ワタ状の物質で覆われている虫で、幹枝、葉に付着している。樹液を吸収し、すす病の原因になりやすい。	5月～9月	少量であれば、ハブラシ等でかき落とす。発生初期にカルホス乳剤、スプラサイド乳剤40、スミチオン乳剤などを散布する。冬期には機械油乳剤を散布する。
ケムシ・イモムシ類（蝶・蛾の幼虫）	葉を食う害虫で、ほとんどの樹木に発生する。長い毛で覆われているもの、毛のないもの、尾角という突起があるものなど、種類が多い。アメリカシロヒトリの幼虫は年2～3回発生する。	5月～10月	効果のある殺虫剤の種類が多い。なかでもデイプテレックス、スミチオン、カルホス、オルトランなどの乳剤、水和剤または粉剤が有効である。
ハダニ類	ほとんどの樹木につき、主として赤色のダニが葉から樹液を吸収する。葉色があせる。また1年に数回程度の発生を繰り返す種類が多い。	4月～10月	エストック乳剤、ケルセン乳剤、アカール粉剤、DN粉剤などを散布する。低木の場合には、ダイジストン粒剤、エカチンTD粒剤を土中に混入する方法もある。
ハマキムシ類	小型の蛾類の幼虫で、ほとんどの樹木につき、葉を捲いたり、細枝の間に糸を張って葉を食うものなど種々の加害形態がある。	5月～10月	葉をつづった虫を捕殺する。デナポン水和剤50、デイプテレックス乳剤、カルホス乳剤、スミチオン乳剤などを散布する。
グンバイムシ類	ツツジ類、サクラ、ヒメリンゴなどにつき、成虫は軍配形で、幼虫は暗色で体にトゲがある。被害葉はカスリ状に白く斑点状の穴があき、裏面に黒いフンが付着している。	5月～9月	盛んに加害している5～6月に、スミチオン乳剤、マラソン乳剤、デス75などを散布する。
カミキリムシ類	多くの樹木につき、幼虫は樹皮下を食害し、成熟すると材中に入り、樹皮にあけた穴からは、長い繊維状の木屑を出す。	5月～9月	幼虫がふ化した直後に、スミチオン乳剤、バークサイドEを樹幹に散布する。木屑を見つけたら穴に、スミチオン乳剤、DDVP乳剤などの濃厚液を浸した綿をつめ、あとを土でふたをする。
コウモリガ類	多くの樹木の幹や太枝に潜り、周囲を輪状に食害し、フンと木屑を糸で綴って穴から出す。	6月～9月	5月中旬頃までに、幼虫が潜っているヨモギなどの雑草を取り除き、その痕にデイプテレックス、スミチオンなどの粉剤を散布する。木屑を見つけたら、カミキリムシと同様に駆除する。
コガネムシ類	幼虫は植物の根を食い（ネキリムシ）、成虫は葉を食う。成虫は主として、夜間に活動するので、被害の割りに虫が目につきにくい。	6月～10月	幼虫には、ダイアジノン微粒剤F、トクチオン微粒剤Fを土壌混和する。成虫には、スミチオン、デナポンなどの粉剤、水和剤を散布する。

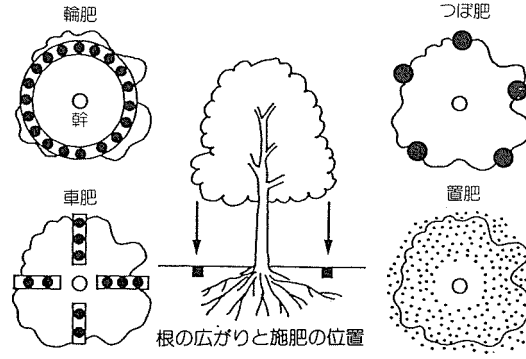
(4) 肥料のやり方

ア、施肥の方法

一般に樹木に施肥が必要な場合は、苗木の頃、花や実のつく時期の前後、整枝やせん定や刈り込み後、そして移植後などです。しかし、不用意な施肥を行うとかえって栄養バランスが乱れ崩れ、樹勢が衰えたり、病気の発生を助長することになります。したがって、樹木の成長の具合いや葉色などから判断して施肥することが大切です。

通常は“寒肥”か“お礼肥”程度にとどめておくのが無難です。寒肥とは、晩秋から冬にかけての成長休止期に行う施肥で元肥のことです。この時期ですと多少濃いめの肥料を施しても根を痛めることが少なく、雪解けの春になってから徐々に効き始めるという利点があります。寒肥として使用する肥料は、土や樹木によっても考慮する必要がありますが、堆肥や油かす、魚かす、骨粉などの有機質肥料がよく用いられます。化学肥料は堆肥と混ぜて施します。お礼肥は、花や実をつけたあとの樹木に、元気のよい花芽をつかせてやるための追肥のことをいいます。

施肥のやり方は、幹の直径の3～5倍離れた枝先の位置に円周の溝を掘って与える方法が一般的で“輪肥”と呼んでいます。このように土を堀り返して行う施肥法には、幹のまわりに放射状に行う“車肥”、枝先の位置の数カ所に穴を掘って行う“つぼ肥”があります。また、穴を掘らずに幹から枝先までの全面に撒くやり方を“置肥”といいます。このように施肥にはいろいろな方法がありますが、土の状態や樹種や樹木の大きさ、成長の具合などを考慮して適当な方法を選択します。



いろいろな施肥のやり方

イ、肥料の要素

植物が必要とする要素のうち、チッ素、リン酸、カリは多量に吸収され、土中では不足しやすい。このことから肥料の三要素と呼び、カルシュームを加えて四要素とも呼ばれます。

鉄、マンガン、ホウソなどの微量要素は自然にある量でまにあいますので、一般には施す必要はありません。

ウ、肥料の種類

含有成分、形態、性質などにより、肥料はいろいろに分類されます。

有機質肥料は、動・植物が原料となっている肥料で、堆肥、鶏糞、牛糞、油粕などがあります。これらは、土中で腐敗分解して土中に吸収されるので、肥効のでるのが遅いが肥効期間が長い。

多少施用量が多くても根を痛めるようなことはない。土壌の団粒化に効果があります。

無機質肥料は、化学肥料とも呼ばれ、チッ素、リン酸、カリの一つの成分のみを含む単肥と２成分以上含む複合肥料とに分けられます。

また複合肥料には３要素によるものと、３要素と微量要素を加えたものがあります。また、そのほかに葉面散布肥料があります。

Q＆A

Q、真夏の日中に頭から水をやれば、葉焼けを起こすといいます。本当でしょうか。

A、鉢物は、夏の日盛りに頭から水を与えるとよくないといわれていますが、それ程確かな根拠はない。

葉の先端に止まった水滴がレンズの役割をして、葉焼けを起こすといわれるが、それ程の根拠はないようです。

露地植えの庭木など、日中雨のあと焼付くような強い光を浴びても、それがもとで葉焼けを起こしたことはあまり聞いたことがない。

それより、少量の水を与えて、それが鉢の中でお湯のような熱湯になり、根がやられてしまうことになるのではないかということです。水を与える場合は、十分に与え、鉢中の温度が下がるくらいたっぷりとした水やりが大切です。

●市販されている主な肥料

		肥料名	成分含有率(%) N	P	K	特徴と使い方
有機質肥料		油粕	5	2	1	リン酸肥料、カリ肥料を併合する。未熟なものは使用不可。
		鶏糞	4	2	1	元肥とする場合は植付け1週間前までに施す。石灰との混合不可。
		米糠	2	4	1	チッ素肥料、カリ肥料を併合する。施用前に水を加えておくとよい。
		骨粉	4	20	—	チッ素肥料、カリ肥料を併合する。
		魚粕	8	3	—	油粕と同じ。
		発酵油粕	4	6	2	油粕と同じ。多少使いすぎても無害。
無機質肥料	単肥	硫安	21	—	—	アルカリ性肥料と混用しない。大量使用すると障害がでるので注意。
		尿素	46	—	—	大量使用は不可。葉面散布に用いてもよい。
		過リン酸石灰	—	17	—	堆肥などに混ぜて施す。尿素、草木灰、消石灰との混用は不可。
		熔成リン肥	—	20	—	火山灰土のリン酸補給に好適。アンモニアを含む肥料との混用不可。
		硫酸カリ	—	—	50	カリ分の少ない有機質肥料と併合する。大量使用は不可。
		草木灰	—	3	6	酸性土壌改良によい。アンモニアを含む肥料とは混用しない。
	化成肥料	ファミリー化成	15	15	15	高度化成肥料。草花、野菜に。微量要素は含まない。
		エードボール	12	12	12	高度化成肥料。草花、野菜、鉢物に。肥効期間は2～3か月。
		マグアンプK	6	40	6	低度化成肥料。鉢物の元肥に好適。肥効期間は2～3か月。
	配合肥料	ハイポネックス	6.5	6	19	1000倍くらいに薄めたものを液肥として鉢物に。
		プラントフッド	12	12	16	ハイポネックスと同じ。
	液体肥料	エード	10	12	8	草花、植木、花木、芝生に。
		エードF	5	5	5	葉面散布肥料。草花、観葉植物に。
		ローンフラワーS	8	6	6	観葉植物、野菜、植木、花木、果樹、芝生に。
	固形肥料	ガーデンキングSB	6	5	5	豆炭状。植木、花木に。
		リピート	5	30	20	棒状。鉢物専用。肥効期間は約2か月。
	石灰質肥料	苦土石灰	—	—	—	酸性土を中和する場合に使用する。植付け1週間までに施すこと。
		消石灰	—	—	—	苦土石灰と同じ。
有機配合肥料		花の友	6	6	6	草花、野菜に。元肥とするときは堆肥や腐葉土に混ぜて用いる。
		有機園芸肥料	9	9	9	草花、野菜に。鉢植には追肥として置肥する。
		完全配合肥料	7	6	5	草花、野菜に。肥効期間は2か月。

(5) 庭木の防寒と雪囲い、雪吊り

ア、雪害防除の目的

庭木の防寒、雪囲い、雪吊りは、冬の寒さや雪害から大切な庭木を守るために行うものです。

北陸地方独自の冬の風物詩として、人に見せるための防寒や雪囲い、雪吊りがあります。代表的なのが金沢の兼六公園です。

しかし、最近ではどこの家庭でも素晴らしい雪囲いや、雪吊りを見ることができますが、これには多くの材料費や労力が必要となります。

イ、防寒

防寒は寒さに弱い植物を、冷たい寒気から守るために行われるものです。主として、ソテツ、ドラセナ、ユッカランなどの特殊樹木、クチナシ、柑橘類など比較的寒さに弱い植物に対して行います。また、サザンカやベニカナメなど秋に植え付けた場合は、その年の冬だけでしっかりと防寒をしてやる必要があります。

寒ボタンやツバキの開花株でも同様に防寒をしてやります。

ウ、雪囲い

雪囲いは、比較的背丈の低い庭木に対して行われるもので、数本の支柱を添えたり、あるいは枝葉をそのまま抱え込むようにして、結びつける方法があります。

多くの荒縄を使って素晴らしい雪囲いの仕方がありますが、雪の降る前のわずかな期間しか観賞することができませんので、早いうちに手がけて北陸ならではの情緒を楽しみたいものです。

エ、雪吊り

雪吊りは、クロマツ、アカマツ、ラカンマキなどの樹高の大きいものについて行う方法です。支柱に丸太などを使い、荒縄を放射状に広げて枝を吊り上げて雪の重みから枝折れを防ぎます。

オ、必要資材

(ア)支柱……丸太、丸竹、割り竹、カラー鋼管

(イ)縄……荒縄（2分、2.5分、3分）、シュロナワ、ビニール紐

(ウ)防寒具…荒ムシロ、寒冷紗、ススキ、ヨシ、稲ワラ

(エ)その他…三脚、脚立、木づち、テコバール（1.5m位のもの）植木ハサミ、せん定ハサミ、刈り込みハサミ

カ、樹種別の防寒、雪囲い、雪吊りの仕方

(ア)**合掌型**　サツキ、玉イチイなどを列植した場合に用いられる方法で、骨支柱は丸竹を利用し、横縄で枝葉の垂れ下がるのを防ぐと同時に、工夫を凝らして見た目に美しいものとする。

(イ)**藁保温囲い**　ソテツ、ヤシなどの防寒の必要な樹種を篠竹か割竹を４～５本添え、まとめてからワラで覆う。最初下部を地際で折曲げて円形に敷きつめ、基部をシュロ縄で結ぶ。その上部を１カ所結び、それが見えない程度に次のワラを重ねて結ぶ。以後同様に繰り返し、最後に傘状に編みこんだワラボッチをかぶせる。

(ウ)**莚保温囲い**　モッコク、ベニカナメの苗木や、クチナシ、柑橘類など初冬に植え付けたような庭木の保護のため、三脚を組み、その周囲に荒ムシロなどを巻く。特にモッコクの苗木などは、冬期枝に弾力がなくなり、わずかな積雪でも枝折れがする。

(エ)**円錐型**　三脚を組み、さらに縄で縛るのはタギョウショウ、コニファー、アオキなどに多く用いられる方法です。

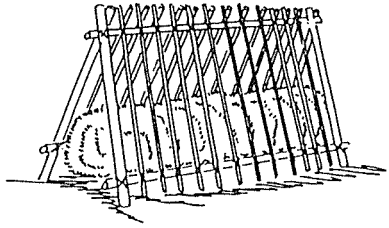
(オ)**縄締付**　コノテガシワ、ヒムロスギ、ヒバ類などの２～３ｍの高さの庭木に対して多く用いられる方法で、縄でグルグル巻きあげる場合と、３～４カ所を結わえる場合とあります。比較的横幅のある木に適します。

(カ)**小しぼり**　アオキ、コデマリ、シモツケ、ヤツデ、ドウダンツツジなど低木類に用いる最も簡単な方法です。

(キ)**三又締付**　３本の支柱を添えたものです。やや背の高い常緑樹に用いられる方法で、積雪の重みから倒伏するのを防いでくれます。

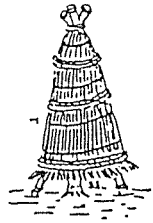
(ク)**添しぼり**　横幅のあるものに対して行われますが、この方法は細長いものについて行います。支柱を１本土中にしっかり差し込み、縄で数カ所縛るかグルグル巻にします。

(ｱ)合　掌　型

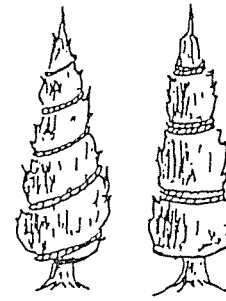


(ｲ)藁保温囲い

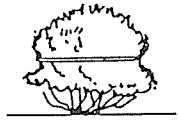
(ｳ)莚保温囲い



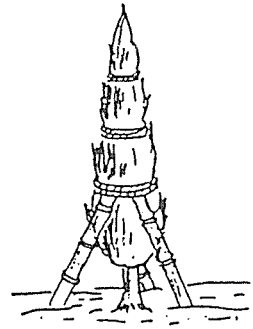
(ｴ)縄締付



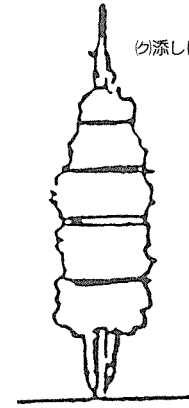
(ｵ)小しぼり



(ｶ)三又締付



(ｸ)添しぼり



(ケ)**竹支柱、縄しばり**　公園、公共緑地などで玉物、低木類を数本寄せて植え付けられている場合に、まとめて雪囲いをするのに用いられる方法です。株元は、縄で2巻ほどするか、割竹で囲むとよい。

(コ)**棚縄吊り**　植えますや、石垣の上に列植したサツキ、イチイ、マメツゲなどの玉物によく行われる方法です。美観的にも大変よいものです。

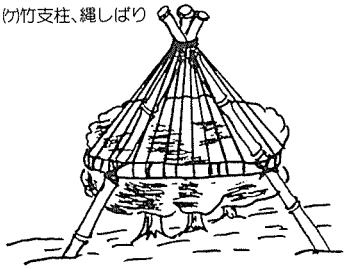
(サ)**四ツ目垣**　サツキ、イチイ、ツゲ、ハクチョウゲなどの大型の玉物や、列植してある物に対し、四つ目垣で囲む方法です。見た目にも美しく、効果も大きいですが時間と費用を多く必要とします。

(シ)**竹じめ**　常緑樹で生け垣をつくった場合、丸竹で両側から挟む簡単な方法もあります。ただし、葉幅の狭い場合に有効です。

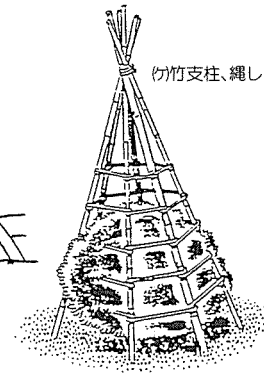
(ス)**藁保温囲い**　ボタン、ツバキなどの防寒に用いる方法です。とくに寒中に咲く寒ボタン、早咲きツバキの開花株を寒さから守りながら、花を観賞することができます。

(セ)**リンゴ吊**　クロマツ等の主木に、美しい三角錐状に雪吊りを施したもので、中心に丸太か丸竹を立て、頂部から必要な本数の荒縄を引いて、枝を吊り上げる方法です。背丈が高くて、適当な丸太などが入手できない場合は、支柱を用いないでしっかりと結わえるか、支柱を用いないで直接幹に縄を縛りつけ、下部の枝を吊り上げることもあります。

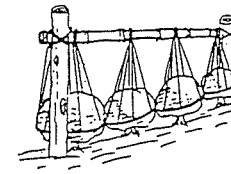
(ケ)竹支柱、縄しばり



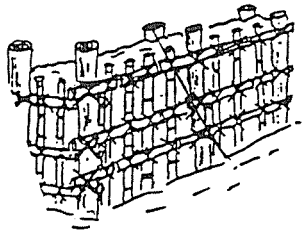
(ケ)竹支柱、縄しばり



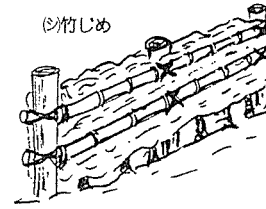
(コ)棚縄吊り



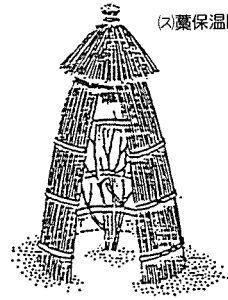
(サ)四つ目垣

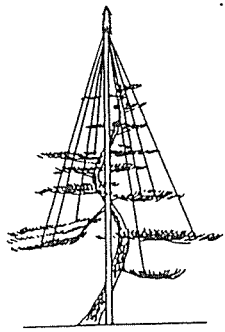


(シ)竹じめ



(ス)藁保温囲い





(セ)リンゴ吊

幹　吊

Ⅱ　とやまで多く使われている樹木

キョウチクトウ

シモクレン

ハナカイドウ

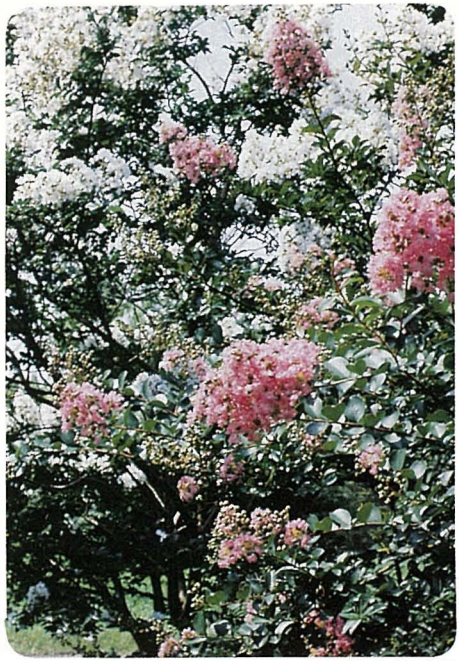
オオデマリ

ピラカンサス

アオギリ

アメリカフヨウ

コデマリ


サルスベリ

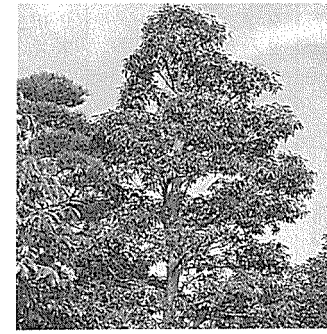
ツバキ

とやまで多く使われている樹

	高　　木	中　　木	低　　木	つる性植物ほか
常緑広葉樹	カシ類 シイノキ タイザンボク タブノキ ツバキ モチノキ モツコク ユズリハ	カクレミノ キンモクセイ ゲッケイジュ サザンカ ネズミモチ ヒイラギ ヒサカキ	アオキ イヌツゲ キョウチクトウ クチナシ シャクナゲ ジンチョウゲ マサキ ヤツデ	ソテツ バラ フジ
常緑針葉樹	イチイ カイズカイブキ スギ ツガ ヒノキ ヒマラヤシーダー マキ類 マツ類	コノテガシワ	ハイビヤクシン	
落葉広葉樹	アオギリ アキニレ ウメ カエデ類 ケヤキ コブシ サクラ類 サルスベリ シラカバ シダレヤナギ トチノキ ナツツバキ ナナカマド ニセアカシヤ ハナミズキ ハルニレ フウノキ プラタナス ホオノキ ポプラ エンジュ モクレン ヤナギ類 ヤマボウシ ユリノキ	ウツギ ウメモドキ オオデマリ ハナカイドウ ハナズオウ マユミ ムクゲ	アジサイ アベリア エニシダ キンシバイ コデマリ ツツジ シジミバナ シモツケ シヤリンバイ ドウダンツツジ ナンテン ニシキギ ハギ ハクチョウゲ ボケ ボタン ラカンマキ ヤマブキ ユキヤナギ ライラック レンギョウ	
落葉針葉樹	イチョウ メタセコイヤ			

1 〈高　木〉

カシ類



- ブナ科
- 本州関東以南、四国、九州、朝鮮に分布する。
- 常緑広葉高木　高さ15～20m

シラカシ

- 別名クロガシ
- 本州中部以南、九州、四国、朝鮮に分布する。
- 常緑広葉高木　樹高15m。

材が白いからシラカシといわれる。

（特　　徴）

樹皮は黒緑褐色で平滑で枝葉がよく密生する、葉は長だ円形長さ5～12cm、縁に小さな鋸歯があります。果実は10月にドングリがつきます。

若いうちは日陰に耐え、適湿地を好み、生育が早い。刈りこみに耐えるが大気汚染に弱い。移植やや困難、煙害、潮害、風害に強い。

（扱い方の要点）

植え付けは5月が適期で、秋植えは寒さに向かってよくない。場所は、やや湿潤で粘質な肥沃地がよく、半日陰でもよい。萠芽力もあり、刈込みも容易です。

（管理と手入）

広い庭では放任仕立とし、狭い庭はズンドウ仕立、ボウガシ仕立とします。刈り込みは、11月または4月に強く切り、6月～7月は、徒長枝を整理する程度の軽い剪定をします。

（病　虫　害）

夏から秋にかけて黒い大きいアブラムシが発生するので、デープテレックス乳剤かエカチン乳剤で駆除します。

（育て方のポイント）

実生苗は直根性で側根が少ないので、直根を切って側根を出させるようにする。刈り込みは、よく生長するので年２回は行いたい。

（利　　用）

庭木としては太い幹を４～５ｍで切りつめ、太い枝を４～５本切りつめ、小枝をださせてズンドウ仕立とします。

列植して側面を平たく刈りこんだ生垣も上品です。その他防風垣として表日本でよく使われています。

■ アカガシ　（オオバガシ、アカガシ）

（特　　徴）

富山県が北限です。

葉はカシ類で最も大きく、先端に鋸歯があります。葉は厚く光沢があり、葉の裏は粉白色が特徴的です。耐寒性はシラカシよりややあります。陰樹。生長はカシ類で最もよく生長する。萠芽力もあり刈込みに耐える。移植はやや困難です。材が赤いのでアカガシといいます。

（扱い方の要点）

腐植質に富んだ適潤性の土壌でよく育ちます。

乾燥地でも育ち、生長が早く、刈り込みに耐えるので、関西以南で生垣、防風垣によく使われている。

（病　虫　害）

シラガシに準ずる。

（育て方のポイント）

シラガシに準ずる。

（利　　用）

庭園、公園用に使われる。棒ガシに多く使われます。

■ アラカシ（クロガシ）

（特　　徴）

アラカシは、シラカシに似る。葉の上半分は鋸歯が大きく葉脈も目立つ。葉は丸味がある。

日本海側では新潟県が北限となっています。葉は厚い。

幼時は耐陰性が強いが、成木になると陽光を必要とします。移植はやや困難です。

（管理と手入）

適潤な肥沃な土壌を好みますが乾燥地でもある程度育ちます。生長も早く、剪定にも耐えます。

（病　虫　害）

シラカシに準ずる。

（育て方のポイント）

シラカシに準ずる。

（利　　用）

公園、庭園に使われ、耐潮に優れ、枝葉が密集しているので防風、防潮林としてもよい。バイ煙や、大気汚染には強いので公害樹としても利用されます。

■ ウラジロガシ

葉の形はシラカシに似て、葉裏に粉白色の伏毛があります。葉は他に比してやや薄く縁が波打っています。

シラカシより寒い地方に分布し、積雪にもよく耐えて生育しています。

この木の材は硬く、木炭として品質のよい品が生産されています。

（管理と手入）
（病 虫 害）
（育て方のポイント）
} シラカシに準ずる。

Q & A

Q、ツバキの新芽が光沢がなく、黄ばんでつぎつぎに落葉してしまうのはなぜですか。

A、ツバキの葉は、5～6月に新葉と交替するので、古い葉は黄ばんで落ちますが、新葉が、黄色くなったり、葉が落ちたりするのは、病気にかかったもので根に原因があると思われます。

多湿で根ぐされを起こす場合かウイルスによる病害も考えられます。

多湿の場合は、排水か、移植します。ウイルス病は葉に斑がでる病気で、なかなかなおしにくく抜取り、土壌消毒をして新しいものに変えるとよい。

シ イ

- 別名　スダジイ、シイノキ
- ブナ科
- 本州日本海側では佐渡以南、四国、九州などに分布する。
- 常緑広葉高木　高さ30m

（特　　徴）

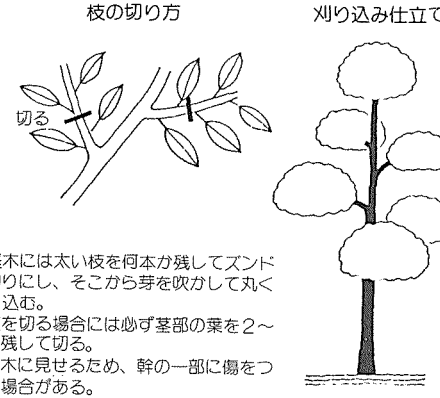
樹は広だ円形となる。葉は卵状で先がやや尖り全緑で互生し、葉はよく茂る。表面は淡褐色。果実は翌年の秋に熟しドングリとなる。生長が早く、適潤地によく育つ。潮風、塩害にも強い。刈り込みにも耐えます。やや陰樹。

（扱い方の要点）

植え付けは、サクラの終わった頃から９月までがよい。寒さに弱いが、とくに樹冠が大きくなり降雪を受け易いのであまり雪の多いところは不向きである。萠芽力もあり、移植も容易です。

（管理と手入）

放っておくと、樹冠が大きくなり、狭い庭なら１本で覆ってしまいます。枝すかし、散らし玉、生垣もおもしろい。手入れは枝抜きと、刈り込みだけでよい。刈り込みは、５月には強く、７月、10～11月も刈り込みができます。



（病 虫 害）

うどんこ病にはカラセン水和剤、カミキリムシ、テッポウムシにはスミチオン乳剤、アブラムシによるすす病はマラソン剤かスミチオン剤で駆除します。

（育て方のポイント）

とくにない。

（利　　用）

この樹はあらあらしさがあり、小枝がよく密生するので、庭の主木にも十分使える。葉裏が褐色で、表が濃緑色のところの渋さが大正時代から好まれている。

公園、庭園、景観樹としてよく使われる。庭にはズンドウ切物として５ｍくらいで頭を切ったものが使われる。

・高岡市の古城公園の体育館周辺に大木が多く育っています。

タイザンボク

- 別名　ハクレンボク
- モクレン科
- 北アメリカ南部地方原産で、東北地方南部以南に植栽されている。
- 常緑広葉高木　高さ10～20m

（特　　徴）

5～6月頃、卵白色の洋杯形の香りのよい大型（10～15cm）の花をつけます。花弁6枚、葉はだ円形で10～20cm互生し、革質で硬い。裏面には茶褐色の毛が発生する。

（扱い方の要点）

寒さをあまり好まないが、富山の平野部では十分に育ちます。北風のあまりあたらない日当りの良い場所がよい。植え付けは、4月～9月がよく、新梢の伸びる時期と真夏を避けたほうがよい。この樹は樹冠が重いので植え付け後は枝抜きをします。

（管理と手入）

剪定を好まない。また整枝の必要もない。

狭い庭では、切らなければならない枝は途中から切らずつけ根から切ります。時期は10月～11月か、3月がよい。

（花つきをよくするコツ）

やせ地や、地下水位の高いところは花つきが悪くなるので、客土するか肥沃土に植え直すようにします。

また、8～9月に翌年の花芽ができるので枝先を切らないようにします。枝を切ったあとの切口がふさがりにくいので、切り口につぎロウを塗っておきます。

（病 虫 害）

カイガラムシが発生する程度で、病虫害の被害は少ない。カイガラムシが発生した場合は、冬期に機械油乳剤か石灰硫黄合剤を散布します。

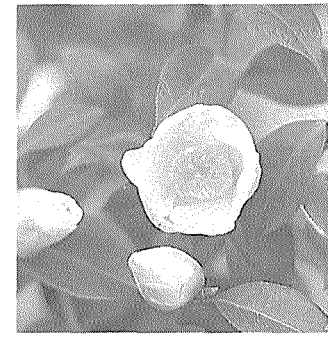
（利　　用）

広い庭では主木として使ってもよい。一般には西側の目かくし用の植栽が多い。

（その他の種類）

- ホソバタイザンボク　葉が細く、下面の毛が少ない。
- ヒメタイザンボク　落葉性で、下面に帯白色の細毛がある。

ツ　バ　キ　類



- ツバキ科
- 日本、中国、東南アジアに分布する。
- 常緑の高木～低木
- 冬期に咲く代表的花木

ヤブツバキ

- 別名　ヤマツバキ
- 日本原産で北海道南部以南に植栽されている。
- 常緑広葉高木　高さ15m。

（特　　徴）

極陰樹。生長遅い。萠芽力があり刈り込みにも耐える。

煙害、潮害、大気汚染に強い。

２～４月に赤色の五弁の花が半開きに咲く、ツバキの原種。

耐陰性ですが日当たりでもよく育ちます。肥沃で湿潤な土壌を好む。

（扱い方の要点）

普通の庭なら十分育ちます。午前中日が当たって西日の当たらないところがよい。植え付けて活着し元気になるまで２年はかかります。植え付け後、根がまだ十分土になじんでいないと蕾が多くつき枝葉は伸びない。もし全てに花を咲かせると樹が枯れたりします。日照りを半分にすると枝も伸び、適当に蕾がつき、きれいな花が咲きます。

（管理と手入）

植え付けは、暖地では枝の生長期を除いて、いつでも植えられるが、富山では３月下旬から花の咲いている間と、８月中旬～10月上旬がよい。植え込みは盛土して高植えとします。

施肥は、元肥は施さない。花が終わったらお礼肥を、雪囲いの終わったあとで寒肥として、油カスと骨粉を混ぜたものを株元へ施します。

整枝は花後がよい。強い剪定は７月中旬～９月上旬がよい。

乾燥を嫌うので、ワラや落ち葉などでマルチング（土壌被覆）をしてやるとよい。

６、７、８月に施肥はしない（夏芽が伸び、その枝が枯れ、蕾は飛んでしまう）。

（病　虫　害）

新芽が伸び始め、軟らかい枝にアブラムシがつくので、速効性のマラソンか、スミチオン乳剤を散布します。

初夏に発生するカイガラムシには、速効性のカルホスかオルトランを散布します。

葉巻虫には浸透移行性のダイヂストンかオルトラン1000倍液を散布します。

（花つきをよくするコツ）

ツバキはよく蕾をつけますが、咲かずに落ちてしまうことがあります。冬期の乾燥の場合に多い。富山では積雪であまりみられないが、少雪のときに注意が必要で潅水をしてやります。

窒素の過多、やせ地は蕾のつきが悪い。

（ふやし方）

自生、挿し木、接ぎ木ができるが、一般に挿し木を行う。

7月中旬～8月中旬に新梢を10～15cm切り、赤玉か鹿沼土に挿しつけ2～3年そのままにしておけばよい。

（利　　用）

庭の植え込み、日当たりのよくない裏庭、池の端などさまざまに植えられる。

積雪で淋しい冬の庭に赤やピンクの色彩の花と、葉の濃い緑は富山の冬には欠かせない樹です。

（ツバキの古木、発祥地の紹介）

- 日本一のユキツバキの大株
  婦負郡山田村今山田（4月中、下旬開花）
- 日本一のヤブツバキ巨樹
  氷見市老谷　　（4月上～下旬開花）
- 日本一のユキツバキの群生地
  下新川郡宇奈月町僧ヶ岳（500～1000m 5月上、中旬開花）
- ユキツバキの群生地
  八尾町桐谷の赤倉の池、白木峰。山田村牛岳。城端町細尾峠、縄ヶ池。福光町医王山など。

（その他の樹種）

・ユキツバキ

日本海側の多雪地帯の山地に自生する。本県では海抜500m以上のところに分布する。高さはヤブツバキより低く1～3mくらいであり、根元から多く分枝して株立状となります。基本的には花は赤色で五弁の一重咲きですが、非常に多くの園芸種がつくられています。

雪に強いが、寒さはヤブツバキより劣ります。

発根性がよく移植は容易です。

タブノキ

- 別名　イヌグス、タブ
- クスノキ科
- 本州中部以南、四国、九州、台湾、中国に分布。
- 常緑広葉高木　高さ20m
- 常緑広葉樹の代表的な木

（特　　徴）

自然樹形にしても、こんもりと美しく、紅橙色の芽出しもすばらしい。クスノキ科の仲間としては寒さに強く、日本海側では山形県まで分布している。本県では、朝日町鹿島樹叢、氷見市朝日樹叢などに古木を見ることができます。

樹皮は灰褐色で枝葉太く、小枝は緑色、葉は柄があり互生し枝の先に集まり、長だ円形で大きい。葉質は、なめし皮のようで緑色で光沢があります。移植やや困難。刈り込みに耐える。風害、潮害に強い。

（管理と手入）

自然樹形で風格がでる木で、刈り込みの必要はない。とくに土質を選ばないが肥沃な適潤な土壌がよい。

（病　虫　害）

とくにみられない。

（利　　用）

大きい庭に自然樹形のままでよいが、公園などに単植すると見ごたえがあります。公園、神社、仏閣などによい。

庭の目つぶし、防風、防潮林にもよい。

モチノキ

- モチノキ科
- 本州（宮城県以南）、四国、九州、沖縄、中国に分布する。
- 常緑広葉高木　高さ6～10m
- 樹皮からトリモチをつくったことからモチノキという。

（特　　徴）

葉は互生し、倒卵形で全縁、やや硬い革質で、上面は深緑色、雌雄異株、4月に黄緑色の小花が集まって咲く。果実は球形で径1cm。秋に赤く熟します。

適湿地を好み、やや日陰にも耐えるが、生長はやや遅い。剪定、移植がしやすく、潮害、大気汚染にも強い。

（扱い方の要点）

暖地系の樹であるが東北地方まで植栽が可能です。

植え付けは5～10月中旬にできますが、6～7月、9月がとくによい。穴を大きく堀り堆肥などを入れ、木の表裏をきめ、やや高植えとします。

（管理と手入）

玉仕立てがよい、太い枝を数本のこし、小枝をださせて大きな玉とします。その後は玉仕立の基本に沿って芽摘みをします。

若いうちは、胴吹き、徒長枝がよくでるのでかきとります。整枝、剪定は6～7月と11月の2回行う。

（病　虫　害）

すす病、カイガラムシが発生しやすいので、6～7月にスミチオン乳剤かデナポンを10日おきに2～3回散布します。

ハマキムシも6～7月ころ発生するが、カイガラムシの防除と同じ方法でよい。

（育て方のポイント）

やせ地を嫌うので土壌改良して植えます。若いときあまり刈り込まないで大きくなってから形をつくります。

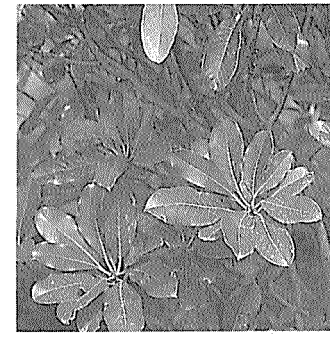
庭に植えるときは、実のなる雌木を植えます。

（利　　用）

強い剪定に耐え、移植が容易であり、庭木としては欠くことのできない主木の一つです。生垣にもよく、また日陰にも耐えるので北側の植え込みによい。

公園、庭園、景観樹として使用されます。

ユズリハ



- タカトウダイ科
- 本州の福島以南、四国、九州、沖縄、中国に分布する。
- 常緑広葉高木　高さ10～15m

（特　　徴）

新葉がでると古葉が落ちて葉をゆずることから縁起木として正月に使用される。葉は大きな葉が枝先に集まって付き、古い葉は垂れ下がる。葉柄が赤く、とくに若葉の頃が美しい。葉質は硬く、革質で全縁、裏面は粉白色。枝は太い。

（扱い方の要点）

適湿地を好み、耐陰性があるが生育は遅い。大気汚染に強い。土質は粘質の湿潤地を好み、日陰にも強く日当たりのよい場所は美しく仕上る。やせ地、乾燥地を嫌い、剪定しても萌芽しにくい。樹形を整える剪定は８月の生長休止期に少しずつ行う。

（病　虫　害）

ほとんどない。

（育て方のポイント）

冬の乾燥した風を嫌うので風が直接あたらないような場所を選ぶ。生育の悪いものは春先堆肥、鶏糞などの寒肥をやればよい。窒素分の多い肥料をやると枝がまばらになるので避ける。

（利　　用）

縁起木で庭の主木にもなり、日陰にも強いので建物の北側の植栽や目つぶしに利用されます。

新芽は赤いものと緑色のものがあり、赤芽は葉柄も赤く美しいので庭植にこれを選びたい。

（その他の種類）

- エゾユズリハ　高さは１～3.5mと低く日本海の多雪地に自生するユズリハの低木性のもの。
- ヒメユズリハ　葉が垂れずピンとのびる。高さは10mくらいになって海岸近くに自生すし潮風に強いが寒さに弱い。

イチイ

- 別名　アララギ、オンコ
- イチイ科
- 北海道、本州、四国、九州ほか
  アジア東北部に自生し、飛騨地方にみられるが本県には自生がみられない。
- 常緑針葉高木　高さ10～15m

（特　　徴）

5～6月の新緑は美しい。極陰樹。

生長が遅いが、耐寒性に強く、寒地でもよく生育する。樹皮は赤褐色、雌雄異株、3～4月に開花し、秋には赤色の実が美しい。

変種のキャラボクは、日本海側の山地に自生し、庭木に多く用いられる。樹形は広卵形で下枝が長く保つ。刈り込みに耐える。移植はやや困難。

（扱い方の要点）

イチイは寒い地方の庭に多く用いられ、キャラボクは低木で幹が立たず暖かい地方でもよく生育するので、庭木として多く用いられる。また、いろいろの形に仕立てることができる。

（管理と手入）

根が粗大で細根が少ないので、植え付けは、3月下旬～7月、10月～11月がよい。仕立て方は、イチイは円錐状。キャラボクは玉仕立てが多い。刈り込みは7月と11月に行うが、枝を発生させるためにできるだけ回数を多くするほうが仕上りがよい。

剪定は徒長枝、トビ枝はできるだけ早く切ります。

施肥は芽の出る前に、有機質を多く入れると葉が美しくなります。

（病　虫　害）

樹勢が弱まってくると、カイガラムシ、ハダニ、ヒバノキクイムシが発生するので早期防除をします。

（利　　用）

イチイは庭の主木や生垣に、キャラボクは狭い庭の主木や石づき、池の端に多く使われ、萌芽力が旺盛なのでトピアリー（いろんな形に刈り込むこと。）などの利用ができます。

気品のある樹種です。

カイズカイブキ

- 別名　カイズカビヤクシン
- ヒノキ科
- 園芸種。北海道、本州、四国、九州に植栽されている。
- 常緑針葉高木　高さ５～８ｍ

（特　　徴）

陽樹で潮風、大気汚染に強い。耐乾性もあるが生育は遅い。樹形は狭円錐形で、枝葉はやや太く直立する。側枝は旋回して伸び火炎状となり葉先は丸味を持っている。葉は偏平型で先は丸味がある。

（扱い方の要点）

植え付けは３～４月、９～10月がよい。場所は日当たりのよい肥沃な乾燥気味のところがよく、日陰は避けたほうがよい。

冬期は葉先が変色しやすい。耐寒性もあります。

植え付けは、深植えにしないで、盛土をして植える。苗の場合、根が少ないので、枝先をつめたり、枝すきして植えます。

仕立て方は、円錐形、円筒形にするが、玉仕立てでもできる。芽摘みを刃物で切ると、切口が枯れたように見苦しくなるので、早目早目に指で摘む。摘む時期は何時でもよい。

（病　虫　害）

さび病、ハダニの発生があるが、ナシの代表的な病気であるさび病の中間寄生をするので、富山市呉羽のナシ地帯では植えないほうがよい。

（育て方のポイント）

日当たりのよい場所に植えることを第一とし、地下水位の高いところは盛土し、排水をよくする。仕立て方はより正しい芽つみを行う。肥料ぎれがすると枝が貧弱になるので肥培しながら芽摘みを繰り返す。

（利　　用）

いろんな仕立て方ができ、和風の建築にも合い、列植、垣など利用が多い。洋風の庭や、公園には欠かせない樹です。

スギ

- スギ科
- 本州、四国、九州に分布する日本特産で、全国で用材生産を目的に多く植栽されています。
- 常緑針葉高木　高さ30m
- 富山県の木として、タテヤマスギが指定されています。

（特　　徴）

葉は湾曲し先が尖り、雌雄同株、雄花は淡黄色の花粉をだす（スギ花粉症のもと。）。球果は、秋に球状で長さ１～２㎝の大きさになります。幹は通直で褐色の肌となります。

陽樹で、適当に湿気のあるところを好み、生育がよい。刈り込みに耐えるが大気汚染には弱い。

（扱い方の要点）

園芸品種も多いが、庭木として利用されるものは数種しかない。植え付けの時期は３～５月、９～11月がよい。陽樹であるが、根元に日が当たるのを嫌う。排水のよい湿潤地に適する。

（管理と手入）

自然の樹形では、よほどの広さがないと無理なので刈り込みを行う。時期は３月萌芽前と新梢の固まった７月には軽く、12月に強く整枝します。最初に基本に沿って形をつくり、その後は形を考えて整枝を続けます。

（病　虫　害）

苗木のときは、赤枯病、立枯病が発生しやすい。マンネブ剤を10日おきに散布します。

害虫はアカダニが発生するのでジメートエイト乳剤か、ケルセン乳剤を散布します。

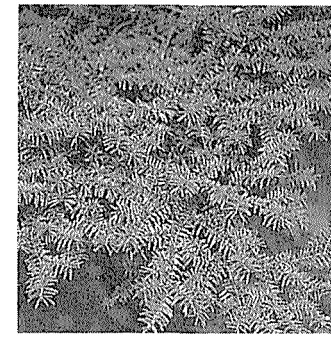
（育て方のポイント）

幼時は日陰を嫌うが成木になればそれ程でもない。十分に日が当たり根元に日が当たらないところを好みます。

（利　　用）

京都の北山ダイスギは日本的な庭には欠かせない樹であり、数本の寄せ植、列植もよい。富山の平野部では、屋敷林の主要樹木として南風を防ぐために南側に多く植えられています。このほか、盆栽、鉢植えなどにも利用されています。

ツガ



- 別名　ホンツガ、トガ
- マツ科
- 本州関東以南、四国、九州の亜高山帯下部にかけて分布している。氷見の尾根筋にみられる。
- 常緑針葉高木　高さ30m

（特　　徴）

樹形は整って円錐形をなし、高さ40mに達するものもあります。幹は通直、灰褐色をなし深い縦溝ができる。樹皮は硬く厚い。

葉は先端がやや凹み葉裏は白色の２列羽状の気孔帯があります。

適度に湿った土壌がよい。幼時は耐陰性があるが成木になって日当たりを好みます。

（管理と手入）

自然な形がすばらしく風格があります。刈り込みは萌芽力が弱いので行わない。枝も太く、細い枝は少ない。

施肥は、植え付けに油粕や化成肥料を十分入れて、初期生長をよくするようにします。

老木になると、材に腐りが入ったり、雪害によって枝が雪折れなどにあい見苦しくなるので、枝の整理が必要となります。

（病　虫　害）

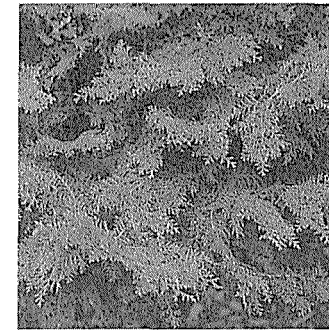
カイガラムシの発生があるので、６月下旬ころから、ディプテレックスを10日おきに２～３回散布して駆除します。

（利　　用）

木が大木になり、狭い庭には不向きで、大きい庭、公園、寺院の境内によく植栽されています。

上市町眼目の立山寺の参道はツガの並木で有名です。

ヒノキ



- 別名　ホンヒ、ヒバ
- ヒノキ科
- ヒノキは、本州福島以南、四国、九州に分布する。
- 常緑針葉高木　高さ25m。本県の自生はごく稀である。

（特　　徴）

樹形は広だ円形となる。幹は直幹、枝は細く水平にでる。葉は鱗状で対生している。幼時は耐陰性があり、乾・湿中ばのところを好み、丈夫で育てやすいが、寒さにやや弱い。生長は早く、刈込みに耐えます。

（扱い方の要点）

植え付けは、３～４月と９～11月がよい。植え付けは表土の深い肥沃な適潤地がよい。耐陰性もあるが日当たりのよいところが葉が美しくなります。

（病　虫　害）

庭木の場合は、さび病とハダニの発生を見るくらいですが、さび病はナシ、ボケ、カイドウに中間寄生をするため一緒に植えないようにする。春先ポリオキシンＡＬ水和剤を２～３回散布する。ハダニはジメートエイト乳剤を２～３回散布します。

（育て方のポイント）

円錐形に刈り込まれることが多い。ヒノキの仲間のヒムロスギも、ヒバ類なども一緒であるが、刈り込みを枝を伸ばしてから刈ると枝枯れを起こしやすいので少し早めに少しずつ刈る。

小枝が密生してくると、通風が悪くなり枝枯れを起こしやすいので、整枝をして防ぎます。

（利　　用）

公園、庭園、列植、生垣などに利用されます。

育てやすく安価である。背景林などにも利用します。

ヒマラヤシーダー

- 別名ヒマラヤスギ
- マツ科
- ヒマラヤの北西部、アフガニスタン原産で、北海道南部から九州まで植栽されている。
- 常緑針葉高木　高さ20～30m

（特　　徴）

枝を水平に伸ばし全体として広だ円形の美しい樹形になる。その雄大な姿は世界三大公園樹の一つに数えられます。

陽樹で生長が早い。幼木は、半日陰を好み成木は日当たりを好みます。土壌は適潤な肥沃地を好む。雪には強いが、寒さや強風にはあまり強くない。

刈り込みに強いが大気汚染にやや弱い。

（扱い方の要点）

広い公園などに自然樹形で大きくのびのびと育てるのが最もよい。植え付けは春先の３月～４月、９月下旬～11月中旬までがよい。浅根性のため風に対して弱い一面をもっています。

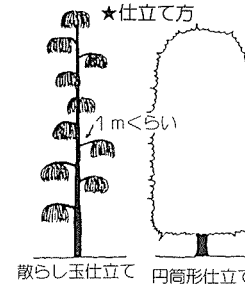
（病　虫　害）

とくにない。

（育て方のポイント）

育て方は、実生と挿し木でできるが、実生は日本では不稔生のものが多く、種子は輸入し、３～４月に播けばその年に30cmくらいになる。挿し木は成木しても根曲がりするので一般には行われない。

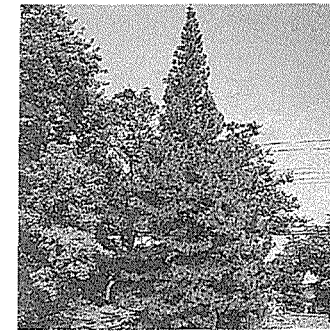
自然形はよいが、庭などに入れる場合は刈り込みをして円柱形または、散らし玉づくりにする。生垣などにも利用できるが、年２～３回の刈り込みと小枝抜きをして通風をよくしてやります。



（利　　用）

この樹は、公園、学校など広い場所に使いやすく、家庭の庭には剪定ができますが不向きです。

マキ類



- マキは昔から庭木としてマツとともに針葉樹の双璧とされてきた。
  生産は関東以西に限られ、生育が遅いことから庭木の横網とされてきました。

■イヌマキ

- 別名　マキ、クサマキ
- 本州南部、九州、四国に分布、本県にも一部植栽されている。
- 常緑針葉高木　高さ20～25m

（特　　徴）

葉はラカンマキより葉の幅が広く長くて疎い、雌雄異株、雌樹は秋に赤い実をつけ後には紫色となります。

（扱い方の要点）

寒さに弱いので、富山では寒風の当たらないところで利用される。植え付けは４～９月下旬ころまでは可能であるが、５～６月が最もよい。根があまりよくないものは元肥を入れないで追肥にしたほうがよい。

（病　虫　害）

ハマキムシ、カイガラムシ、アブラムシが発生します。ハマキムシにはスミチオン乳剤、アブラムシにはエストックかデープデレックス。カイガラムシはふ化期にスミチオン乳剤を散布します。

（育て方のポイント）

寒さや寒風に弱いので、風の当たらない場所に植えて、よく肥培をしましょう。刈り込みも可能です。

（利　　用）

庭の主木として最適である。マツと違ってミドリ摘みなどの手間がいらない。円筒形、単植などにもよい。

（その他の樹種）

ラカンマキ

原産は不明ですが、関東以西に植栽されている。イヌマキより葉が密生し、幅が狭い。

寒さに弱く暖地向きの樹木である。とくに幼樹は弱い。湿った土壌を好み、乾燥地では衰弱する。耐陰性はよい。

マツ類

- マツは、日本で造園木として昔から重要視されてきた。
- 日本にも多くの種類があり、地はい状のものから高木までさまざまのものがある。

クロマツ

- 別名　オマツ
- マツ科
- 本州海岸沿い、九州、四国に分布している。
- 常緑針葉高木　高さ30m

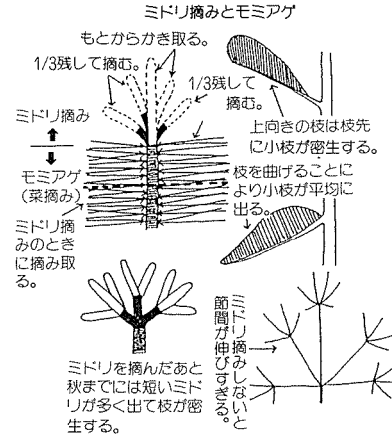
（特　　徴）

樹皮が灰黒色で老木では亀甲状に割れます。針葉は剛直で男松ともいい葉先はさわると痛い。新芽は毛に包まれています。極陽樹、萠芽がない。土地を選ばず乾燥にも耐える。

（扱い方の要点）

植え付けは、畑で養成されたものは一年中取扱いできるが、とくに3～4月、10月～11月がよい。植え場所は肥沃な砂質土壌がよい。

マツ類は、手入れを怠ると全く値打ちのない木になるので、5～6月のミドリ摘みと暮れのモミアゲは必ず毎年行います。また、葉のないところから芽吹きをしないので、葉のあるところで切ります。肥料はいらない。



（病　虫　害）

病害では、葉ふるい病、すす病が発生する。葉ふるい病にはマンネブ剤を春から数回かける。すす病はカイガラムシを防除すればよい。虫害としてはマツクイムシ、マツケムシ、ハダニ、アブラムシが発生する。マツクイムシ、マツケムシは、スミチオン乳剤を散布する。

（利　　用）

公園、和風庭園、景観樹、防風、防潮、神社、寺院などに多く利用されている。四季変わらぬ緑と雄大な樹形が楽しめる。日本式庭園の主木として品位と貫禄

は絶品であり古くから多く使われている。

■ アカマツ

●別名　メマツ
●本州、四国、九州まで山地に広く分布している。
●常緑針葉高木　高さ30m。
●本県では海抜500m以下に多く分布しています。

（特　　徴）

樹皮が赤く、老木では下部から亀甲状に割れる。葉はクロマツより細く軽くしなやかである。全体としてクロマツよりおだやかな姿をしています。女松といわれています。

陽樹で生長は早く耐乾性が強く、やせ地でも育つが、潮害や大気汚染にやや弱い。極陽樹。萠芽がない。

（扱い方の要点）

植え付けなどは、クロマツに準じて行えばよい。

庭ではクロマツほど多く使われないが、赤い肌と姿のやさしさから、独立木、寄せ植えに使われ、品のよい明るさがあり、アカマツは女性的な優しい樹形を生かした仕立て形にします。幹を素直に伸ばし、枝を強くはらないようにミドリ摘みを強く行わないようにします。冬期には雪吊りを必ず行うようにします。

（病　虫　害）

クロマツに準じて行う。

（育て方のポイント）

水はけを良くするため高植えにします。クロマツと同様、ミドリ摘みとモミアゲは欠かすことはできない。

（利　　用）

公園、庭（主木、門かぶり）神社、寺院、記念樹などによい。

また防風林などにも使われる。

■ ゴヨウマツ

●別名　キタゴヨウ
●マツ科
●本州、九州、四国に分布している。
●常緑針葉高木　高さ25m。

（特　　徴）

葉はクロマツ、アカマツより短く5本束生する。樹形は円錐形で、モミ属によく似た形となる。樹形が美しい、樹皮は沈んだ感じの暗灰色で華やかさに乏しいが落着いた雰囲気がある。

（扱い方の要点）

生長が遅く、庭木に使えるものはかなり年月を要する。他のマツ類より日陰に強い。日当たりのよい所を好み、枝が日陰になると枝枯れを起こすので一本立が望ましい。植え付けは排水が悪いと根ぐされを起こすので高植えにします。5月のミドリ摘みと11月のモミアゲは欠かせない。他のマツに比べて葉が短いので強く摘む必要はない。

小枝が密生するので、弱い枝、フトコロ枝は抜いて全体に枝葉バランスに配慮します。

（病　虫　害）

クロマツに準じる。

（育て方の要点）

湿気と日陰をきらうため、場所を選んで植えることが大切です。マツ類は弱ってもすぐに枯れることがなく、じわじわと弱枯れてくるので見てわかるころではすでに遅すぎます。

（利　　用）

自然樹形では、洋風の庭園や公園にも似合う。庭では主木をはじめ、門かぶりなどにも使えますが、生長が遅いため庭植えより、鉢植えなどに多く使われます。

その他のマツ

- タギョウショウ（多行松）アカマツの変種で、根元近くで幹が多数分岐し、傘形の樹形になる。樹高は2～3ｍにしかならない。
- チョウセンマツ（チョウセンゴヨウ）　日本のゴヨウマツに似る。
- ハイマツ　高地に自生し寒さに強く、日本庭園の石付き、ロックガーデンに使われます。
- ダイオウマツ　葉の長さが20～40cmになります。3葉束生、移植困難です。
- リキダーマツ　高さ20～30ｍで、3葉で、枝つきはまばらです。
- テーダマツ　葉は3葉で長さ15～25cmと長く垂れる。樹高40ｍ。
- バンクスマツ　2葉で茎が短く剛直で、枝や幹が曲がり葉が少ない。
- カリプマツ　高さ25～30ｍ。3葉。生長早く枝ぶりが良い。

など他にも多くの種類があります。

アオギリ

- アオギリ科
- 中国、台湾、インドシナ、沖縄に分布している。我が国全土に植栽されている。
- 落葉広葉高木　高さ15m

（特　　徴）

葉は長く、葉柄があり互生し、掌状に浅く３～５裂で枝先に集まってつく。６～７月に大型の円錐花房をだし多数の淡黄色の花が咲く。果実は、未熟のまま舟形状に開いて緑の球状の種子がつきます。樹皮は幼・中木は緑色、老木は灰白色となります。

（扱い方の要点）

樹勢は強健で、土を選ばず、潮害、大気汚染にやや強い。萌芽力が強く、強い剪定にも耐えます。樹皮は傷つきやすいので移植時に注意しましょう。

（管理と手入）

この木は放任しても良い樹形をつくるので管理はしやすい、できれば自然形で育てたいが狭いところでは枝を切りつめてもよい。

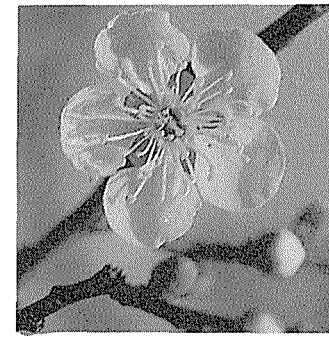
（病　虫　害）

虫害としてはワタノメイガ、マイマイガによって葉が食害されますので、デープデレックスまたはスミチオン乳剤を散布して駆除します。また病害では、褐斑病が発生し葉に小さな褐色の斑点ができて全葉が枯死するので、７月に発生したらダイセン水和剤500倍液を数回散布します。

（利　　用）

この木は、庭木よりも、公園、学校、街路など広いところに列植すると見ごたえがあります。

ウメ



- バラ科
- 中国原産で古くから日本人に愛され、早春を告げる花として珍重され、北海道から沖縄まで植栽され鑑賞されている。
- 落葉広葉高木　高さ５～10m

（特　　徴）

２～３月ごろ、葉がでる前に白または桃色の五弁花が開き花柄が短い。葉は互生し、卵形、長さ４～８cmで先が尖り、縁の細かい鋸歯があり、葉の質は軟らかい。果実は６月に黄熟する。

寒さに強く、性質も強健で、日当たりのよい腐植質に富んだ肥沃土がよい。

（管理と手入）

ウメは、腐植質の肥料を十分与えないと徒長枝がでやすい。栽培は比較的容易だが、美しい開心自然形に仕立てるためには剪定が必要で12～１月に長すぎる枝を切りつめ、ふところ枝を除いて陽光を入れるようにします。

「サクラ切るバカ、ウメ切らぬバカ」という言葉があるように、ウメは強い剪定に耐え、萌芽力も強い。庭木としてのウメや、採果用のウメは、12月下旬～１月に行うが、鉢植のウメは花の終わった直後に強く切り込みます。

庭木でも、枝数をできるだけ少なくするように仕立てると、樹令があまりたたなくても、古木の感じをつくることができます。

ウメは、７～８月に花芽ができる。花芽のつきにくい徒長枝は６月でも生長が止まらない。花芽がつくと、葉が内側に湾曲するのでわかります。

施肥は、12～１月に寒肥として堆肥、鶏糞など有機質肥料と化成肥料をすきこみます。

（病　虫　害）

病害としてこうやく病があり、幹や枝に灰白色または灰褐色のビロード状の斑点を生じます。発生部分をナイフで削り取り、石灰硫黄合剤を１～２回塗布するとよい。

縮葉病は４～５月に新葉が縮みます。炭疽病は葉と実が侵される。この防除は４～６月にベンレートまたはマンネブダイセンを10日おきに散布します。

虫害は、ウメケムシが４月に発生し、枝の又に天幕状の巣を張って葉を食害します。カルホス乳剤を10日おきに２回ほど散布します。

カイガラムシは、12～１月にマシン油乳剤を散布します。

４月に、スミチオン乳剤を２回程散布するとアブラムシの発生を防除すること

ができます。

（花つきをよくするコツ）

日陰地や湿地はまず避けなくてはならない。花芽の形成が8月ころなので、春に伸びた枝は絶対に切らないことです。夏芽、秋芽をのばさないようにします。

（利　　用）

庭園、公園、景観樹、添景樹、社寺境内などに利用されている。

鑑賞用として梅林が多くあり、庭にも主木として使われています。盆栽も人気があり、生花材料としても利用されます。

採果用としての植栽も多い。

（ウメの種類）

ヤエシラウメ　　花は白色か赤色で八重。
コウバイ　　花は一重で赤い。幹も赤い。
リョウガクバイ　葉は緑で花は白色。
コウメ（シナノウメ）花も実も小形、花は白色一重。
キバナウメ　　花が淡黄色。
ザロンウメ　　花が白色八重、実が集まってつく。
シダレウメ　　枝が長く垂れる。
ガリュウバイ　　幹や枝が地面にはう。
ブンゴウウメ　　ウメとアンズの雑種、花は半八重で淡紅色、実が大きい。

このほか、園芸種が300品種以上になるといわれています。系統的には、野梅性、豊後性、紅梅性、杏性の四つに区分されます。

Q & A

Q、ウメを庭に一本植えてあるが、毎年花は咲くが、実がつかないのはなぜでしょうか。

A、ウメは、自家稔性と不稔性があり、不稔性はいくら花が咲いても実はならないものです。

品種間の交配不和はありませんが、開花の遅速がありますので、同じ時期に開花するものを2種類以上植えたいものです。

例えば、実ウメの代表「白加賀」は単植では結実が悪いので、他の品種「養老」「甲州小梅」などの品種を植えておくと実つきがよくなります。

エンジュ

- マメ科
- 中国原産、北海道から沖縄まで植栽されている。
- 落葉広葉高木　高さ15m

（特　　徴）

樹形は主幹から広く張った円形に近い形をつくります。樹皮は緑がかった黒褐色、若枝は緑色、葉は互生し奇数羽状複葉、長さ15～20cmで、小葉は９～15枚で卵形をし先が尖り全縁。７～８月に小枝の先に頂生円錐花序で黄白色の蝶形花を多くつくります。実はジュズ状のくびれた果実をぶら下げる。

暑さ、寒さに強い。日のよく当たる、水はけのよい肥沃土がよい。萌芽力は強いが、剪定は弱い方がよい。

（管理と手入）

強健で、枝が粗であり、植栽後数年はそのまま育ててから樹形をつくる。枝を整理したあと小枝をださせるため弱いせん定を繰り返すとよい。

移植は、小さいときはよいが、成木になると根巻きをしてから行います。

（病　虫　害）

さび病が発生し、枝や葉が褐変する。また枝や幹がコブ状になりマツなどの中間寄生をする。

（利　　用）

葉が明るい感じで緑陰木としてよい。萌芽力が旺盛で形を整えやすいところから公園、街路、並木緑陰樹としては明るくて爽やかな感じのする木です。

中国では瑞祥木とされ門前に３株植えれば、その家庭に瑞祥があらわれ富貴、栄達に近づくといわれている。

カエデ類

●カエデ類は、北半球の温帯を中心に150～200種自生する。日本では約25種が自生しています。モミジの形をしたものばかりでなくいろいろな形をしているものがあります。
カエデ類は概して寒冷な気候を好み、都市環境に耐えられないものが多い。春は新芽、夏の若芽、秋の紅葉、落葉後の枝振りなど、さまざまな姿を楽しませてくれるモミジ、カエデは欠くことができない。
カエデは蛙手の意味で、葉先の裂け具合が蛙の手を連想させます。

■ イロハモミジ

（タカオモミジ、イロハカエデ）

- 九州、四国本州南部（太平洋側）に自生する。
- 落葉広葉高木　高さ10m。

（特　　徴）

秋の紅葉が美しい。葉は対生、掌状に５～７に深裂け、重鋸歯、葉柄は長く淡紅色。萠芽力はあり、潮風に弱い。東北地方南部から九州まで分布し、なかでも京都の高雄山の紅葉が有名です。日本でモミジといえばこれをさす程ポピュラーな樹です。

（扱い方の要点）

排水がよい適潤な風当たりが少なく、空中温度の高い水辺地が良い。
風当たりの強いところは、葉が傷みやすいので保護が必要です。
樹は１本１本個性をだすため剪定をしないで育てたい。

（病　虫　害）

日ざしが強かったり、乾燥がひどいときに粗皮病、がんしゅ病がでます。直射日光が当たらないよう配慮します。
うどんこ病がでやすい。また樹液に糖分が多いのでテッポウ虫の被害が多い。そのほか、アブラムシ、カイガラムシも発生します。

（育て方のポイント）

昼夜の気温差のある空中温度の高いところがよい。一日中日ざしの強いところは紅葉はキレイにならない。

（利　　用）

公園、和風庭園、風致樹、添景樹とし使われています。

雅趣を重んじる日本庭園には、欠くことのできない樹種の一つであり。１本１本個性があるので規則的な配列は避ければよい。

この仲間に日本海側に多く分布しているイロハモミジの変種で、葉がやや大きく、７～９開裂しているヤマモミジがあり、また、北海道から九州までに分布するヤマモミジに似て、葉が大きく、鋸歯が小さいオオモミジがあります。

■ ハウチワカエデ

（メイゲツカエデ）

- 北海道、本州と四国の一部に自生する。
- 落葉広葉小高木　高さ10ｍ。

（特　　徴）

葉が大きく、天狗のうちわに見立てたものでこの名がつく。

葉は同心形で、径７～12㎝、掌状に浅く９～11裂し、縁は重鋸歯、若葉は白い綿毛が密生する。４～５月に暗紅葉色の小花が咲く。

秋の紅葉は濃紅色で非常に目立つ。樹形は１本立では横に張ります。

乾燥地、尾根筋にも生えています。

（扱い方の要点）

イロハモミジに準ずる。植え付けは、落葉後３日以内または春３月中がよい。カエデ類は落葉中でも樹液の活動が激しく、枝を切ったり、根を掘ったりすると樹勢が弱くなります。

（病　虫　害）

イロハモミジに準ずる。

（育て方のポイント）

イロハモミジ同様程度の湿度の高いところが生育がよい。

夏の乾燥期には、たっぷり水をかけてやり枝を十分に伸ばすようにします。枝葉がよく伸びないと秋の紅葉もくすんでしまいます。

■ トウカエデ

（サンカクカエデ）

- 中国原産で我が国に広く植栽されている。
- 落葉広葉高木　高さ15ｍ。

（特　　徴）

主幹がまっすぐに伸び、枝はカエデ類には珍しく水平に四方にでる。大木になり、葉は浅く３裂し、寒冷な地方では紅葉はきれいになります。陽樹で生長が早い。

（管理と手入）

カエデ類には珍しく、刈り込みに強い。根元に落葉を積んだり土寄せすることは嫌います。

（病　虫　害）

イロハカエデに準じる。

（利　　用）

樹勢は強健で、都市の悪環境に耐えて育ち、萌芽力も旺盛なので広い場所に植栽するとよい。街路樹としてもよく使われている樹種の一つです。

■ その他の種類

イタヤカエデ、ヒトツバカエデ、コミネカエデ、ミネカエデ、ミツデカエデ、チドリノキ、ハナノキなどがある。

Q & A

Q、鉢植えのクレマチスを購入したが、来年も咲かせたいので、その管理をどうしたらよいか。

A、一般の鉢植えと同様に乾燥させないようにし、液肥を週一回くらい潅水時に与えると品種によっては秋にも開花します。

ただ、乾燥させすぎると鉢植えは痛みが早いので、一時的に庭に埋めておくのもよい方法です。

冬期は、つるを切らないで丸めておき、春になったら新しい支柱にからませてやりましょう。

こうして、肥料を絶やさないようにしますと、春には立派な芽が伸びてよい花がつきます。

豆知識

◦黄葉は何故なるか。

秋の終わりに近づき、山々は緑から赤、オレンジ、黄色の錦に衣がえをします。これを黄葉や紅葉といわれます。

私達は、葉の色は緑色だと思っていますが、正しくは緑色＋黄色なのです。つまり、緑の色素クロロフィルと黄色の色素カロチノイド（ニンジンやカボチャの色素と同じ。）のものが混じっています。

秋に気温が下がってくると、クロロフィルが分解してなくなってしまいますが、黄色はそのまま残っていることによるものです。

ケヤキ

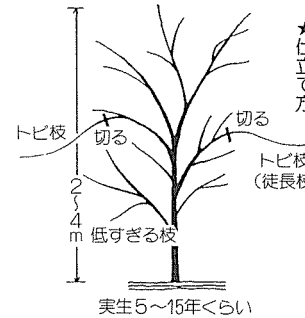
- 別名　ツキノキ
- ニレ科
- 本州、四国、九州や一部東北アジアに分布する。
- 落葉広葉高木　高さ30m

（特　　徴）

幹は直立して、広だ円形の樹冠となる。葉は互生し狭卵形で先が尖り表はざらつく。陽樹。肥沃地を好み成育は速い。強い剪定にも耐え、風に強いが大気汚染に弱く夏期に落葉することがある。潮風に弱い。

（扱い方の要点）

植え付けは、新葉が出る前と10～11月が適期である。場所を選ばないが排水のよい胞沃地がよい。刈り込みは、ケヤキ本来の良さが失われます。



（病　虫　害）

単木の場合は必要ないが、公園、街路などの多いところは、うどんこ病、褐斑病、紋羽病などの被害があるので4－4式ボルドー液を散布する。

（管理と手入）

とくに剪定、整枝の必要はないが、からみ枝、車枝など樹形をみだす枝は抜く。施肥は、とくに必要ない。成育の悪い場合は根の回りに溝を掘り、有機質や化成肥料を施します。

（育て方のポイント）

ケヤキの美しさは、樹冠は細い枝がホウキ状が最もよい。そのためにも植栽場所は広いところに植えたい。若齢のとき、よく徒長枝を出すので、つけ根から切り取る。また、夏の乾燥に弱く葉が褐変して落葉するので潅水して敷ワラをしてやればよい。

（利　　用）

富山県では屋敷林や山地に多く自生しているし、よく植えられている。ケヤキは高く雄大な木であり、広い場所や公園、緑地などによい。街路樹にも多く取り入れられている。

• ケヤキは、富山市の木として指定されている。

コブシ

- 別名　ヤマモクレン
- コブシ科
- 北海道、本州、九州、四国の山地に自生する。
- 落葉広葉高木　高さ10～20m

（特　　徴）

早春の３～４月に葉に先立って白い花をいっぱいに開く、モクレンに似ているが、花がやや小さくて清楚な感じを抱かせます。花弁は６枚で、ガクの下に必ず１枚の葉をつけるのが特徴です。枝はまばらで折ると芳香を放つ。秋には果実はコブ状の塊となり長さ７～10cm。中から赤い種子を垂れます。

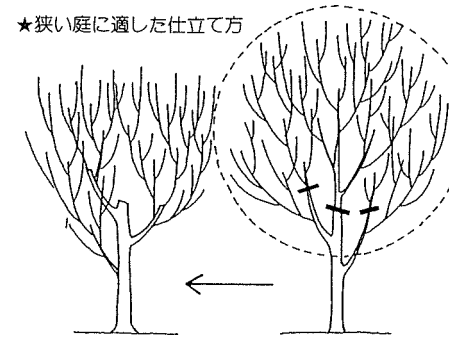
（扱い方の要点）

樹勢の強い木で、耐寒、耐暑性もあり、大低のところで植栽できる。しかしやせ地や乾燥の激しいところでは十分な生育が望めない。腐植質に富む肥沃で湿潤地がよい。日当たりのよいところは花づきがよい。移植は根が少なくあまり好まない。

（管理と手入）

植え付けは４～６月、10～11月がよい。腐植質の土を十分入れて高植えにします。

とくに、整枝の必要はなく放任する場合が多い。狭い庭では小さく仕立てることもできる。整枝は花が終わった直後がよく、切り口は接ぎロウかセメダインを塗って腐敗菌を防ぐ。施肥はとくに必要ない。



（花つきをよくするコツ）

コブシは大きくなると隔年開花になりやすい。花芽の多くついた秋は花芽を半分くらいに減らしてやれば、その後は毎年花をつけるようになります。

（病　虫　害）

うどんこ病が発生するので、６～７月頃カラセン水和剤を２～３回散布するとよい。害虫はカイガラムシとテツポウムシが発生するので、カイガラムシは６月

下旬頃にデナポン水和剤50またはスミチオン乳剤を２回くらい散布します。テツポウムシはマラソン乳剤などの原液を穴に注入すればよい。

（利　　用）

樹形は特徴的で単植でも十分鑑賞できるし、芝庭に合い、庭木としても十分に使えます。鉢植盆栽にも利用できます。

（その他の種類）

- シデコブシ（ヒメコブシ）庭木に広く使われ、白花で花びらが12～18枚つく。花びらが少しよじれます。
- ベニコブシ　　シデコブシの花が淡紅色になったもの。
- タムシバ　　山地に自生し、春、真っ先に白い花をつける。

Q＆A

Q、正月用のウメの盆栽を買ったのですが、管理はどうすればよいか。

A、ウメは寒い冬を越し、暖かく湿気の多い春に花を咲かせる習性があり、ウメを早咲きさせるときは、人工加速経過をさせて錯覚させた処理をします。

そのとき、温室などへ入れ加温し、ひんぱんに霧水をやって育ててやります。一般家庭では、冬の室温が乾燥しているので、花に頭からかけると花が傷みますので、花に水をかけないように霧水を与え、夜は濡れた新聞紙で鉢の上から覆ってやってください。

サクラ類

- バラ科
- 花木、落葉性高木、低木、北半球の暖帯、温帯に広く分布している。
- 花の美しいものは、日本、朝鮮、台湾、中国、ヒマラヤ地方に多い。

（扱い方の要点）

品種は非常に多く、大木になるものから小さいものまであるので、植える場所によって品種を選ぶことが大切です。

理想的な場所は、日当たりで水はけがよい腐植質に富んだ肥沃で耕土の深い場所がよい。

植え付けは10月下旬～11月、３月～４月がよい。本県では春先がよい。有機質を十分入れ高植えとします。

■ ヤマザクラ

最も種類が豊富で、古くから日本人に親しまれていて、丘陵地の尾根筋など陽光の当たる場所に自生する。４月上旬に、黄緑色、赤茶色の若芽とともに、淡白色の五弁花をつける。

■ エドヒガン群

本州、四国、九州に分布し、葉の出る前に淡紅白色の花を開く。ガク筒の下部がふくらみ、花柱、花柄ともに毛があり、小枝は細く、葉は長だ円形の毛があります。

これを母樹に小彼岸、十月桜、八重紅枝垂などがあります。

■ カンヒザクラ群

寒桜、緋寒桜など紅色鐘状の花をつける、沖縄、台湾などに自生します。

■ ミヤマザクラ群

緑の葉のなかに純白色の花を総状につけます。ガクの裂片が開花時に反曲する。我が国全土の深山に分布します。一般にあまり栽培されていない。

- **ソメイヨシノ**は、オオシマザクラとエドヒガンからできたもので、葉に先立って花が開き、淡桃色五弁花で、我が国で最も多く使われています（富山市松川沿い。）。

（管理と手入）

「サクラ切るバカ、ウメ切らぬバカ」といわれるように、サクラは切口がふさがりにくいのでクレオソート、接ぎロウを塗る。

整枝時期は12月から翌年２月までに行う。樹形は自然形がよい。

施肥はとくに必要ないが、弱ったり、やせ地では寒肥として有機質肥料を入れてやるのもよい。

（花つきをよくするコツ）

日陰や湿地を避けることが最も大切です。枝を切ると樹勢が弱くなり花つきが悪くなることがある。

（病　　害）

- 紋羽病　　雑木や荒地あとに植栽すると発生しやすい。病苗は抜取る。ピロールビクソンで土壌消毒してから植える。
- こうやく病　　幹や枝に灰白色の斑紋状のこうやくが発生する。ナイフで患部を削り取り石灰硫黄合剤を塗布します。
- てんぐす病　　細枝が密生して発生し、ホウキ状となり花が咲かなくなる。病枝は切り取り焼却します。

（害　　虫）

アメリカシロヒトリ　５月下旬～７月上旬、８月中旬～９月中旬の２回発生します。幼虫が葉裏にかたまっている間に切り取って焼くかデープデレックス乳剤で駆除します。

アブラムシ　エストック乳剤で駆除します。

カイガラムシ　冬期間に機械油乳剤または石灰硫黄合剤を散布する。６月下旬～７月上旬頃にスミチオン乳剤を散布してもよい。

（ふ や し 方）

ヤマザクラ、オオシマザクラは実生による。他の品種はほとんど接ぎ木でふやします。

フジザクラは挿し木でも活着する。

接ぎ木は、３月下旬ごろに切接ぎをし、８月～９月中旬は芽接ぎを行う。

（移　　植）

あまり移植を好まない。もし行う場合は、１年程前に根回しをして移植するようにします。

目通り10cm以上のものは移しても成果はあまりよくない。

惜しいようだが切り倒し、小苗を植えた方がよい。

（利　　用）

庭木には、あまり使われないが、もし入れる場合は中型以下の木を選ぶことが大切です。

街路、公園、堤防などの公共緑化に多く使われます。また一歳ザクラや、小

型のサクラは鉢植、盆栽にも仕立てられます。

（その他の種類）

- オオヤマザクラ　本州中部以北、北海道、サハリン等に分布し、ヤマザクラより寒地で育ち、花は紅色。
- カスミザクラ　葉柄や葉裏に毛があり、裏面に白味がない。サクラで最も古い園芸種。
- オオシマザクラ　伊豆半島、大島などに分布し、花は白色で赤味がなく、ガクも緑色で鋸歯がある。樹勢が極めて旺盛。葉は桜餅を包む葉に利用される。
  この種を母樹に多くの園芸種がつくり出されています。
  イチョウ、フゲンゾウなど200種。

（そ　の　他）

- 花色　サクラは紅色系（いわゆるサクラ色）が大部分であり、白色がそれに続く
  黄緑色＝鬱金、御衣黄など。
  緋紅色＝台湾緋桜、琉球緋桜、寒緋桜などがあります。
- 花弁数　サクラは普通は５枚であるが、半八重、八重等で、８～120枚くらいと多い。
  兼六園菊桜は一つの花で200枚以上の花弁がつきます。
- 花の香り　ヤマザクラ系のものは、ほのかな花の匂いを持つ。駿河台匂、滝匂はよく匂う。
  葉も干すと香りがします。
- 桜湯に浮かべる花　フゲンゾウ、松月などの八重桜の花を使います。

Q＆A

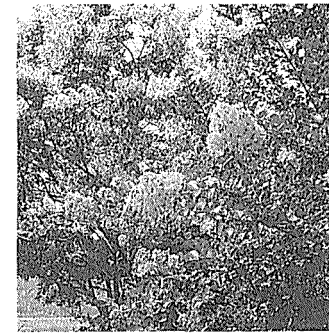
Q、十年ほどたった庭のジンチョウゲの大株が枯れてしまったのはなぜですか。

A、ジンチョウゲは、大株のものが、ときどき枯れることがあります。これは土壌の白絹菌によるものだと思われます。

この病気にかかると薬を使っても効果がありませんので抜き取ります。植える前に土壌消毒をして、排水をよくしてやることが大切です。根元をよく耕し、腐植質を十分入れて土を軟らかくしてやります。

また、ジンチョウゲは、大きいものの移植は、とてもむつかしい樹木です。

サルスベリ



- 別名　ヒャクジツコウ
- ミツハギ科
- 中国南部原産で本州、四国、九州、沖縄に植栽されている。
- 落葉広葉高木　高さ７～12m

（特　　徴）

つやのある木肌が美しい。７月～９月ころ淡紅色、白色などの花がつぎつぎに今年伸びた枝の先端に集めて大型の円錐花房をつける。葉は互生し、だ円形、長さ３～６㎝で柄がない。

（扱い方の要点）

暖地性の木だが耐寒性があり、本州全体が植栽可能です。やせ地や日陰以外ならよく生育します。適地は有機質に富む肥沃な湿潤地がよい。

（管理と手入）

植え付けは、一般にサクラの咲く頃から５月中旬までがよい。高植えにします。大きくなると自然に樹形をつくるが、整枝する場合は冬期がよい。太枝を短く切りそこから新梢を出させると花つきが多くなります。施肥は寒肥として冬期間に堆肥、落葉、鶏糞などを根元にやればよい。

（花つきをよくするコツ）

日当たりの悪いところや、やせ地でも花が咲かないことはないが、花房が小さくなります。整枝は12月から翌年３月までに小枝や３㎝くらいの枝まで切りつめると花が大きくなります。

（病　虫　害）

春から夏にかけてうどんこ病にはカラセン水和剤を10日おきに２～３回散布する。また６月下旬～７月上旬にデナポン水和剤を２～３回を散布すればすす病もあわせて防げます。アブラムシにはディプテレックスを散布します。

（利　　用）

庭木、公園樹、街路樹、鉢植、盆栽などにも利用できます。

（その他の種類）

シロサルスベリ　　白色の花をつけます。
ムラサキサルスベリ　淡紫色の花をつけます。

Q&A

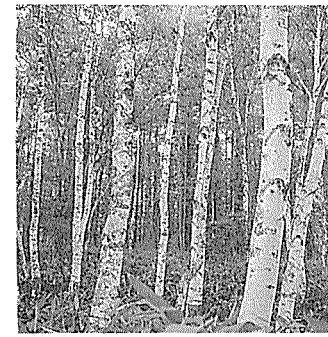
Q、サルスベリの枝が伸びすぎて困っています。どう剪定したらよいでしょうか。

A、サルスベリは、本年伸びた新梢の先に開花する性質があります。弱い枝には花はつきません。放任しておくと樹形が乱れ、枝数も多くなり花つきも悪くなります。

落葉後、その年に伸びた枝を全部元から切り落とし、翌年春先に強い枝を出させます。しかし、萌芽する芽が多すぎると全体に弱い枝になりますので、早めに芽かきをし、枝数を少なくします。

初夏まで１ｍくらいの長い枝となりよい花が咲きます。

シラカバ



- 別名　シラカンバ
- カバノキ科
- 北海道、本州の中部以北に分布する。
- 日本海側では富山は南限。
- 落葉広葉高木　高さ15～20m

（特　　徴）

樹皮は白く美しい。光沢がある明るい緑色葉。互生し、先が尖った広だ円形が多い。陽樹。土地を選ばないが、乾燥または向陽地によく生育する。生長が速いが大気汚染に弱い。剪定を好まない。

（扱い方の要点）

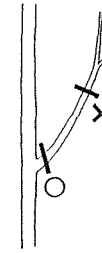
寒さには強いが暑さに弱い。本県では海抜400m以上では育てやすいが平野部では生理障害がでやすく育てにくい。

植え付けは、新芽のでないころか、秋は10月～11月がよい。用土としては腐植質に富む適潤な土が適しています。

（管理と手入）

枝を切ることを嫌う。どうしても切る場合は、枝の途中で切らず枝の元から切り落とし、セメダイン又は接ぎロウを塗って腐敗菌の侵入を防ぐ。また夏期の根元の日射を防ぐため、敷きわらなどのマルチングをします。

枝の切り方



（病　虫　害）

根元にテッポウムシが穴をあけるので根元にゴミなどを置かないようにする。もし穴をあけていたら針金で突き殺すか、スミチオン乳剤を入れて穴を土でふさぐとよい。

（利　　用）

単植でも群植でもそれぞれのよさがあり、幹の白さは庭の主木ともなる。自然樹形で育てるのがよい。芝庭にもよい。

トチノキ

- 別名　クリトチ
- トチノキ科
- 北海道、本州、四国、九州の山地に自生する。
- 落葉広葉高木　高さ35m
- 本県利賀村に国指定の天然記念物が２本あります。

（特　　徴）

山へ入って沢沿いに大きな木と大きな葉を茂らせているトチをみると、安らぎを感じます。

新芽は褐色で、ねばねばしたものに覆われている。葉は対生で大型の掌状複葉で５～６枚あります。若枝の先端に長さ20cmくらいの円錐状の白い５弁でやや紅味を帯びた大きな花をつけます。陰樹。生長速い。剪定はできるが、移植困難。

果実は丸く、10月に熟し、クリ大の実をつけます（食用）。

（管理と手入）

土は、やや湿気のある深い土壌を好み、やせ地、乾燥地を嫌う。
陰樹で小さいうちは日陰でも育つが、花つきをよくするためには日当たりがよい。
耐寒、耐雪性は大きい。初期生長はよくないが壮令期はよい。萌芽力は強い。

（利　　用）

一般家庭の庭は不向きですが、もし入れる場合は、刈り込みをして育てます。

公園、学校、並木、街路樹にもよい。

（その他の種類）

- マロニエ（西洋トチノキ）　ヨーロッパで庭園、公園、街路などによく植えられ、日本のトチより葉や花は大きい。幹は硬くて痛いトゲがあります。パリのマロニエの街路樹は有名です。

ナツツバキ

- 別名　シャラノキ
- ツバキ科
- 本州の関東以南、四国、九州の山地に自生する。
- 落葉広葉高木　高さ10～15m。

（特　　徴）

6月～7月ころツバキとよく似た白い五弁の小さな花をつける。清楚で美しいが花期が短い。樹皮はつるつるした灰赤褐色で、全体として品がよい。裏面には綿毛が散生する。

（扱い方の要点）

樹勢が強く、とくに注意することはないが、乾燥の激しいやせ地は好まない。腐植質に富んだ湿潤で空中温度の高いところがよい。群植や混植をし、根元に直射日光が当たらないようにしたい。

（管理と手入）

植え付けは落葉期間中がよい。堆肥や腐葉土と十分すき込んで土壌湿度を高めてやる。仕立てる場合枝先をつめないで、付け根から切って自然樹形をくずさないようにします。

（病　虫　害）

とくにない。

（花つきをよくするコツ）

小さいときは花をつけないが、ある程度の大きさに達すれば花をつけるようになります。花は前年生枝の短枝の先端につくので、冬期間に枝先を切ると花芽を切ることになります。

また、隣接木の日陰になると花つきが悪くなるので日が当たるように隣接木の枝切りをしてやればよい。

（利　　用）

やさしい優雅な木であり、庭木として多く利用されています。また、落葉樹のなかではブナとともに盆栽にも適した木です。

また、茶花としても使われ、茶庭には最適です。

（その他の種類）

- ヒメシャラ　ナツツバキより花や葉が小さく、径2cmくらいの白い花をつけます。樹皮が黄褐色で光沢があり、秋の紅葉が美しい。

ナナカマド

- バラ科
- 北海道から九州までに分布する。
- 落葉広葉高木　高さ 9～10m

（特　　徴）

ナナカマドの緑は淡く軟らかい感じがあり、庭園樹としてよく利用されています。果実は球形、５月～７月に小さな五弁花をつけ、葉は互生し奇数状複葉で９～15枚あり長だ円形で、長さ３～７㎝、縁に鋸歯があり、秋の紅葉は美しい。

（扱い方の要点）

ナナカマドは高山性のものとされているが、平地でも大木をみかける。樹勢も強く生長も早い。土壌を選ばないが、腐植に富んだ湿潤地で日当たりを好む。耐寒、耐雪性にも優れている。

植え付けは、落葉期間中がよいが春先芽がでる直前が最もよい。堆肥などを入れ土壌湿度を高めて植えます。

（管理と手入）

放任して自然の樹形で育てるのが最もよい。枝を切りつめず不用枝を付け根から抜くようにします。整枝は落葉期間中に行います。

（実つきをよくするコツ）

やせ地や日陰でないかぎり一定の時期がくれば結実します。実生で育てると十年あまりかかります。

ナンキンナナカマドは３～４年で実をつけます。

（病　虫　害）

平地では病虫害がよくつく木で、平地で育てにくいのもこのためです。

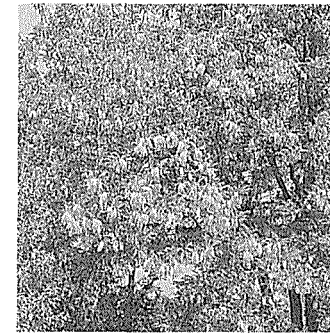
うどんこ病、黒斑点病は、カラセン水和剤などで防除します。

アブラムシ、ハマキムシ、ミノムシはスミチオン乳剤などを散布します。カミキリムシの幼虫は、スミチオン乳剤の原液を１～２滴注入して土でふさいで殺虫します。

（利　　用）

庭木にはナンキンナナカマドがよい。洋種ナナカマドは実つきがよく栽培しやすい。芝庭、洋風の建物によく調和します。最近街路樹としてよく使われています。実がよくつくので小鳥の給餌木になります。

ニセアカシヤ



- 別名　ハリエンジュ、アカシヤ
- マメ科
- 北アメリカ原産で、北海道から沖縄まで広く植栽されている。
- 落葉広葉高木　高さ15m

（特　　徴）

生長が早く、やせ地でもよく育ち砂防用、肥料木として植栽されている。日当たりのよいところを好みます。萌芽力も強く剪定も可能です。枝にはトゲがあります。

主幹が通直で狭長な樹形になりやすい。羽状複葉の小葉は小さく開いて軽くて薄く、さわやかな感じを受ける。花は白い房状の花が下垂する。香気があり、蜜源植物としても重要です。

（病　虫　害）

比較的病虫害が多い。若いときはあまりなくテッポウムシの幼虫くらいであるが、成木になると枝枯れや根に腐食菌がつき倒伏したりします。新しい枝をださせたり、土壌消毒したらよいでしょう。アブラムシも７月ころ発生するのでマラソン乳剤を２～３回散布します。

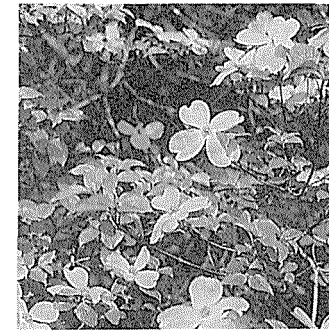
（利　　用）

新葉のさわやかさや香りのよい花がついてよいのですが、木のもろさ、トゲがあり管理が容易でない。しかし街路樹として多く利用されている。早期に緑化しようとする場合によい樹です。

（その他の種類）

- トゲナシニセアカシヤ　ニセアカシヤをやや小型にした形の樹木でトゲがごく小さい。潮風に強く、傷ついても回復が速く、海岸の風致木として使われている。街路樹としてもよい。
- パラソルニセアカシヤ　樹高が３～５ｍで、自然に円形の形をつくり、小枝が多く葉が密生する。トゲがなく、花が咲かない。

ハナミズキ



- 別名　アメリカヤマボウシ
- ミズキ科
- 北アメリカ原産で、尾崎元東京市長が明治45年サクラを寄贈した返礼として、大正４年渡来した。
- 落葉広葉高木　高さ５～10m

（特　　徴）

４～５月頃、小枝の先に白または赤色の花弁状をした４枚の大きな総苞をつけ中心部に黄緑色の小花が集まって咲きます。

果実は秋に深紅色に熟し、葉の紅葉とともに美しい。

葉は対生し、だ円形で鋸歯がなく裏面は白色をしています。直幹・横張型で日本人好みの樹姿である。最近人気の高い樹木です。

（扱い方の要点）

耐寒性があり、半日陰でも生育しますが、土質は腐植質に富んだ肥沃な湿潤地によく育ちます。生育やや遅く、移植は困難です。

（管理の手入）

植え付けは、落葉期間中がよい。新芽がでてからの植え付けはやめたい。整枝はとくに行わなくてもよい。こみすぎた枝を抜く程度でよい。樹木自体が自然に樹姿を整えます。

施肥は、寒肥として根元へ化成肥料を３握りくらい施す。

（病　虫　害）

うどんこ病が発生するので、発生したらカラセン水和剤か水和硫黄剤を10日おきに２～３回散布します。

（花つきをよくするコツ）

やせ地、日陰地は花つきが悪い。一般によく花をつけるが樹勢が弱ると隔年結果をおこしやすい。

実生で開花まで５～７年かかります。

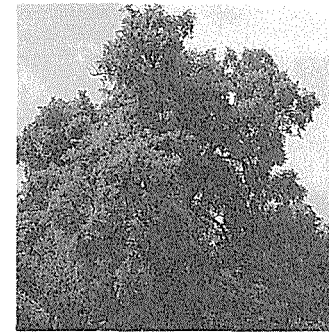
（利　　用）

庭木のほか、公園、学校、街路樹などに広く利用されています。秋の紅葉も美しい、鉢植えは花つきが悪いので不向きです。

（その他の種類）

- ベニバナハナミズキ（チェロッキーチーフ）紅色の花をつけます。
- シダレハナミズキ　枝が垂れ、花は白色。

ハルニレ



- 別名　コブニレ
- ニレ科
- 北海道、本州、四国、九州に分布する。
- 落葉広葉高木　高さ20～30m
- 北海道大学の構内のエルムの木は、この木です。
  富山でも細入村楡原の神社に大木が数本あります。

（特　　徴）

葉は互生し、長さ３～12cmの倒卵形またはだ円形で先が尖っている。表面は暗緑色てざらつく。縁に重鋸歯があります。

寒さには強く、強健な木です。若いときは樹形は乱れやすいが老木になると堂々とした風格がでる木ですから広いところで育てるとよい。

幹や枝にニシキギのような翼ができます。陽樹。移植やや困難。

（管理と手入）

普通の土壌でよく育ちます。樹勢も強く、萌芽力もあり、せん定にも耐えますが、自然形に育てるのがよい。

植え付けは、春３月～４月上旬ころがよい。繁殖は実生です。

（病　虫　害）

とくにない。

（利　　用）

ケヤキと同様、街路樹、公園、並木などと緑陰樹として適した樹木であり、北陸地方ではあまり使われていないがもっと使ってもよい木であろう。

フウ

- 別名　タイワンフウ
- マンサク科
- 中国中南部、台湾原産で、本州（中部以南）四国、九州などに多く植えられている。
- 落葉広葉高木　高さ20～25m

（特　　徴）

円錐形に伸びる樹形が美しく、端正で品のよい大木となります。
木肌もよく、平滑で灰褐色で老木では黒褐色になり紅葉が美しい。特別な乾燥地以外はよく育つ。

生長が速く、萌芽力も強い。土壌は肥沃のところを好み、潮風に弱い。移植は成木になるとややむずかしい。

（管理と手入）

この木は広いスペースで自然形で育てると美しい。しかし、狭いところでもせん定が容易なので利用することが可能です。せん定は弱目の方がよい。

（病　虫　害）

とくにない。

（利　　用）

寒さに弱い木であり、平野部で育つが山間部では生長が劣ります。公園、街路、景観樹、植木などに使われています。

弱いせん定で整った姿に仕立てられます。

公園や広場に単植や、芝生にもよく合う。

（その他の種類）

- **モミジバフウ**　葉がモミジに似て５裂し、樹形はタイワンフウによく似ます。大木になり、長だ円形の直立した端正な形をとります。晩秋は橙→赤→赤紫色と色変わりします。若い枝はコルク質の稜ができます。
  日当たりのよい肥沃で適湿な土壌を好み、乾燥に弱い。

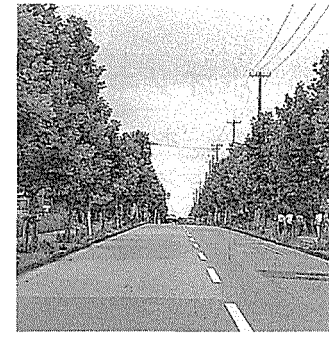
（病　虫　害）

とくにない。

（利　　用）

広い芝生広場で単植するとすばらしい。また群植でもよい。遠くから眺められるようなところがよい。せん定によって樹形をコントロールできるので狭いところでも使用できる。街路樹としてよい木です。

プラタナス



●落葉広葉高木
スズカケノキ、モミジバスズカケノキ、アメリカスズカケノキの3種類があり、何れも日本に植えられ大木になっています。

プラタナス

●別名　スズカケノキ
●西方アジア、南欧原産。広く我が国に植栽されている。
●落葉広葉高木　高さ20～50m

（特　　徴）

樹皮は大きくはがれる。白と緑のマダラ模様となる。葉は有柄掌状で5～7深裂する。

（管理と手入）

陽樹で生長が早い。萠芽力が大きく刈り込みができます。

植栽は容易です。煙害に強いが、潮風で葉先が赤褐色になる。また、アメリカシロヒトリが発生すればスミチオン乳剤を散布し、カミキリムシの幼虫はスミチオン乳剤の原液を患部に塗布する。

（利　　用）

公園や街路によい。我が国の街路で最も多く使われています。

（その他の種類）

モミジバスズカケノキ

アメリカスズカケノキとスズカケノキの雑種で樹勢が強く、土壌はとくに選ばないが極端な乾燥地や湿気は避けた方がよい。日当たりを好み、大気汚染に強い。せん定にも耐えます。

アメリカスズカケノキ

樹皮は、下部でも皮がはげない青白色。大木はユリノキ状の肌になる。大気汚染にあまり強くないので都市の街路樹に向かない。

葉裏に細毛が多く、幼葉から成葉になるにつれて落毛し、風などで飛散した毛を吸い込んでアレルギーを起こすことがある。アメリカスズカケノキにとくにこの害が多い。

ホオノキ

- 別名　ホオ、ホウバノキ
- モクレン科
- 北海道から九州まで分布している。
- 落葉広葉高木　高さ20m

（特　　徴）

枝は太くてあらい、枝先につく新芽は太い。花はタイザンボクに匹敵する大きさで芳香があり、上向きに咲きます。果実はパイナップル状で熟すと赤い実が飛びだす。葉が大きく長さ30cmを超す。大きな葉と白い葉裏が特徴的です。

（管理と手入）

山地に自生している場合は樹冠幅が狭いが、孤立木にすると円形に近い形となり、枝は太く、萠芽力もあるがこの木の幹や太い枝を切ると、樹形がアンバランスになるので自然に育てたい。土質は肥沃な適湿地がよい。

（病　虫　害）

すす病にかかり易いので、その原因であるカイガラムシを駆除すれば回復する。冬期なら石灰硫黄合剤又は機械油乳剤を２～３回散布します。夏の、ふ化期の６月下旬～７月上旬にスミチオン乳剤を散布します。

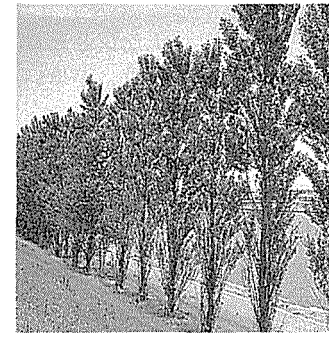
（利　　用）

この木のように大きな葉で大きな樹木は少ないので独特の雰囲気があるが、デザイン的に使い難い木である。逆に上手に使えばおもしろい。

公園や緑陰樹に使用されます。

ポプラ

- ヤナギ科
- 原産地は不明。北半球に30種以上が分布していて、日本全土に多く植えられている。
- 落葉広葉高木　高さ40m



ロンバルディポプラ（イタリアヤマナラシ）

一般にポプラといわれているのはこの木です。

（特　　徴）

細い円柱状に空高く伸びる樹形と明るい葉色で人気がある。新緑と秋の黄葉が美しい。短命。風害に弱い。雌雄異株。

（管理と手入）

適地は肥沃で適潤な土地を好み、乾燥地や湿地では衰弱する。風に対しては弱そうであるが、土壌のよいところでは倒伏しにくい。しかし、枝は老令に達すると折れやすく、「ドカ雪」で大被害を受けることがあります。

（病　虫　害）

病虫害の多い木であり、根元へのテッポウムシの幼虫に注意し、発生したら針金で殺すか、スミチオン乳剤原液を注入し土でふさぎます。

褐斑病、葉さび病には、ダイセンステンレス500倍液を発生期から２週間おきに散布します。うどんこ病はカラセン水和剤、すす病は原因のカイガラムシを防除します。

（利　　用）

細く長い高木として単木でも使えるし、列植、並木植、小群落植してもよい。

平地における水平的なへだたりをもって植えるとよい。根元には、低いものによるカバーリングをすれば美しい。公園、街路樹、水辺植栽などによい。

（その他の種類）

アメリカヤマナラシ

イタリアヤマナラシの原種で性質もよく似ている。高さが25～30ｍに達し、直径は１ｍに達する。横への広がりは他より大きい。樹形が乱れる。北海道大学のポプラ並木は、この木です。

■ カロリナポプラ

アメリカヤマナラシとヒロバハコヤナギの自然交雑種で、枝は横に張り中広の樹形になります。生長が早いので急速な緑化をする場合はよく使われる。西日本に多く使われています。

■ ギンドロ（ウラジロハコヤナギ）

若葉、芽の白い綿毛、葉裏が風によってひるがえると美しい。葉は普通のポプラより切りこみがあります。病気は暖地では発生しやすく育ちにくい。幹は直立せず屈曲しやすい。

Q & A

Q、西洋アジサイ（ハイドランジャー）の花色をきれいにするためにどうしたらよいか。

A、アジサイは花色が変わりやすい。さえたきれいな色を出すためには、青色種は一株当たり、ピートモス、バケツに3杯、硫酸アルミニュームかミョウバン100ｇを土とまぜて植え込むとよい。

桃色や紅桃色を植える場合は、苦土石灰6ℓと土をよくまぜて植えるときれいな花になります。

豆知識

◦サツキとツツジの違いは何か。

サツキとツツジは、同じツツジ科のツツジ属で全く同じ仲間です。

外見的な違いは、開花の時期と新芽の伸びる時期が異なることから別れてきた。

サツキは、新芽が伸びきってから開花するのに対し、ツツジは開花後に新芽が伸びるか、伸び続けます。枝ぶりが、サツキが横開性に対してツツジは随立性であり、葉の表面がツツジが毛がないのに、サツキは毛が深い。

モクレン

- 別名　シモクレン
- モクレン科
- 中国原産で古くから北海道から沖縄まで植栽される。
- 庭に植えられる代表的な花木です。
- 落葉広葉中高木　高さ４～５ｍ

（特　　徴）

４～５月ころ葉に先立って、暗紅紫色の筒形の半開きした長さ８～10cmの花が枝先に上を向いて咲きます。花弁は６枚。葉は互生し広倒卵形長さ８～20cmで葉先の尖りは短い。少し芳香があります。陽樹。

（扱い方の要点）

丈夫で大低のところで育ちます。土質はあまり選ばない。半日陰でも育つが、日当たりのよい腐植質に富んだ肥沃地がよい。根に細根が少ない。

（管理と手入）

広い庭なら放任しても自然樹形でよいが、狭い庭なら高木になるハクモクレン、サラサモクレンは３～４年に一度花の終わった直後に太い枝を切りつめて樹形をつくり直すようにします。

萌芽力が強いので夏から秋にかけて新梢を多く発生するので、冬期間に枝を整理する程度とします。移植はやや困難な樹で、もし行う場合は前年に幹巻きをするようにします。

乾燥をきらうので夏期は敷ワラ、潅水を十分に行います。

（花つきをよくするコツ）

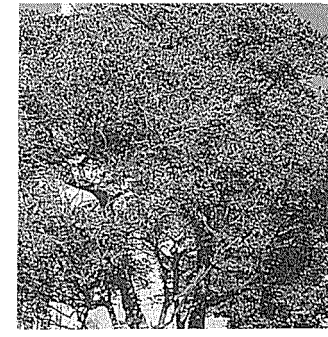
やせ地や日陰地では枝があらく細く、花つきが悪くなるので適地に植え直してやればよい。

花芽の形成は、５～６月に行われるのでそれ以降の剪定を行わないようにします。

（利　　用）

公園樹、庭園樹、寺院に利用されている。鉢植、切り花にも多く使われる。春の庭木として一本は欲しい木です。

モッコク



- ツバキ科
- 本州関東以南、四国、九州、沖縄、中国、東南アジアに分布する。
- 庭木の王といわれ、とくに気品があります。
- 常緑広葉高木　高さ８～12m

（特　　徴）

葉は長だ円形で互生し、縁に鋸歯がなく、葉は厚い。葉柄は帯紅色をしている。７月に淡黄白色の小さい五弁花が長い柄の先に下向きに咲きます。果実は球形で11月ごろ赤く熟し赤い種子がつきます。陰樹で生長はやや遅い。移植やや困難。大気汚染に強い。

（扱い方の要点）

庭木としては、モチノキと同じ扱いがよく、モチノキよりやや寒さに弱く植栽は富山県の平野部は北限です。

植え付けは５～10月で、真夏は避けたい。土質は粘質で肥沃な湿潤地へ植えると枝も密にしまった樹形になります。

（管理と手入）

樹形は半ば放任してもよく整えるが、小枝が密生するので枝抜きを年１～２回行いたい。

整枝の時期は、６～７月と11月の２回行います。

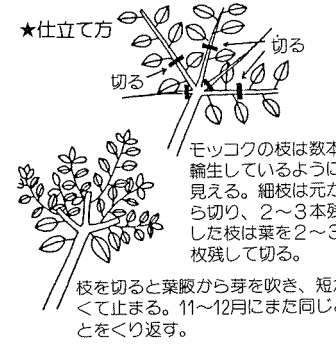
（病　虫　害）

モチノキと同様ですが、ハマキムシが多く発生するので、注意します。

（利　　用）

この木は樹令を経るに従って風格がでてくる木で、昔からモチノキと並んで庭木の王とされる。他の木との混植を避けたほうがよい。洋風の庭にもよく調和します。

枝が横へ張るので狭い庭に向かない。枝幅を狭く仕立てることはむつかしい。また萌芽力があまりよくないので生垣には向かない。



ヤナギ類

- ヤナギ科
- 北半球の温帯、亜寒帯に分布し、日本には約100種の品種、変種がある。

シダレヤナギ

- 中国中南部に分布し、我が国全土に植栽されている。
- 落葉広葉高木　高さ10～15m。

（特　　徴）

中国から古い時代に渡来し、現在北海道から沖縄まで造園木として、湖畔、水辺の風致樹、並木、街路樹として広く植栽されいます。雌雄異株、日本には雌木はない。

葉は、披針形で長さ７～12cm、幅４～10mm、鋸歯があり葉裏は白っぽい。

小枝は柔軟で下垂する。樹形は鐘形。

（扱い方の要点）

ヤナギは水湿地に適し、陽樹で生育が早い。大気汚染に弱く、夏落葉する。植え付けは11月から翌年４月までがよい。湿地にも強いが、適地はやや粘質で肥沃な湿潤地。日当たりのよい場所を好みます。移植はやや困難。萠芽力があり強剪定にも耐える。

（病　虫　害）

うどんこ病が発生するので、カラセン水和剤を１週間おきに２～３回散布します。

５～８月に発生するハムシは葉を食害するのでディプテレックス乳剤で駆除します。そのほか、カミキリムシやアメリカシロヒトリの幼虫が発生するので、スミチオン乳剤またはディプテレックス乳剤を散布します。

（育て方のポイント）

４～５年自由に伸ばして幹を太らせてから枝を切りつめればよい。枝下２cmくらいにして枝を出させて長く垂らすと美しい姿になる。枝は途中で切らず根元から切ります。

（利　　用）

公園、街路樹、並木などに多く利用され、盆栽にも仕立てられる。庭にも剪定して入れることも可能です。

（その他の種類）

■ コリヤナギ

朝鮮原産で枝は柳行李をつくる材料であることから名づけられた。

水辺に栽培されている落葉低木。枝は直立して伸び、葉は対生または三輪生し、広線形で縁に鋸歯がない。

■ ウンリュウヤナギ

中国からシベリアに分布するペンギンヤナギの園芸種で、枝は上向きし、枝や葉が屈曲し、ねじれる。葉は線状で、披針形で下面が白みを帯びます。

（取り扱いの要点）

日当たりのよい水湿地を好むが、乾燥地でも良く育ちます。

（病　虫　害）

シダレヤナギに準じる。

（利　　用）

シダレヤナギに準じる。

■ ネコヤナギ

日本各地の川沿いに生え、アジア東北部に分布している落葉低木。葉は互生して、披針形、縁には鋸歯がある。裏面は灰白色で毛が残る。花は３～４月葉の出る前に咲き、花穂に白い絹毛が密生する。和名は花穂を猫の尾になぞえたもの。

ヤマボウシ

- 別名　ヤマグワ
- ミズキ科
- 日本、朝鮮、中国に分布している。我が国全土に植栽されている。
- 落葉広葉小高木　高さ５～10m

（特　　徴）

本県の低山地帯の谷間にも自生している。水平に伸びた枝に春先上向きに白い花をたくさんつけます。花に見えるのは苞で４枚つけます。

葉は卵形で対生し、先端に向かってわん曲した葉脈が目立つ。葉縁は前縁で波を打っている。秋に紅葉します。果実も秋頃いちご状の実が赤熟し食用になります。

（管理と手入）

土地を選ばないが、日当たりの良い適潤な肥沃土がよい。剪定はできるが弱く行う。

（病　虫　害）

とくにない。ケムシ類には葉の食害がありますが発生したら、ディプテレックス乳剤を散布します。

（利　　用）

剪定による整形がむつかしいのであまり狭いところで植栽は困難であり、公園、添景樹、庭木などに多く使われています。古くから茶花として利用されています。

ユリノキ

- 別名　ハンテンボク、チューリップツリー
- モクレン科
- 北アメリカ東部原産で、北海道南部、本州、四国、九州などに植栽されている。
- 落葉広葉高木　高さ20～30m

（特　　徴）

幹は直立して大木になります。樹形が長方形で美しい。葉は長い葉柄があって互生し、大型で花が５～６月頃咲く。生長が早く適湿性を好むがやや耐乾性もあります。葉の形がはんてんに似ている。花はチューリップ形。陽樹。移植困難。

（扱い方の要点）

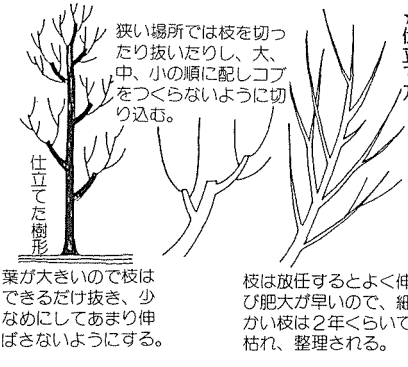
植え付けは10月中旬、５月上旬がよい。根が太くあらい。粘質で肥沃な地を好み、日当たりのよい場所が理想的です。剪定も可能で３月中がよい。放任すると大木になるので広い場所でなければ植栽がむつかしい。

（病　虫　害）

とくにないが、テッポウムシ（カミキリムシの幼虫。）の被害を受けることがあるのので捕殺するか、６～８月にスミチオン乳剤を散布します。

（育て方のポイント）

自然樹形で育てるのが最もよい。庭木として取入れる場合はあまり小さいうちから切り込まないで、樹高が４～５ｍくらいになったときに整枝し、太い枝を１ｍくらいの間隔に配置し小さい枝を切る。目的の高さまで育ったところで梢を切って芯をとめるとよい。



（利　　用）

庭木よりも公園など広い場所によく似合う。街路樹にもよい。他にない明るい感じの木で緑陰樹にもなり、葉の形もおもしろい。花もかわいいので、洋風の建物にもよく調和します。緑陰樹。記念樹、景観樹にもなります。

イチョウ

- イチョウ科
- 中国原産で、古くから日本各地に植えられている。
- 落葉針葉高木　高さ30m

（特　　徴）

葉は扇形で先端に割れ目があり、柄が長い、枝は短枝から群がってつく。長い枝もあるがこの場合は互生している。雌雄異株。

生育が速く、寒さに強く、火にも強い。せん定にも強く、大気汚染にも強い。種子はギンナンとなり、それを包む果肉は悪臭を放つ。

（扱い方の要点）

移植は容易であるが、高木になるので庭木には向かない。植え付けは日当たりのよいところがよく、土質を選ばない。

イチョウは自然の姿が最も美しい。しかし街路に植える場合等は、刈り込まなければならないが、細かい枝が出やすいのでこまめに取ります。

施肥は、必要ありませんが、黄を美しくする場合は、リン酸、カリ肥料をやればよい。

（病　虫　害）

ほとんど発生しない。

（育て方のポイント）

ふやし方は、実生、挿し木、接ぎ木で行う。

緑化用は挿し木（60cmくらいのもの深ざし。）、実生など。鑑賞用の斑入、鉢物は接ぎ木による。

移植は、３～４月か落葉後の11月、この時期は５ｍくらいのものまで根鉢づくりをしなくてもよい。

庭へ入れる場合は、２～2.5ｍくらいのものがよい。下枝を十分残し、小枝を出させる。大きくなると上長生長がよく、下枝が伸びにくく、仕立てるのはむつかしい。

（利　　用）

公園樹、街路樹、神社、寺院など広い場所によく使われます。

実はギンナンとして食用になり、材は、マナ板、和服の仕立台、将棋盤などに利用できる。

氷見市上日寺のイチョウ（天然記念物。）は有名である。

メタセコイヤ

- 別名　アケボノスギ
- スギ科
- 中国四川省原産で昭和30年ごろ日本に入り広く植栽されている。
- 落葉針葉高木　高さ推定40m以上

（特　　徴）

円錐形の整った形で、生育が極めて速い。葉はさわやかな若草色の新緑、秋の紅葉は赤褐色、黄色で美しい。葉は扁平な針状葉で対生につく。陽樹。

（取扱いの要点）

生長が早く枝が太くなりやすい。水湿地でよく育つ。乾燥地ややせ地では育ちが悪い。潮風に弱い性質があります。風で折れやすいので強風の当たる場所は避けます。

幹が直立して枝もまばらで明るく、他の針葉樹にみられない特徴があります。

（病　虫　害）

とくにない。

（利　　用）

樹の特徴を生かして、平地に群植、近代的なビルディングなどの並木植え、水辺の植栽によい。

狭い庭でも円筒形に刈込みを行えば使えるが一般的ではない。

施設などで自然形で仕立てる場合は建物から５ｍ以上離すようにしましょう。

公園、学校、街路樹、記念樹などに多く利用される。

2 〈中　木〉

カクレミノ

- 別名　ミツデ
- ウコギ科
- 本州の千葉以南、沖縄までに分布する。本県でも植えられている。
- 常緑広葉小高木　高さ２～３ｍ

（特　　徴）

枝は太くて緑色。葉は互生し広卵形の６～12cmの大きさで、若木の葉先は２～５裂し成木すると全縁の葉も混じる。７～８月に淡い黄緑色の小花が咲き、秋に黒熟します。

適潤地を好み、生長はやや遅いが、日陰に強い陰樹。大気汚染にも強く、せん定に耐えるので庭木としても愛用されます。

（扱い方の要点）

暖地系の植物であり、植え付けは５～９月がよい。

腐植質の富む肥沃な適潤地がよい。日当たりのよいところがよいが、日陰でも育つ。日陰では葉量が少なくなります。

枝をよく分岐し、自然に樹形を整える。植え付けは１～２ｍほどの枝のないものがよく利用されます。

２～３年に一度、大きく切もどして萌芽を育ててゆくとよい。

（病　虫　害）

乾燥気味のところは、黒斑病、カイガラムシの発生があり、マンネブダイセンＭ水和剤、石灰硫黄合剤の散布を行います。

（育て方のポイント）

生育中は水分を好み、冬の乾風を嫌い、風当たりの強いところは雪囲いを行う必要がある。枝が密生すると細かい枝が枯れるので、早目に枝抜きして通風をよくしてやります。

（利　　用）

建物の北側、玄関わき、手洗いの目かくし、中庭など、狭い場所の日陰の利用によい。狭い日当たりの悪い中庭によく似合います。

キンモクセイ

- モクセイ科
- 中国原産で、東北南部以南、四国、九州に植栽されている。
- 常緑広葉中高木　高さ５～７ｍ

（特　　徴）

葉は硬く、だ円形で、縁に鋸歯があるものが多い。雌雄異株。日本に植えられているのは雌樹で花がつく。

適潤な肥沃地によく育ち、生長はやや遅い。大気汚染に弱く、花が咲かなくなる。刈り込みに十分耐えます。

仲間にギンモクセイがあります。

（扱い方の要点）

植え付けは、小苗は４～５月、大きいものは５月、７～10月に植える。夏以降の植え付けは、枝を多く切るため、その枝が充実しないうちに開花期に入るので花は少なくなります。

植え付け場所は日当たりのよいところがよい。日陰地でも育つ。

モクセイ類は、自然でも円形の形を作るから放任してもよいが、狭い庭では刈り込みを繰返して小さく仕立てます。刈り込みは10月の花後か、３～４月に強く切らないで毎年実施します。

（病　虫　害）

葉が密生して風通しが悪くなり、カイガラムシ、ハダミの発生が見られ、スミチオン、機械油乳剤などで駆除します。

（育て方のポイント）

８～９月の乾燥に強い。富山県では海抜400ｍくらいまでが利用できる。寒い風の吹きさらしを防ぐために雪囲いが必要です。

（利　　用）

秋を飾る樹として庭や公園に多く取り入れられ、雪国である富山に冬の緑として貴重な樹である。生垣の利用については、幅が広くなるので狭いところはむりです。

ゲッケイジュ

- 別名　ローレル
- クスノキ科
- 地中海沿岸の原産で、本州、四国、九州に植栽されています。
- 常緑広葉中高木　高さ６～10m

（特　　徴）

葉は長だ円形で濃緑色。革質でつやがあり、枝葉に芳香があります。雌雄異株、４月に淡黄色の小花が集まって咲きます。植栽は雄株が多く雌株が少ない。果実は10月に大きさ１㎝のだ円形暗紫色のものがつきます。

耐陰性があり、生長も早く萌芽力があり根元からやごがでやすい。潮害、大気汚染にも耐えます。

（扱い方の要点）

暖地系の植物であり、植え付けは４～５月、７～９月で適地は、排水のよい肥沃な湿潤地で風が当たらないところがよい。

（管理と手入）

生長がよいため雪害により枝折れの発生があり、放任樹形もよいが、円筒仕上がよい。萌芽力が強いので刈り込みを行ったほうがよい。整枝は、４月中旬か10月中旬に行います。

（病　虫　害）

うどんこ病、ハマキムシ、カイガラムシが発生する。うどんこ病は６月の新梢の生長期に発生するので、カラセン水和剤を10日おきに２～３回散布し、ハマキムシ、カイガラムシは、６月中旬よりディプテレックス乳剤を２～３回散布して駆除します。

（育て方のポイント）

冬の寒い風を嫌うのでこれを防げるような場所に植えます。生長が減退してきたら施肥と客土をしてやります。樹形が乱れたら思い切って剪定をします。

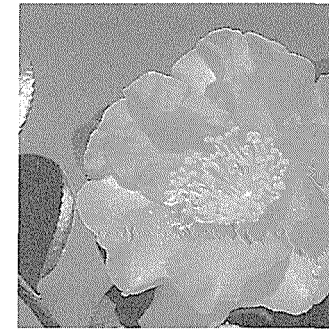
（利　　用）

刈りこみできるので、球形、だ円形、円筒形などに仕立てると見事になります。生垣もきれいになります。

日陰にも強いので、日陰用の木としても利用できます。

葉は乾燥して、肉料理の臭みとりに利用されます。

サザンカ



- ツバキ科
- 日本に生まれて育った日本特産の花木で、多く植栽されています。
- 常緑広葉小高木　高さ５～15m

（特　　徴）

冬枯れの庭に数少ない彩りを添えてくれる。10～12月頃、枝先に径４～７㎝花を開き、花弁は５枚で平に咲きます。花色は豊富。

ツバキと違って花びらから散る。葉は革質のだ円形で互生し、長さは３～７㎝で、ツバキより小さい。下面の脈上や葉柄、小枝に毛があるのでツバキと区別できる。

（扱い方の要点）

日陰でもよく育ち、大気汚染、潮風に強く強健な木。自生地は水はけのよい湿潤地が多いので、植え付け場所は有機質に富む、やや粘質のところがよい。乾燥するところと乾風のあたるところは避けた方がよい。

（管理と手入）

植え付けは、サクラの開花が終わるころから９月までがよいが、できれば新梢の生長期を除いた方がよい。

鉢植の場合は植え付けのとき、根鉢の土と植える場所の土が異なる場合は根鉢の土を落として植えた方がよい。植え付け後十分潅水をします。

仕立て方は、放任する場合と刈込んで仕立てる場合があり、刈り込みする場合は、花後から４月までの間に目的の形に切って整枝し、とくに徒長した枝を切る程度とします。萌芽力が旺盛なのでいろいろな形に仕立てることができます。

（病　虫　害）

虫は、６月と８月にチャドクガが発生するので、ディプテレックスかスミチオン乳剤で駆除します。病気はもち病が５～６月頃に発生するので冬期に石灰硫黄合剤かダイセン水和剤を２回ほど散布して予防します。発生枝は切って焼却します。

菌核病については、蕾が開きかけたころ、蕾が落ちたり、花に褐色の斑点ができる場合は枝を切って焼却します。

（利　　用）

庭への単植、目かくし垣、生垣など用途が広い。鉢植、盆栽も可能であり、テラスやベランダでも楽しめます。

雪で緑の少ない富山にとっては、耐雪、耐寒性にも優れた冬の樹木の一つです。

（その他の種類）

一般にサザンカの改良種（サザンカ群）や、ヤブツバキの交雑種（ハルサザンカ群）、カンツバキの交雑種などがあります。

- 品種としてはフジノミネ　花が白色八重咲き。
- オトメサザンカ　花は灰色八重咲き。
- カンツバキ（シシガシラ）　紅色八重中輪。11～２月に咲く。
- ショウワノサカエ　樹形が立つ。
- ハルサザンカ　２～３月頃に花が咲く。

Q＆A

Q、ナンテンが大株になってしまった。株分けできないか。

A、ナンテンの株分けは簡単です。４月中旬～10月上旬までができます。高さが高すぎるときは、１ｍ内外に切りつめて植えます。２～３年後に実がつくようになります。

分けるときは１株に３～４本の幹をつけて分けます。

ネズミモチ

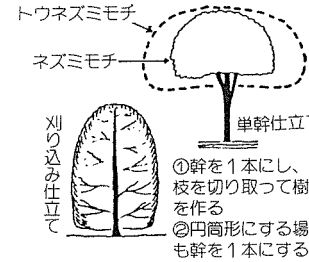
- 別名タマツバキ
- モクセイ科
- 本州中部以南、四国、九州と沖縄、朝鮮に分布する。
- 常緑広葉小高木　高さ４～７ｍ

（特　　徴）

葉は革質で対生し、だ円形、長さ４～７㎝、全縁で先が尖り光沢があります。６月に多数の小白花が円錐花房をなして咲きます。果実は長だ円形で秋に紫黒色に熟す（ネズミの糞に似ている。）。

日陰に強く、萌芽力があり、生長も早く土地を選ばない。刈り込みにも耐え、枝がよく茂り病虫害にも強い。また潮害にも強い。

★仕立て方



（扱い方の要点）

常緑樹なので、植え付けは暖かくなったサクラの花の終わったころから10月下旬まで扱いが容易である。放任すると相当繁茂するので刈り込みをします。

（管理と手入）

とくに萌芽力が強くよく伸びるので、たびたび刈り込まないと樹形を保てない。刈り込みは厳寒期を除いていつでもよい。

（病　虫　害）

苗木や新梢にうどんこ病が発生することがあるので、カラセン水和剤を10日おきに数回散布します。

（育て方のポイント）

乾燥の激しいところは潅水すると効果がある。

枝が密生すると、細枝が枯死するので整枝して枝を整理します。

仕立て方は一本仕立てか、数本による株仕立てかをきめて枝を整枝します。

（利　　用）

鑑賞価値は他の樹種より劣るが、萌芽力や耐陰性もあり、刈り込みが可能で、防風、防火、目かくし用生垣や境界植等にも適しています。

トウネズミモチは、枝葉が大きく高木性なので公園などによい。

ヒサカキ

- ツバキ科
- 本州東北南部以南、四国、九州に分布します。
- 常緑広葉小高木　高さ２～３ｍ

（特　　徴）

樹形は直立型であるが整わない。葉は暗緑色、革質でつやがあり径３～５㎝で縁に低い鋸歯がある。花は葉のまわりに群がって咲くがあまり大きくなく、秋に黒熟します。

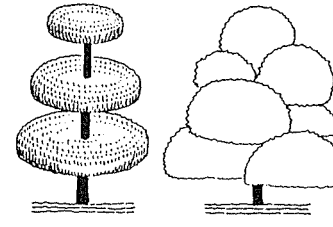
富山では、神社の神事用に使われるので、神社や庭にも多く植えられています。

また、海岸地方の日当たりのよい尾根筋に多く自生している一方、林内の下木として自生しています。

（管理と手入）

植え付けは、５月、７～９月がよい。腐植に富んだ肥沃地、半日陰がよい。刈り込みは、７月と11月がよいが、必要に応じて枝を切ったりするので、整形の場合もこの時期に行う。

ヒサカキの刈り込み例



（病　虫　害）

カイガラムシとすす病が発生します。風通しをよくすることと、冬期、機械油乳剤または石灰硫黄合剤を、６月からのふ化期にデナポン水和剤50を10日おきに２～３回散布します。

①サカキはなかば放任状態に仕立てる。
②ヒサカキはいろいろな形に仕立てられる。このような仕立てものは年２～３回刈り込みを行う。

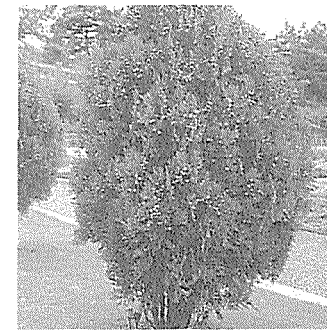
（利　　用）

サカキはサカキ属、ヒサカキはヒサカキ属と異なるが、一般的に庭木としてはヒサカキを多く使います。

サカキは、萌芽力がないが、ヒサカキは萌芽力があり、刈り込みができるので庭や生垣などにも使えます。

庭に１本あってよい木です。

コノテガシワ



- ヒノキ科
- 中国原産で、本州、四国、九州に植栽されている。
- 常緑針葉小高木　高さ 4～7 m

（特　　徴）

葉は直立した枝から密生し、表裏がはっきりしない鱗片状をしている。陽樹で生長はやや遅く、適潤地を好む。刈り込みにも耐える。

（扱い方の要点）

中国産の木であるが、日本に古くから定着し普及している。自然に樹形を保つ。植える場所は日当たりのよい適潤地。冬期は雪囲いをして樹形を保つようにします。

（管理と手入）

とくにせん定、整枝の必要はない。肥料ぎれすると葉が黄色となり落葉する。枝もあらくなるので春先に鶏糞、化成肥料を与えるとよい。

（病　虫　害）

風通しの悪いところは、アブラムシ、カイガラムシが発生するので、ディプテレックス乳剤かスミチオン乳剤を散布する。

（育て方のポイント）

とくにないが、肥料ぎれに注意する。乾燥を防ぎ敷ワラを敷いてやる。日が十分当たるようにしてやることが大切です。

（利　　用）

単植、列植、群植もできるし、洋風建築、芝庭、道路、公園などに広く利用できる。

矮性のものは鉢植もできます。

ウメモドキ

- モチノキ科
- 本州、四国、九州などの山地に自生する。
- 落葉広葉低木　高さ２～３㎝。
- 代表的な小鳥の給餌木です。

（特　　徴）

晩秋に細い枝いっぱいに赤い実をつけます。果実は５㎜の小球形で美しい。雌雄異株。６月ころ淡紫白色の小さな花弁がつきます。葉は互生、長だ円形、長さ４～８㎝で縁に細かい低鋸歯があり、両面に細かい毛があります。

（扱い方の要点）

樹勢が強く、とくに土質を選ばない。しかし日陰では実つきが悪いので、日当たりのよい場所を選びます。

植え付けは、10月から翌年３月までの落葉期間中がよく、根が非常に細かいので、根部を湿潤に保つと生育がよい。

（管理と手入）

樹形をよく整えるので、とくに整枝の必要はない。

やせ地では花つきが悪くなるので２月と９月に油粕と化成肥料を１～２握りを根元にやり、敷ワラを敷くようにします。

（病　虫　害）

とくにない。

（花つきをよくするコツ）

雌樹であれば、日陰でない限り花芽のつかないことはない。植えた株が雄株だった場合は、よび接ぎか、切り接ぎをして結実させるようにします。

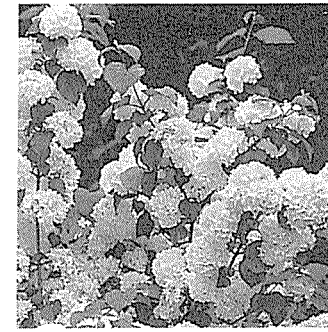
（利　　用）

庭の単植のほか、玄関わき、池の端に使い、鉢植え、盆栽などのほか、生花材料としても利用できます。

（その他の種類）

- キミノウメモドキ　　果実が黄色。
- シロウメモドキ　　果実が白色。
- コシヨウバイ　　ウメモドキの園芸種で、木も小さく実も小さいが密に着果し盆栽によい。
- フウリンウメモドキ　赤い実が細長い柄の先について垂れ下がる。

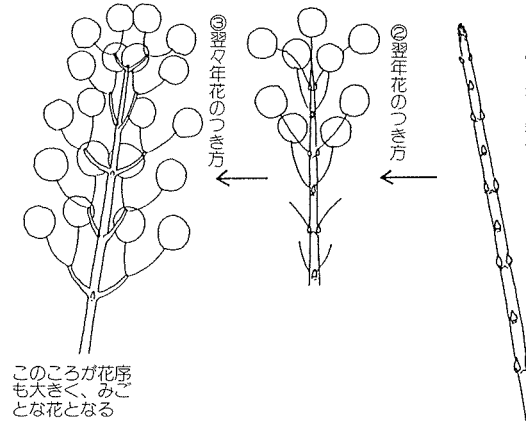
オオデマリ



- 別名　テマリバナ
- スイカズラ科
- ヤブデマリの園芸種である。
- 落葉広葉低木　高さ２～３ｍ

（特　　徴）

アジサイを小型にしたような形をした、白い装飾花をつけます。葉は対生で、丸形で鋸歯があり、葉の表面に脈がしわになっています。



（扱い方の要点）

寒さを嫌うが、富山ではとくに影響はない。樹勢は強健で大低のところでよく生育する。植え場所は腐植質の富んだ湿潤地がよい。日当たりがよいが半日陰でも育ちます。しかし、やせ地や極度の乾燥はきらいます。

古い枝は、花が小さくなるので３年ぐらいで枝を切った方が花がよくなります。整枝は枝の途中で切ることを避け、付け根から切ります。春先新芽の出る前に大枝を切り、花の終わった直後にかるい整枝をします。

（病　虫　害）

アブラムシがつく程度で、発生したらマラソン乳剤を散布すればよい。

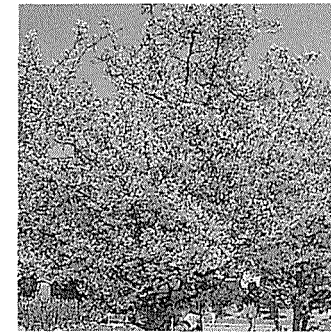
（育て方のポイント）

ふやし方は挿し木、取り木、株分けなどします。挿し木は前年枝を15～20cmに切って、春先きに挿せばよい。

（利　　用）

この仲間は水揚げが悪いので切花には向かない。庭木として単植が映えます。

ハナカイドウ



- バラ科
- 中国原産。花は薄紅色、半八重で素晴らしく美しい。中国ではボタンとともに美しい花の双璧とされています。
- 落葉広葉中高木　高さ３～７ｍ
- 本州、四国、九州に植栽されている。

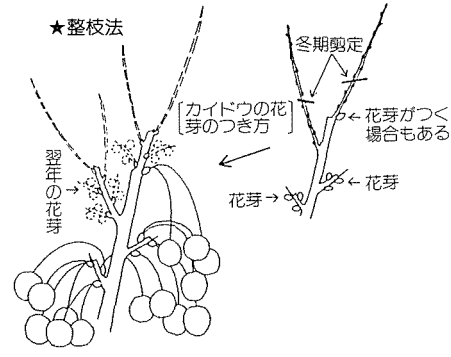
（特　　徴）

花は５月、リンゴと同じ時期に開花する。樹形は不整形になりやすいので、せん定をして形をつくる。日当たりのよいところがよい。

比較的寒いところでも育つ。とくに夏は涼しいところがよい。土質は排水のよい腐植に富んだ肥沃なところがよい。果実は小さい。

（管理と手入）

あまり大木にならずせん定がきくので、狭いところでも育てることができるので主木として用います。



（病　虫　害）

病虫害の多い木であり、防除の徹底をはかります。うどんこ病、腐乱病は被害部を取り焼却します。防除はトップシンＭペーストを散布する。黒点病、斑点病にはポリノックスを散布、アブラムシにはキルバール、ハダニには、ダニの種類によって効果のある殺ダニ剤を散布します。

（利　　用）

樹形の悪さから、あまり公共的な植栽には向かないが、庭に植えて、花の美しさを楽しみ、鉢植、盆栽などにもできる。庭に１本欲しい木です。

（その他の種類）

- ナガサキリンゴ（ミカイドウ）中国原産、長崎に渡米したのでその名がつく。花は上向き、果実は大きい。
- オオナガサキズミ（ホンカイドウ）　花の直径５㎝と大きい。
- ズミ　本州中部以北にみらる野生種、白い花。秋には紅い果実が沢山つく。

ハナズオウ

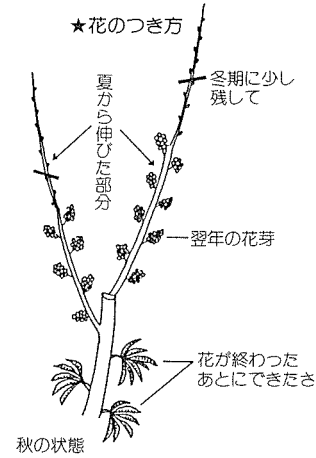
- マメ科
- 中国原産。北海道、本州、四国、九州に植栽されています。
- 落葉広葉中高木　高さ３～５ｍ

（特　　徴）

枝が根元から分枝して上に伸び、ホウキ状の樹形になります。

４月ころ、葉に先立って紅紫色の蝶形の小さい花をびっしりつけます。

葉は互生し、ハート形で長さ５～10cm、葉縁に鋸歯がない。



（扱い方の要点）

樹勢は強い。あまり土地を選ばないが、日陰は花つきが悪くなるので日当たりのよいところを選びます。

耐寒性が強い。植え付けは秋植えがよい。

（管理と手入）

整枝はとくに必要ないが、根元からやごをたくさんだして株立ちとなるので、幹を早目につくるようにするとよい。

整枝は、冬期間がよいが、花芽ができているので、混みすぎた枝や樹形を乱す枝をはずすようにします。

（花つきをよくするコツ）

日陰は花つきが悪くなるので日当たりのよい場所へ出してやる。８月以降は整枝せん定はやめましょう。

（病　虫　害）

とくにない。

（利　　用）

庭木によい。鉢植えはできるが盆栽仕立てはむつかしい。切花にもできる。

（その他の種類）

- シロバナハナズオウ　花は白色。いくぶん花が小さい。
- アメリカハナズオウ　小高木となり花色がうすく、花は小さい。
  花は、太い枝にもかたまってつく性質がある。

ムクゲ

- 別名　ハチス
- アオイ科
- 中国原産。北海道から沖縄まで広く植栽されている。
- 落葉広葉大低木　高さ３～４ｍ
- 韓国の国花

（特　　徴）

７月中旬ころより９月いっぱい、つぎからつぎと咲き続ける夏の代表的な花木です。花は紫紅、桃、白、紫色五弁花で５～６㎝の花が咲く。花色も多く、八重のものもある。葉は互生し卵形長さ４～10㎝で３裂し、縁にあらい鋸歯があります。非常に花つきのよい木であり、よほどのやせ地や日陰地でない限り注意を要することはない。

（扱い方の要点）

総体的に強健な木であり、日当たりさえよければ土質をあまり選ばない。植え付けは４月中がよい。植え付け後はあまり手がかからず自然に形をつくってくれます。

（管理と手入）

とくにない。

（病　虫　害）

丈夫な木なのであまり病虫害の被害がないが、アブラムシが発生したらマラソン乳剤で駆除します。

（利　　用）

育てやすいので庭木のほか鉢植か生垣にも使用できます。花は一日でしおれるので切花には不適です。

（その他の種類）

- ヤエムクゲ　　花が紅紫色の八重の花が咲く。
- シロバナムクゲ　花は白色
- シロヤエムクゲ　花は白色の八重
- ヒノマルムクゲ　花が白く花弁の下部が赤色
- その他園芸種で、高さ30～50㎝の矮性のものもあり鉢植えによい。

Q&A

Q、ウメの花を咲かせるにはどうすればよいか。

店で買ってきたときは、素敵な花が咲いていたが今年は咲かない。去年満開だった庭のウメが枝ばっかり伸びて全然咲かないということがあります。

A、ウメの花芽は、春から伸びた枝が梅雨から盛夏にかけてできます。この後成熟して翌春花になります。

元気のよい枝には花はつきません。ほぼ20cmくらいで生長の止まった枝（中・短果枝）によくつきます。

その中、短果枝をつくるには、花ウメなら花の終わった直後、実ウメなら12月から翌年1月に剪定するが、切り残した枝の先端の芽が上向きにならないように切ります。

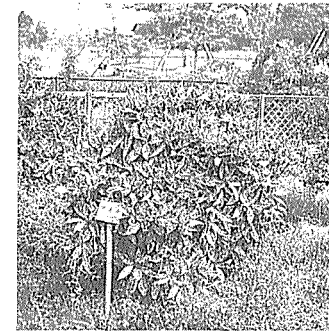
また、分化期に水が多すぎると花芽がだめになり、葉がしおれるくらいがよいのです。

花芽がつき充実させるためには、リン酸、カリ肥料を入れ、油粕以外にも骨粉を入れることが大切です。

真夏になると、中・短果枝の葉の付け元に粟状の小さな粒が2～3個かたまってつきます。こうなったらあとは水を十分にやることです。

3 〈低　木〉

アオキ



- 別名　アオキバ
- ミズキ科
- 本州、四国、九州、沖縄に分布する。
- 常緑広葉低木　高さ１～２ｍ

（特　　徴）

株立ちとなり、枝は太く緑色。葉は対生して深緑色で革質、雌雄異株。３～４月に紫褐色の小花が咲き、翌春に円形の果実が赤く熟する。変種のヒメアオキは、北海道、日本海側に分布し小型である。

（性　　質）

耐陰性強く陰樹。適潤地を好み、大気汚染に強い。

（扱い方の要点）

常緑樹で広葉のため水分の蒸発が激しいので、４月中旬から10月までが植え付けの適期であるが、真夏を避けた方がよい。

植え場所は、半日陰の腐植質の富んだところに大きめの穴を掘り、腐植質のものを多く入れ土壌水分を高めます。根のよくない場合は、枝抜き葉を落として、木を植えるときに十分水を入れて水ぎめとします。施肥は通常では必要がない。

（病　虫　害）

病気もみられるが、とくに気にすることはない。アオキは日陰か風通しの悪いところに使われている木なのでカイガラムシが発生する。すす病を誘発し葉が汚れているので、枝抜き風通しをよくしてやります。スミチオン乳剤などを６月末から２～３回散布します。

（育て方のポイント）

乾燥や、強い日差しを嫌うので、半日陰のところがよく、風当たりの強いところは葉を傷め葉が黄緑色になることがあります。

（利　　用）

身近に多く自生していて珍しくないが、年中かわらない緑と赤い実をつけ、建物の北側、下木として利用しやすい。

アオキには、枝のあらいものと、枝の密生したものがあり、庭木としては枝の密生したものがよい。また、雌雄異株であるので、雌樹を植えないと実がつかない。

イヌツゲ

- 別名　ヤマツゲ
- モチノキ科
- 本州、四国、九州に分布する。
- 常緑広葉小高木　高さ３～５ｍ

（特　　徴）

葉は1.5～3.0cmのだ円形か円形で互生し、縁に小さく鋸歯がある。雌雄異株。６月に淡紫白色の小花が咲く。果実は円形で秋に黒熟します。陰地や陽地にも耐え、土地を選ばない。生長が遅い。刈込みにも強く、公害にも強い。

（扱い方の要点）

年中植え付けできるが、４～６月、10月がよい。植え場所は、日当たりのよい肥沃地がよい。日陰でも育つが、葉が落ちる。

肥料ぎれすると、冬期に葉が落ちる。３月、７月、９月に溝を掘り、堆肥、鶏糞、化成肥料を２～３年やれば回復します。

（病　虫　害）

初夏に、ハマキムシ、シャクトリなどが発生するのでマラソン乳剤を散布します。

（育て方のポイント）

刈込みは一度に強く刈ると枝枯れをするので、伸びたら少しずつ刈るようにします。伸びすぎて樹形のくずれたものは、大きく切りもどし新しい芽を咲かせて仕立直す。

仕立て方は、丸刈り、散らし玉仕立てなどができ、基本に沿って刈込んでいく。刈込みは３～10月の間に随時行います。

（利　　用）

曲げ物仕立てで玄関わき、根締め、生垣にも使えます。

（その他の種類）

- ツゲ（ホンツゲ）　ツゲ科のもので、材はよい。クシなどに用いられる。葉つきがあらく大きいので庭には向かない。

ウツギ

- 別名　ウノハナ
- ユキノシタ科
- 北海道、四国、九州、中国に分布する。
- 落葉低木　高さ1.5～２m
- 旧暦四月（卯月）に開花することから卯の花という。

（特　　徴）

５～６月頃、白色の五弁花が総状花房をなして咲く。小枝の先に円錐状に花がつき満開時は美しい。

ウツギは大きくなるが、ヒメウツギは１mくらいで枝が下垂する。

（管理と手入）

庭木に適し、植え場所は日当たりのよい肥沃地がよく、樹勢が強健だか、やせ地では十分な生育が望めない。

植え付けは、落葉期に行い、堆肥又は腐葉土を十分入れて植えます。花は前年枝の枝から萌芽した新梢につくため、切りつめると花が望めないので、春先から伸びた枝は切らないようにします。

放任すると、枝が伸び乱れるので３～４年の古枝は根元から切ってやればよい。

（病　虫　害）

うどんこ病が６～７月頃発生しやすく、発生した場合は、カラセン水和剤を散布し、さび病は夏期に発生するのでダイセン水和剤を２～３回ほど散布します。アブラムシがよく発生するので、マラソン乳剤かスミチオン乳剤を散布します。

（利　　用）

和、洋どちらの庭にもよく似合う。芝庭でも利用しやすい。

秋には落葉するが生垣としてもよい。

・名前の由来　ウツギは幹が中空なため。ウノハナはウツギの花の略。

キョウチクトウ

- キョウチクトウ科
- インド原産で、本州東北地方以南に植栽されている。
- 常緑広葉大低木　高さ３～４ｍ

（特　　徴）

葉の形が竹の葉に似ており、花は桃の花にたとえて名付けられたものです。夏に香りのある紅色や白色の八重の花をつけます。代表的な夏の花です。

葉は革質で厚く、長さ７～15cmくらいになる。葉は有毒なので注意します。

（扱い方の要点）

寒さに比較的強い常緑樹であるが、マイナス10℃近くになると地上部が枯れて、翌年根元から株立状となって枝がでてきます。

寒冷地では、寒暖を繰りかえすので大木にならないで中低木の株立状となります。雪の多いところや、寒風のあたるところは雪囲いが必要です。

土質をあまり選ばないが、乾燥ぎみのところがよい。根付いてしまえば樹勢は強い。ばい煙や大気汚染に非常に強い。施肥は不要です。

（管理と手入）

放任すれば大きな球状の形になる。枝葉が四方に張るので相当の面積を必要とする。幹は放っておくと株立状となるので早い時期に整理する。萌芽力が強く、どこからでも芽吹きするので細い枝を整理します。整枝の時期は４月下旬頃までに行います。

（病　虫　害）

キョウチクトウにだけつく、アブラムシが発生したらマラソン乳剤を散布します。

（利　　用）

洋風の建物や芝庭に調和します。また道路や工場内に列植してもよい。

クチナシ

- アカネ科
- 本州南部、四国、九州、沖縄、中国、インドシナに分布している。
- 東北以南で植栽されている。
- 常緑広葉低木　高さ１～３ｍ

（特　　徴）

６～７月ころ、香りのよい径５～８㎝の白い花が咲きます。葉は対生で、厚さのある長だ円形。果実が裂開しないので名付けられた。花は芳香を放つ。

（扱い方の要点）

暖地性の植物なので寒さを嫌う。強い乾燥と寒さを防いでやれば育ちます。土質はあまり選ばないが、半日陰の肥沃な粘質の湿潤地が理想的です。

（管理と手入）

普通は刈り込みは行わないで、とび枝を整理する剪定をします。植え付けは、暖かくなった５～７月が適期です。堆肥、腐葉土などの有機質を十分入れて水ぎめでやや高植えとします。

（病　虫　害）

さび病、褐斑病が発生するので４月から梅雨頃までダイセン水和剤を２～３回、オオスカシバの幼虫（イモムシ状。）が発生したら捕獲するか、ディプテレックス、スミチオン乳剤で防除します。

（花つきをよくするコツ）

普通はよく花をつけるが、やせ地や日当たりのよいところでは蕾が落ちてしまうことがあります。条件の悪いところでは適地へ植えかえてやればよい。

（利　　用）

大型種は単植したり生垣状に使われ、切花にも利用できます。矮性種は池の端や低い刈込み、縁どり、列植などに利用します。

（その他種類）

- ヤエクチナシ　八重種で九州地方に自生しています。
- オオヤエクチナシ（ガーデニア）　八重咲の大型花が咲く園芸種。
- コクチナシ　中国原産の八重咲で全体に小さい。
- ヒメクチナシ　葉が小さく細い。花は小型で八重咲き。鉢植がよい。

シャクナゲ

- ツツジ科
- ヒマラヤ地方を中心に、北半球に広く分布する。日本では花が7裂するものが中部以南、5裂するものが中部以北に、また高山に育つものや、欧米で交配してつくられた西洋シャクナゲ（ロードデン・ドロン）が栽培されている。
- 常緑広葉低木　高さ2～3m

（特　　徴）

主枝は、幹の下部から株立状。葉は互生、深緑で光沢があり有柄。葉裏は褐色で綿毛が密生する。

花は5～6月、枝の梢に数片集まってつく。花色は淡紅、紅色で5裂の分弁花が咲く。

（扱い方の要点）

シャクナゲは高山に自生し、栽培にも高度の技術が必要なことから高嶺の花として一般に扱われてきたが、植栽の適した環境をつくってやれば非常に丈夫な花木です。

日本シャクナゲは、陰樹であるが日当たりのよいところでもよく生長します。腐植質で西風が当たらなければなおさらよく、空中湿度の高いところを好みます。

（管理と手入）

植え付けは根が非常に細かく、浅く広く張ります。根元にピートモスかワラを敷き乾燥を防ぐ。植え付け時期は、3月と9～11月がよい。

整枝は、あまり行わず自然に伸ばします。ふところ枝は早目に切り取ります。品種によって花つきに差があり、花つきのよい品種は蕾を適当に落として、花房を大きくしてやります。鉢植えは2～3年目に植え替え、夏はカンレイシヤを冬は株をコモで巻けばよい。

（花つきをよくするコツ）

日本シャクナゲは、樹勢が弱いため隔年開花になりやすいので、根を肥培して樹勢をつけます。春に太い枝を出させ夏芽、秋芽を伸ばさないようにします。

（病　虫　害）

- 褐斑病、葉枯れ病　　初夏から秋にかけて、葉に茶褐色または黒褐色の斑点が現れる病気で、マンネブダイセンM水和剤かダコニール水和剤をときどき散布します。夏はマルチングして保護

します。

- もち病　若葉が厚くふくらむ病気で、病葉を焼却する。ダコニール水和剤を散布します。
- 花くされ病　花に斑点がでて腐敗するので花を摘んで焼却します。開花前はジュネブ剤を散布します。
- チャハマキムシ　初夏から晩秋に発生するので、スミチオン乳剤を散布します。
- アブラムシ　オルトラン、ディプテレックス乳剤などで防除する。
- ツツジグンバイムシ　初夏から晩秋まで発生する。スミチオン乳剤を定期的に散布します。

（西洋シャクナゲの管理）

酸性土で排水のよい土壌を好み、寒風を嫌う。また鉢の土と植栽地の土との違いで根が伸びないことがあります。鉢土に合わせるか、鉢の土を少なくして、鹿沼土、ピートモス、砂による用土をつくって植えるとよい。根元にワラなどによるマルチングをしてやります。また積雪地では枝折れを防ぐために雪囲いも必要です。

（利　　用）

富山の庭には、重要な花木で単植、植え込みの前づけ、池の端などによい。

日本シャクナゲは、姿も美しいので鉢植え、盆栽にもよい。

西洋シャクナゲは、花が美しいが単調なので、切り花か鉢植えに使われます。

（種　　類）

・ホンシャクナゲ

富山、長野、愛知などに分布する。花は紅紫色で花冠は先が7裂する。葉は厚く、基部はくさび型をしています。

葉の裏面は褐色の長い綿毛が生えています。

・アズマシャクナゲ

富山から北海道に至る地域に分布し、花冠が5裂し、淡紅色で雄しべが10本ある。葉の裏面に淡褐色の毛があります。

・ツクシシャクナゲ

本州中部以南及び九州に分布し、5月に淡紅色の7枚の花をつける。雄しべは14本、枝は太く葉は互生し革質で厚い。裏面は褐色の綿毛があります。

・ヤクシマシャクナゲ

屋久島に自生する種で、葉の裏面、葉柄などに毛が他の種類より多い。

・ハクサンシャクナゲ

高山に自生する種で、黄橙色の花が咲き、葉の基部は浅いハート形となっている。

・ホソバシャクナゲ

愛知、静岡に分布し、葉は細長く、花冠は5裂し、雄しべが10本で淡紅色の花が5月に咲きます。

・キバナシャクナゲ

高山のガレキの間に自生し、小型の黄色の花を咲かせる。

・西洋シャクナゲ

多くの原種から主に欧米で改良されつくられた園芸種で、白、赤、黄、紫などの花があり、ガクは5裂し雄しべは5～10本。

一般に西洋シャクナゲは、日本原産のものより生長が早く花は大型華麗です。

Q&A

Q、サツキの鉢植えを植え替えしたい。どのようにしたらよいか。

A、鉢植えは、できれば毎年替えるほうがよいが、少なくとも2～3年に一回は植え替えしましょう。

時期は、花の終わった直後・鉢から掘り上げ、鉢の周囲に張りついている細かい根を、1.5～2㎝ほど切りつめます。さらに根に付着している用土をくずし、根をほぐして新しい用土に替えます。

植え付ける前には、枝数を半分ほど切り取ります。充実した枝を伸ばし、ふところ枝を間引くように整枝します。

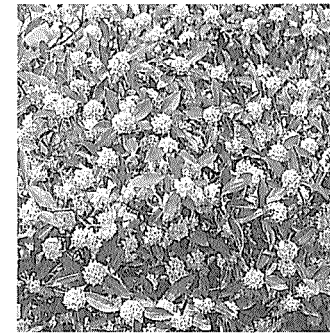
用土は、前に使っていたのと類似したものを使い、根元をよく棒でつき固め水を十分やります。

Q&A

Q、西洋アジサイ（ハイドランジア）の鉢植えを越冬させて、翌年も咲かせるにはどうすればよいか。

A、花の終わった鉢は、まず花がらを取り除いて、枝を地上から15㎝位に切りつめます。鉢は一回り大きくして、腐葉土と土を半々に混ぜた用土に移し変え、室内でも、庭でも、普通の花木と同様に育てます。とくに注意することは、寒い風の当たらないところで管理し、春、暖かいところで十分潅水してやればきれいな花が咲きます。

ジンチョウゲ



- ジンチョウゲ科
- 中国、台湾原産で、本州、四国、九州に植栽されている。
- 常緑広葉低木　高さ１ｍ内外

（特　　徴）

３月下旬～４月ころ、香りのよい紫紅色又は白の花がかたまって咲く。ガク筒の先が４裂した小花が内面で白い。雌雄異株で日本は雌株が多い。葉は互生し長さ５～10cmで厚い。

香りが強く、名香とされる沈香と丁字にたとえて名付けられた。

（扱い方の要点）

暖地性の花木ですが耐寒性もあります。日当たりを好み、排水のよい砂壌土がよい。樹勢は強健ですが、比較的に場所や土質を選ぶ樹種といえます。風の当たらない暖かい場所で午後日光をさえぎるところがよい。

（管理と手入）

植え付けは新梢の固まった７月上旬頃が最もよい、植え付けは堆肥を多く入れ、土中の温度を高めるようにして、排水の悪いところは高植えにします。また緑化木でこれほど移植しにくい木はないので、前年から根切りして細根をださせてから行うようにします。

自然に放任しても、小枝を規則正しくだし樹形を整えるのでとくに整枝の必要はない。萌芽力は強いが、一度に強く刈り込むことはあまり好ましくない。刈込みは花の終わったころがよい。

（花つきをよくするコツ）

普通の生育をしていれば花の咲かないことはない。嫌う場所は、粘質土、やせ地、過湿なところ、アルカリ性土などで、このようなところは避けるか土壌改良をします。

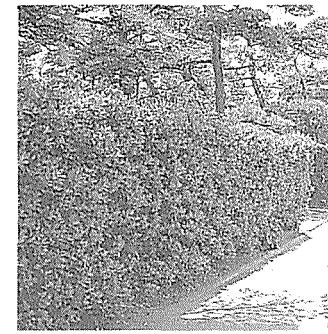
（病　虫　害）

アブラムシがつくので、マラソン乳剤で防除します。老令化すると白絹病などの土壌菌が発生するので堀り取り、土壌消毒のうえ他のものを植える。

（利　　用）

庭木、鉢仕立てをして花と芳香を楽しめます。切り枝の水揚げもよろしいので切り花もできます。

マサキ



- 別名　フユシバ
- ニシキギ科
- 北海道中部以南、本州、四国、九州、中国に分布し、富山県にも多く植えられている。
- 常緑広葉大低木　高さ２～５ｍ

（特　　徴）

枝が緑色でやや太く葉は革質で硬く対生し、だ円形で縁に鈍い鋸歯があります。６～７月に緑白色の小花が集まって咲く。果実は12月に熟し３～４裂黄赤色の種子が美しい。

耐陰性が強く、強健で生長が早い。土地を選ばず、潮害、大気汚染に強い。刈り込みに耐えます。

（扱い方の要点）

植え付けは、新梢発生期の６～８月を除く５～10月までがよい。

土質を選ばないが排水のよい肥沃地がよい。根がよく発達するので植えるときに土と根が十分接触するようにします。

（管理と手入）

刈り込み以外手入れの必要はない。刈り込みは年２～３回行う。ある程度大きくなったら強く刈り込んで樹形を整えます。

（病　虫　害）

新梢のでるころから梅雨期にかけて、うどんこ病が発生するので、採光、通風をはかり、カラセン水和剤を10日おきに散布します。黒いシャクトリムシが４～５月と８月に発生するのでディプテレックス乳剤を散布します。

（育て方のポイント）

木が大きくなれば下枝が枯れ上がるので、思い切って切りつめ、新しい芽をださせ、枝を更新します。夏から秋に行うと日焼けを起こして太い枝も枯れますので、春先芽のでる前がよい。

（利　　用）　生垣、玉づくり、生花材料など利用面は大きい。

（その他の種類）

- オオバマサキ　　葉が大きく６～５㎝ある。
- ギンマサキ　　葉の縁に不規則な白斑がある。
- キンマサキ　　葉の面に黄斑がある。
- キフクリンマサキ　葉の縁に黄斑がある。

ヤツデ

- 別名　テングノウチワ
- ウコギ科
- 本州（東北地方を除く。）四国、九州、沖縄に分布する。
- 常緑広葉低木　高さ2.5～５ｍ

（特　　徴）

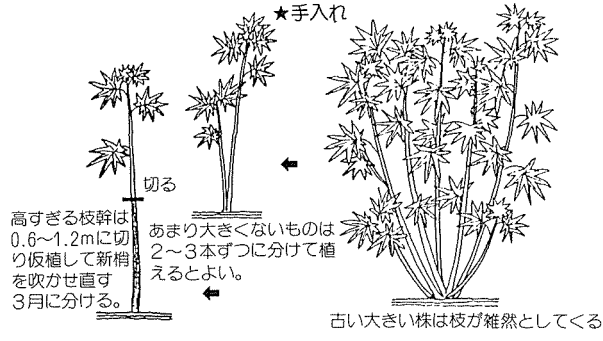
株立状になり葉は長い柄があって互生し、大きな手のひら状になり７～９に深く裂けた葉で厚味があります。

適湿地を好み、生長はやや遅いが日陰によく耐え、大気汚染にも強い。

（扱い方の要点）

植え付けは、５～６月が適期であるが10月頃まで植えることができる。日当たりのよい乾燥地を嫌い、半日陰の肥沃地を好む。寒さに弱い。

日陰に強く、樹下や建物の日の当たらない場所に適する。普通の庭には１～２株くらいがよい。



放任しても姿を整えるのでとくに必要はないが、枝か混みすぎたときは枝抜きをする。狭い庭では枝幹が３～５本くらいが適当です。

また長すぎた場合は、６月頃に適当な長さに切って、萌芽をだして樹形を整えます。12月頃黒色の実がつきますが、枝ともに除去すればよい。

（病　虫　害）

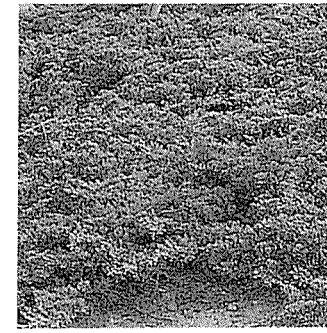
乾燥のはげしいときはカイガラムシがでやすいので、ふ化後スミチオン乳剤で防除します。

（育て方のポイント）

乾燥を嫌うので、地中湿度を高めるために堆肥などを施すとよい。

植え付けのとき、どんなに根がよくても葉が大きくては蒸散が大きいので、葉を落としてやる。また枝が混み広がりすぎるときは、６月頃に上部の葉を全部切ると、その後葉はあまり大きくならない。

ハイビャクシン



- 別名　イソナレ
- ヒノキ科
- 壱岐、対馬、朝鮮南部の海岸に自生し、本州、四国、九州に植栽されている。
- 常緑針葉低木　高さ１～1.5m

（特　　徴）

枝が横にはう低木で、葉は針状をなす。陽樹で日当たりのよい乾燥砂地でよく生育し、潮風に強い。

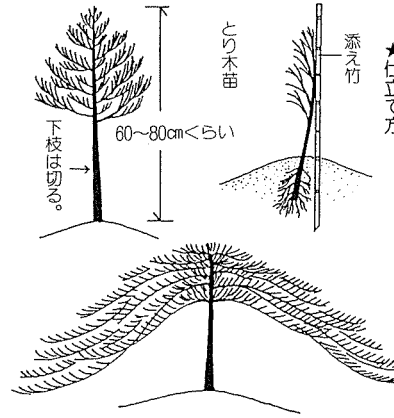
（扱い方の要点）

植え付けは盛り土などをして高植えにします。

植え穴には堆肥などの有機質を多めに入れます。

（管理と手入）

刈り込み、枝の整理の必要もなく、ほとんど手がかからない。強く刈り込むと、杉のような葉がでやすいので、強いせん定をさけます。



①苗の植え付けはまっすぐに植え、60～80cm伸ばしてから枝を伸ばすと後日の扱いが容易。
②根元を盛り上げて植えると、枝が垂れ、樹姿にふくわみがでて美しい。

石灰岩地帯を好むので、年に１～２回１握りの石灰をまいてやるとよい。施肥をすれば枝葉が美しくなるので、油粕、鶏糞や化成肥料などをまいてやるとよい。堆肥、敷ワラをすると根が上がってくるので、根元はきれいにしておきます。

（病　虫　害）

さび病とハダニが発生します。

さび病（赤星病）が春から夏にかけて発生するので、３月中旬から10日おきにマンネブダイセンM水和剤を散布し、ボケ、ナシ、カイドウが開花するころ、キノックス600倍液を10日おきに３回ほどやればよい。

（育て方のポイント）

日当たり、排水のよい所に植えます。植えるときは立てて植え、ある程度の高さになってから枝を張らせると樹形が美しくなります。

（利　　用）

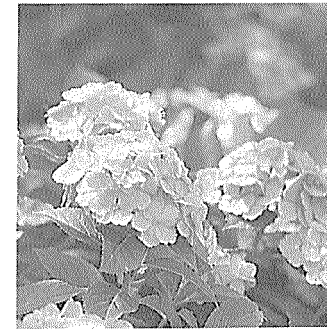
池の端の石組み、庭石に添わせたり、単植して自然に伸ばします。建物の前や塀、門柱の上などの植樹桝に入れてもよい。芝庭の盛土にもよく調和します。

Q & A

Q、よく咲くキンモクセイであったが、最近花が咲かなくなってしまった。その対策はどうすればよいか。

A、近年は自動車等の排気ガスによって、キンモクセイの発育が悪くなり、この場合、葉に水を十分かけ葉を洗ってやると開花するようになります。6～7月に雨の多い年は、よく花がつくのも、雨によって亜硫酸ガスが洗われるためと思われます。つまり大気汚染によって開花しなくなったものと思われます。

アジサイ



- ユキノシタ科
- 日本の在来種であるガクアジサイが、ヨーロッパで改良された園芸種で北海道から沖縄まで、各地に植栽されている。
- 落葉広葉低木　高さ１～２ｍ

（特　　徴）

６～７月頃、テマリ状の装飾花が、赤、青、赤紫、白など種々の花をつけます。めしべ、おしべが退化して小さい。葉は対生し広卵形で葉縁に鋸歯があります。

（扱い方の要点）

落葉の低木だが、枝が叢生して大きい株になる。放任しても半円状に樹形を整える。植え場所は有機質に富む肥沃な湿潤地を好み、日陰にもよく育ち、やせ地、乾燥地を嫌います。耐雪、耐寒性もあります。

（管理と手入）

自然に半円形の形をつくるので、特別な樹形づくりは不用です。花芽が今年枝の尖端につくので、花後は２～３枝を残して剪定するのが理想的です。

日当たりの強いところ、赤土、砂まじりの土は客土を行い、西日を避けるようにします。

肥料は、化学肥料よりも堆肥、油粕、腐葉土などを根の回りに埋めてやり、敷ワラをしてやるのが効果的です。

（病　虫　害）

とくに気にするほどのものはない。

（利　　用）

庭木として大きな木の下や池の端、建物の北側などによく植えられています。また生花の材料や、鉢植などにも利用される。

また、県民公園太閤山ランドの、1.6ヘクタールのアジサイの団地は見ごたえがあります。

鉢植には、ハイランドジヤという名で市販されています。矮化剤をかけて小さくしたかわいらしいものがあります。

アベリア

- 別名　ハナゾノツクバネウツギ
- スイカズラ科
- 中国原産のアベリアの仲間と交配してできた園芸種
- 常緑または落葉広葉低木　高さ１～３ｍ

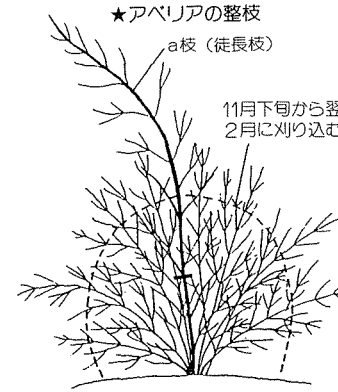
（特　　徴）

７～11月まで淡灰白色の小花を咲きつづける。花の形は釣りがね状のかわいい花をつける。大正末期に我が国へ導入され植栽されています。

一般に使われるようになったのは、昭和39年に開催された東京オリンピックのころからです。

土質を選ばず、どんなところでもよく育つ非常に強健な樹木です。新葉と秋の紅葉が美しい。花に香りがあります。

★アベリアの整枝



（管理と手入）

植え付けは、半常緑であり４～10月がよい。また樹勢も旺盛で生長も早い。せん定、整枝もできます。狭い場所では切りつめてもよい。

しかし、花は新梢の先端に着くので、新梢が伸びはじめてからは、枝を切らないようにします。従って整枝は11月から翌年３月まで行い、その後は、徒長枝を切る程度でよい。施肥は、やせ地で植え付けるときは堆肥や腐葉土をやりますが、一度活着したら土質が悪くても施肥をしなくてもよい。刈り込みをすればするほど美しくなる。

（病　虫　害）

とくにない。

（利　　用）

公園などで多く使われています。最近、生垣などにも使われるようになってきました。生長も早く樹形の復元も早いので積雪地帯でも十分利用できます。

エニシダ

- マメ科
- ヨーロッパ原産で、北海道中部以南に植栽されている。
- 落葉または常緑広葉低木　高さ１～３ｍ

（特　　徴）

４～５月頃、鮮やかな黄色の蝶形の花を一杯つける。白花、紅花などの種類がある。生長は極めて早いが10年程の寿命です。

（扱い方の要点）

初夏の庭に木全体が黄金をふりかけたように花をつけます。この木は放任すると２～３ｍになり、枝が垂れて樹形が乱れます。

日陰に植えると花つきが悪くなります。根はあまりはらないが地上部が大きくなり風で倒れやすいので、風の当たらない場所に植えます。陽樹で多湿を嫌い、排水のよい土がよい。

萌芽力が強く、小枝が多くつくが枝抜きはできないので刈り込んで仕立てる。

整枝は花が終わった直後がよい。

（病　虫　害）

とくにない。

（花つきをよくするコツ）

日当たりのよいことが絶対条件です。花は前年枝につくので、８月以降に枝を切ると翌年花はつかないので避けるようにします。

（利　　用）

芝庭によく調和します。また潮害に強いので海辺や、工場、道路沿いの植栽に適しています。大気汚染にも強い。

（その他の種類）

アカバナエニシダ、シロバナエニシダ、ヒメエニシダなどの種類もあります。

キンシバイ

- オトギリソウ科
- 中国原産で、本州、四国、九州に植栽されている。
- 半常緑広葉低木　高さ0.5～1m

（特　　徴）

常緑性ですが寒地では一部落葉します。6～7月ごろ、黄色の五弁花がつぎからつぎと咲きます。葉は対生し、卵状長だ円形で葉質は薄い。

（扱い方の要点）

樹勢強健で大低のところで生育するが、午後の日差しのない方がよい。土質はあまり選ばないが、粘質肥沃な湿潤土がよい。

（管理と手入）

植え付けは4月サクラの咲く頃がよい。有機質の堆肥、鶏糞などをやります。放任しても樹形は乱れないし、とくに大きくならないので剪定の必要もないが、列植などの場合、或一定の高さで切って整えてもよい。

（病　虫　害）

とくにない。

（花つきをよくするコツ）

日当たりの悪いところややせ地では花つきが悪いので、日当たりで肥沃なところへ出してやればよい。

小さな株でも2～3年肥培すればよく花をつけます。

（利　　用）

和・洋どちらの庭にも植えられます。芝庭にも調和するし、建物沿いに列植してもおもしろい。

切り花としても利用できます。

コデマリ

- 別名　スズカケ
- バラ科
- 中国原産で、北海道、本州、四国、九州、に植栽されている。
- 落葉広葉低木　高さ１～２ｍ

（特　　徴）

４～５月頃、弓なりに長く伸びた枝の上に、半球形の白い花の固まりをいくつも並べてつけます。一つの花は小さい花の多く集まったものです。葉は互生し、長だ円形で長さが２～４㎝の先の尖った葉で裏面はやや白い。

（扱い方の要点）

樹勢は強健で、大低のところで育ちます。

理想的な場所は、有機質に富んだ肥沃な湿潤地で、午後あまり日の当たらないところがよい。

放任しても樹形を整えるので、とくに整枝の必要はない。枝先がゆるやかに湾曲する性質がある。枝先を切ることは避けたほうがよい。

整枝は、３～４年生の枝を元から切るようにする。

（病　虫　害）

うどんこ病が春から夏にかけて発生するので、枝を整理して風通しをよくし、花の終わったあと、カラセン水和剤を２～３回散布する。アブラムシが発生したらディプテレックス乳剤を散布します。

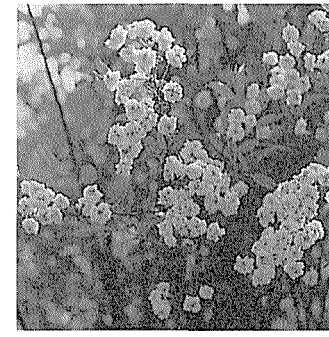
（花つきをよくするコツ）

普通に栽培すれば花がつかないことはない。土質の悪いやせ地や日陰地などが花つきを悪くする。植え替えか客土をして肥培すればよい。８月以降の枝切りは絶対避けましょう。

（利　　用）

庭木として単植より数株の群植、列植が美しい。切り花や、生垣もおもしろく鉢植でもよい。

シジミバナ



- 別名　コゴメバナ
- バラ科
- 中国中部原産で、我が国全域に植えられている。
- 落葉広葉低木　高さ２ｍ

（特　　徴）

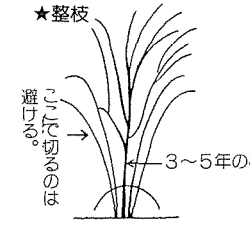
春先に、ユキヤナギに似たやや大きい八重の白い花をたくさんつけます。同属のコデマリより大きく、若枝や花柄に軟毛があります。花期は４月下旬。

日当たりのよい適潤地を好み、生長も早く移植は容易です。大気汚染にも強い。

（管理と手入）

春先きに咲く花は、夏以降枝を切ると花芽を切ることになるので切らないようにします。

枝は上方に向かって伸びるため、多雪では株が乱れるので冬は結束して雪の防止を図ります。



- ３～５年生の小枝を多く出した枝は根元から切り取り、枝をそろえてやる。
- コデマリは枝先が軟らかく湾曲するのが特徴なので、途中から切るのは避ける。

（病　虫　害）

とくにないが、カイガラムシ、ロウムシがつくので、ブラシで払い落とすか、ディプテレックス乳剤を６月下旬から２～３回散布します。

（利　　用）

公園、庭園に単植、列植し、大株仕立にするとよい。

また、生垣にも利用でき、盆栽、生花などにも利用できる。

Q＆A

Q、玄関わきの植え込みにタケを植えたいのですが、どんな種類がよいか知りたい。

A、玄関先では、あまり広い面積がとれないので、モウソウチクなどの大きいものは避けます。

日当たりの良い場所なら、キンメイチク、ギンメイチク、ナリヒヒラタケ、カンチクなど趣きのある渋いものがよい。

タケ類は、地下茎が伸びて、どんなところへでも出てくるので、深さ60～80cmに土管を埋め、その中へ植え込むとむやみに広がらない。

シモツケ

- 別名　キシモツケ
- バラ科
- 北海道、本州、四国、九州のほか、山地のがれき地に自生する。
- 落葉広葉低木　高さ１～1.5m

（特　　徴）

５～６月頃、淡紅色または白色の五弁の小花を集めて咲き、花弁よりおしべが長い、葉は互生し長だ円形で長さ５～８㎝で先が尖り、下面は白い。

樹勢が強健でつくりやすい花木で、日当たりのよい場所の方が樹形をよく整えることができます。やや日陰でも育ちます。

（管理と手入）

樹形は放任しても小枝を密生してよく整えるので、あまり手を加えないでもよい。枝もあまり長くならず、枝先に数十の花房を咲かせるので見事である。樹高を低くしたいときは、花の終わった後に強く切りつめて枝を更新します。

（病　虫　害）

病害はない。虫害ではアブラムシ、カイガラムシの被害があります。アブラムシは、ディプテレックス乳剤かエストック乳剤を散布します。カイガラムシは、冬期に機械油乳剤か石灰硫黄合剤を散布します。

（花つきをよくするコツ）

普通栽培で花がつかないことはない。日陰は花つきが悪くなるので、枝を切りつめて日当たりをよくしてやればよい。

（利　　用）

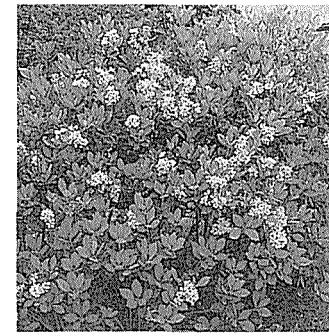
単植、群植どちらでもよいが、他の樹木との混植は避けます。

芝庭に円形に仕立てると美しい。

（その他の種類）

- シロバナシモツケ　白花をつける。
- サキワケシモツケ　紅花と白花とが混ざって咲く。
- コシモツケ（チリメンシモツケ）葉にしわができる。
- ホザキノシモツケ　枝の先端に淡紅色の小花が円錐花房をなしてつけます。寒さに強い。

シャリンバイ



- 別名　タチシャリンバイ
- バラ科
- 本州西部、四国、九州の海辺に自生し、日本海側は山形以南に植えられている。
- 常緑広葉低木　高さ３～５ｍ

（特　　徴）

小枝は車輪状にでる。葉は互生し、倒卵型で縁に鋸歯があります。

５月に小さい白い花が円錐花房をなして咲き、果実は径１㎝で10月黒紫色に熟す。

植え場所は砂質の肥沃地を好むが、刈り込みは不用です。潮風、大気汚染に強い。

（管理と手入）

枝は規則正しくだし、自然に樹形を整えます。ただ若木のうちには、新梢が長く伸びるので、この芽を摘つみとり樹形を整えます。なお、マルバシャリンバイはその限りでない。

新梢の摘みとりは、新梢の出始めたときか、伸びきったときでもよい。施肥は、窒素を多くやると寒さの害がでます。３月始めと９月に化成肥料をバラまきにする。

（病　虫　害）

カイガラムシのためすす病が発生するので、６月始めころにスミチオン乳剤を散布します。

（育て方のポイント）

枝はできるだけ切らないこと。樹勢が強くても萌芽力が弱い。

直射日光で葉を傷めるので、乾燥地は、根元に敷ワラをしてやります。

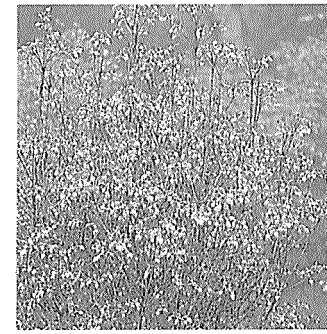
葉が落ちたり、樹勢が弱ったら、根元に堆肥を十分埋め込み、潅水をします。過湿のところを嫌います。

（利　　用）

シャリンバイは中高木になるが、マルバシャリンバイは枝が密生し、球形の形をつくるので、芝庭の単植、庭石の根じめ、前つけ、混植、寄せ植えなどにも利用できます。

５月下旬に白い花をいっぱいつけると美しい。黄色、紅色のシャリンバイも出回っている。

ドウダンツツジ



- ツツジ科
- 本州中部以南、九州に分布している。北海道から九州まで広く植栽されている。
- 落葉広葉低木　高さ２～６ｍ

（特　　徴）

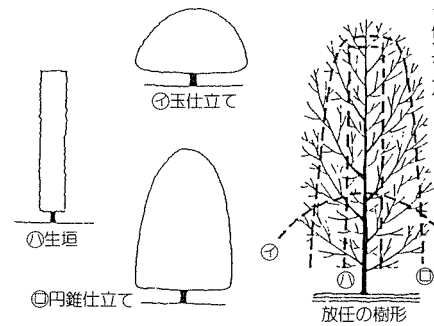
幹は多数分枝し葉は茎につき互生している。陽樹でとくに土地を選ばないが、生長が遅い。刈り込みにも耐え、紅葉はとくに美しい。

（扱い方の要点）

植え付けは、根の伸びる４月下旬～５月下旬と真夏の７月中旬～８月を避ければ年中植えられる。植え付け場所は日当たりのよい肥沃地で排水のよいところが好ましい。植穴を大きく堀り、堆肥、腐葉土をスコップに２～３杯入れて、やや高植えにします。

（管理と手入）

仕立て方としては、玉仕立、円錐仕立、生垣、寄せ植等があるが基本形をくずさいように、刈り込みを多くします。遅くなって刈り込むと紅葉がきれいにならない。



（病　虫　害）

カイガラムシが発生するくらいであり、冬期に、機械油乳剤30倍液を散布し、５月、７月にデナポン乳剤を散布します。

（育て方のポイント）

乾燥の激しいところでは、有機質をすき込んで土中湿度を高めてやり、夏期には十分潅水をする。整枝は、表面を軽く刈る程度とします。

（利　　用）

庭では生垣によく使われます。自在に刈り込みができるので、玉仕立、円錐仕立ができます。また、公園や建物の前庭に寄せ植えするとよい。

ツツジ

- ツツジ科
- 日本および主としてアジア東部に自生する。
- ツツジやサツキは同属の同科で広い意味では同じ仲間です。
  一般にツツジの中にサツキを含んでいます。
  我が国では古くから愛され、人々と生活に密着した花木です。
- 常緑広葉低木　高さ1.0～5.0m

（特　　徴）

ツツジ類は種類が非常に多く、花色も白、桃、紅朱、紫紅、黄などがあり、樹勢もそれぞれ異なっているが、総体的に樹勢は強い。あまり土質を選ばず大低のところで育ちます。しかしツツジは根が非常に細かく密生しているので、腐植質にも富んだ肥沃な軽い土がよい。粘土質の場合は腐植質を多く入れます。

植え場所は、保水性のある排水のよい酸性土壌（pH4.5～5.5）がよい。また、連作障害があるので、同じ場所に植えるときは土を入れかえるようにします。

（管理と手入）

植えつけは、完熟堆肥やピートモスを入れやや高めに植えます。時期は3月から花の終わった頃と、10～11月だが、常緑のものは年中扱いができます。

ツツジは、とくに整枝の必要はないが、サツキやクルメツツジは、刈り込みものとして使われます。整枝の時期は花の終わった後、できるだけ早く行います。とび枝は発生しだい早めに切ります。

梅雨明けに、ワラか、ピートモスでマルチングをします。

施肥は、普通は行わない。施肥する場合は追肥として花の落ちたあと、梅雨明けと、晩秋に、油粕に化成肥料を等量に混ぜたものを根元にバラまきします。

（病　虫　害）

いろいろな病虫害があるがほとんど気にならないが、病害では褐斑病は4月、9～10月に発生し、芽に不整形の褐斑がでる。

もち病は4～6月に若葉が肥大し、もち状になる。花ぐされ菌核病はつぼみや花弁が褐色になって腐る。いずれも発生前よりマンネブダイセンM水和剤1000倍液を散布します。

害虫は、グンバイムシ、チャハマキムシ、シンクイムシには、スミチオン乳剤を定期的に散布して駆除します。

夏に発生するアカダニにはマラソン乳剤を散布します。

（花つきをよくするコツ）

日陰地に植栽しないこと。シンクイムシに食害されないように管理すること。8月以降開花までの間、せん定を絶対やらなければ花の咲かないことはない。

（利　　用）

庭では単植、群植、刈り込みにしてもよく、実に使いやすい花木である。クルメツツジやアザレアなど促成できるものは、暮れから翌年1～2月にかけて切り花や、鉢植えに利用され、サツキは盆栽に仕立てられ古くから楽しまれている。

ツツジは花が美しいばかりでなく樹姿がよいので、公園や庭園にひろく使われています。

（ツツジの種類）

- ヤマツツジ　北海道、本州、四国、九州に分布する高さ1～3mの半常緑低木。4～5月に赤の花をつけます。白、紫紅、八重咲き品種などがあります。
- キリシマツツジ　霧島山系に自生するヤマツツジの一つの系統から選びだされたものと考えられる。ヤマツツジに比べて夏葉は丸形で小型、葉面に光沢があり、春に花が咲いてから新葉が開きます。花は紅色小輪て多花性。
- クルメツツジ　鹿児島県大隅半島の自生種を、江戸時代久留米で改良が続けられてきたもの。現在300以上の品種があります。花数は多く、花の色彩も鮮やかで、紫赤の濃淡、白、絞りなどがあり、葉は厚く表面に光沢があり、冬は美しく紅葉するものが多い。枝は上伸します。樹姿は縦長となりやすい。
- ヒラトツツジ　長崎県平戸市に自生種株があることから、地名をとってつけられた大形ツツジの品種群です。現在まで改良されて300品種くらいあります。

  高さ1.5m～2m半球状になり、葉は大葉で葉肉が厚く、濃緑で光沢がある。多花性。巨大輪では花径が13cmに達するものがあります。
- サツキツツジ　本州関東以南、四国、九州に分布し、5～7月に紅赤色の径3.5～5cmの花をつけ表面に光沢があり、花が陰歴の5月に咲くので皐月という。

  4種類以上の園芸種があり、キリシマツツジに比べて花期が遅く、葉につやがある。
- モチツツジ　静岡県以西と四国に広く分布し、5月上旬ころ、淡紅色、紫色

の径5㎝の花が咲く。ガクは披針形で大きく、花柄につく綿毛には粘りがあり、若枝にも毛が多く、葉の両面に毛が密生します。

- リュウキュウツツジ（シロリュウキュウ）
  4～5月に径4～5㎝の白花が咲く。
- オオムラサキ　紫紅色の径6～7㎝、ヒラトツツジ系統で、最も寒さに強い。

◎落葉性のツツジ

ミツバツツジ　本州の関東から近畿に分布し、4月、葉が開く前に紅紫色の径3～4㎝の花が咲き、葉3枚が輪生状につき、葉は菱状広卵形。

レンゲツツジ　北海道中部から九州に分布し、4～6月頃、橙赤色、径5～7㎝の花が咲く。黄色のものもあります。

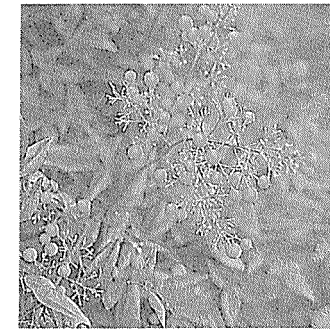
Q&A

Q、シラカバが伸び過ぎて困っています。どうすればよいか。

A、枝を切る場合は、枝の付け根から切り、切り口はセメンダインか接ぎロウを塗っておきます。

平地では、20年生くらいになると、枝枯れや、テッポウムシの被害が多くなって枯死するものが多いです。そのため大きくなって枝か枯れるようになったら、小苗と植えかえるくらいに考えたい。

ナンテン



- メギ科
- 本州の中部以西に自生し、本州、九州、四国に植栽されている。
- 常緑広葉低木　高さ１～３㎝。

（特　　徴）

果実は球形11～12月に赤熟し、円錐状に多数ついて美しい。花は六弁の小さな白花を６月ころ茎の頂に大形の円錐花房をなして咲き、葉は互生し三回羽状複葉で、全体に関節があり、小葉は披針形で長さ３～７㎝です。

（扱い方の要点）

寒さにやや弱いが、富山県では植栽可能です。

樹勢は強い。名が難を転じるに通ずることから、縁起物として玄関先によく植えられている。日陰や半日陰でもよく生育するので陰樹として扱われるが、日当りのよい場所は実のつきがよい。土質は粘土質がよい。

（管理と手入）

放任すると丈が高くなり過ぎるので整枝する。庭木としては1.5ｍの高さがよい。実をつけた枝は翌年開花しないので、正月前に生花用として切りつめます。細い枝、混み過ぎた枝は適宜切り取ります。冬期間に着花を促すため断根をし、堆肥、鶏糞を入れ、８月下旬に過燐酸石灰をやるとよい。

（病　虫　害）

カイガラムシのつく程度で病虫害は少ない。

（花つきをよくするコツ）

日当たりのよいところで、あまり乾燥しないところへ植える。窒素質をおさえて、株を大きくするとよい。

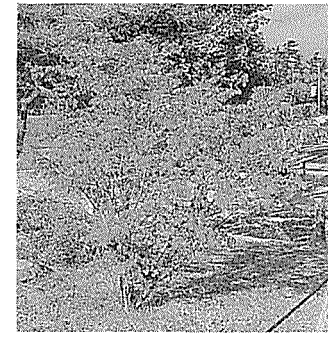
（利　　用）

玄関脇、通用口によく用いられる。鉢植、盆栽にもよい。

（その他の種類）

- シロナンテン　　果実が黄白色
- フジナンテン　　果実が淡紫色
- キンシナンテン　茎が短く、節間がつまり、小葉は細長く糸状
- シナナンテン　　小葉が卵形で小型

ニシキギ



- 別名　ヤハズニシキギ
- ニシキギ科
- 日本全土、朝鮮、中国に分布している。
- 落葉広葉低木　高さ３ｍ

（特　　徴）

枝は四方に広がり密生します。葉はだ円形で、４月に萌芽し、夏は緑が濃く秋に紅葉し赤い実が美しい。５～６月は黄緑色の花をつける。

土壌は排水のよい肥沃地を好み、耐陰性が強いので、高木の下にも植栽が可能です。枝に翼がついている。

ニシキギは、紅葉のいいもの、翼のあるもの、実つきがよいもの等個体差があるので、株を見分けて栽培します。

（管理と手入）

ニシキギは何といっても紅葉をみる木であり、日当たりのよいことが大切です。木は放任していても形をつくるので、とび枝を整理してやる程度でよい。時期はいつでもよい。

移植は、落葉中がよいが、細根性であり、年中あまり時期をこだわらなくてもよい。

（病　虫　害）

マユミに準ずる。

（利　　用）

庭木としても珍重され、盆栽、生垣などにも利用され、生花材料としてもよい。

Q＆A

Q、山へ行くとモミジの小苗をよく見かけるが、庭へそのまま植えても育ちますか。

A、山へ行くと、モミジの大木の下に小苗がよく生育しています。小さな苗なら、ぬらしたちり紙に包んで持ち帰り、庭に植えます。植え付け後１週間ほど、強い日に当てないようにして、毎日潅水すればほとんど活着します。

ハギ

- 別名　ヤマハギ
- マメ科
- 北海道、本州、九州の山野に自生する。
- 秋の代表的な花で、秋の七草の一つです。
- 落葉広葉低木　高さ 2～2.5m

（特　　徴）

8～9月にかけて、紅紫色の蝶形花を枝いっぱいつけて美しい。葉は互生し、葉が3枚の複葉で、長さ1.5～4㎝の広だ円形、裏面に綿毛があります。

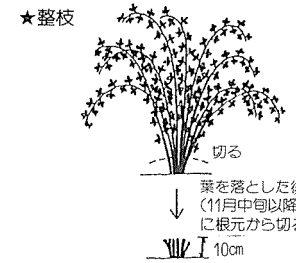
（扱い方の要点）

樹勢が強く扱いやすい木です。腐植質に富んだ肥沃な日当たりのよい場所を好み、やや日陰でも育ちます。

（管理と手入）

植え付けは萌芽期間中がよい。寒さには強いが、地中の芽出しが早いので、春は早目に植え付けたい。

枝を切らないでおくと、大きくなりすぎ見苦しくなるので、毎年秋から春にかけて地上部を切って、新枝を伸ばすようにします。



（花つきをよくするコツ）

伸びた新梢を切らないこと。日陰は花つきが悪くなります。

（病　虫　害）

アブラムシがつくので発生したら、マラソン乳剤を散布します。

（利　　用）

庭では単植がよい。広い庭では大株仕立ても見事です。芝庭にもよく合います。列植、群植は株間を十分離した方が美しく仕上がります。

（その他の種類）

- ミヤギノハギ　　根元から株立状になり枝は垂れる。花は赤、白花があり多くつくので見ごたえがある。葉先が尖っています。
- ヤクシマハギ　　淡紅紫色の花をつけ、葉が小さい。鉢植えによい。

ハクチョウゲ

- アカネ科
- 沖縄、台湾に自生。東北南部以南、四国、九州などに植栽されている。
- 常緑広葉低木　高さ１ｍ

（特　　徴）

枝は細く密生し、葉は小さい。初夏のころ小さな白色六弁花をつけます。花期は５～６月。葉は革質で濃緑色。

（管理と手入）

樹勢も強く、病虫害にも強く、日当たりを好むが、半日陰でも育つ。土質としては腐植質のある適潤な肥沃土がよい。

（育て方のポイント）

枝の伸長が早いため、形がくずれるので刈り込みをくりかえし行う。刈り込みを続けてゆくと、葉が小さくなって揃ってくる。

（病　虫　害）

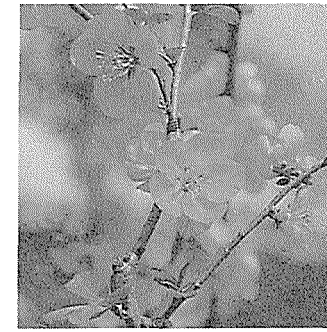
とくにない。

（利　　用）

低い生垣によい木です。また花壇の縁取りや寄せ植えにも適し、円形仕立して玉物にしてもよい。

原種より、葉の縁に白い縁取りの入ったフイリハクチョウゲの方がよく使われます。

ボケ



- バラ科
- 中国原産だが、日本には平安時代に入り、本州、四国、九州などに植栽されている。
- 落葉低木　高さ２～３ｍ

（特　　徴）

４～５月ころ、赤または白色の径３㎝の五弁花が咲く。果実は円形で大きく７～８月に黄色に熟す。小枝にはトゲがあり、葉は互生し、縁に鋸歯があります。

（扱い方の要点）

樹勢は強く土質をあまり選ばないが肥沃な日当たりのよいところがよい。植え付けは９～11月に堆肥を十分に入れて、根元に敷ワラをして乾燥を防ぎます。

（管理と手入）

放任すると枝が乱れるので、秋から冬にかけて強いせん定をします。11月以降花芽がはっきりしてから、花芽を残して切りつめ、好みの形に仕立てます。

（花つきをよくするコツ）

夏に枝をきると花芽となるべき芽が葉芽となって伸びてしまいます。せん定は夏にやらないことが大切です。

日陰に植えたり、夏乾燥が続くと花芽がつきにくいので、敷ワラをして、潅水を十分することが大切です。

（病　虫　害）

ボケは根にがんしゅ病（根に大豆大のコブができる。）ができやすく、重症ならば抜いて焼却し、軽症なら切口に石灰硫黄合剤を塗っておきます。発生した場所には３～４年間ボタン、サクラなどこの病気にかかりやすいものは植えないようにします。

（利　　用）　庭に単植として大株にするとよい。ほかに鉢植え、盆栽、切り花、生垣にもなります。

（その他の種類）

- ヒボケ　　花が朱紅色。
- シロボケ　　花が純白色。

園芸種としては、

- トウヨウニシキ　紅白咲き分ける大輪種。
- チョウジュラク　朱紅色の八重大輪。樹勢が強い。
- オオヤンマ　　乳白色の八重大輪種。
- キンジシ　　朱紅色の一重、ときに半八重大輪。樹勢強い。

ボタン

- キンポウゲ科
- 中国原産で、我が国に古くから広く植栽されている。
- 百花の王と称賛される。
- 落葉広葉低木　高さ１～２ｍ

（特　　徴）

５月ごろ、径約20cmにもなる美しい花を開く。花弁は７～９枚で縁に不規則な歯芽がある。葉は互生し、大型で卵形で先が２～３裂し、下面は帯白色である。

世界中で古くから改良され多数の園芸種があり、花色も紫、紅、淡紅、白、黄などがあり、一重、八重、千重咲きなどがあります。

（扱い方の要点）

樹勢は割合強い。条件がよければ長年生育します。

土質は、腐植質に富んだ肥沃な砂壌土または粘質土がよく、風の当たらない日なたがよい。

（管理と手入）

植え付けは10～11月がよい。完熟堆肥や腐葉土、鶏糞などを入れます。根に直接堆肥などがさわらないようにし、高植えにします。

整枝は、とくに行うことはないが、放任すると小枝が密生して通風、採光が悪くなる。整枝するときは、花芽は充実枝の先につけるので、太い枝は大切にし、細い枝や混みすぎた枝は根元から整理します。整枝は11～12月に行います。

施肥は、冬期間に堆肥、腐葉土、鶏糞などを根元に埋め込みます。花の終わった直後と９月に、窒素分の少ない化成肥料をバラまきします。骨粉を５～９月に一握りずつ根元にばらまきします。

（病　虫　害）

土壌線虫の被害を受けると、葉が萎縮したり、葉脈に黄白色の斑がでたりするので、植える前に土壌消毒をすればよい。これをしなかった場合はネマナックス粒剤を散布します。

アブラムシは、４月～９月まで発生しエストックか、ディプテレックス乳剤を、カイガラムシには冬期間石灰硫黄合剤を、６月下旬ころにデナポン乳剤を２～３回散布します。

（花つきをよくするコツ）

春に植えないこと。枝先をむやみに切らないこと。日陰や湿地に植えないように気をつけ、日当たりや排水のよい肥沃地に植えるとよい。

ボタンは接ぎ木でふやすし、ボタン台とシャクヤク台がある。シャクヤク台の場合は短命なので、深植えしてボタンから根を出させるようにします。

（利　　用）

広い場所に単植するのがよい。数本植える場合は株間を1.5ｍくらい離して植える。また鉢植の場合は花、葉とも大きいので大きい鉢を使って調和をはかるとよい。

Q＆A

Q、ボタンの根元から出てきた新芽は、株分けしてもよいか。また分ける芽の見分け方をどうすればよいか。

A、ボタンは、ボタン台とシャクヤク台とに接木して苗木はつくられます。どちらの台かを見分けることです。ボタンの台の芽は、淡紅色で葉の切り込みが多いので区別がつきます。

シャクヤク台の芽を伸ばすと、ボタンが枯れますので切り取ります。ボタン台からでる芽も取り除きます。

台木でないところから出た芽は、大株ならば９月上旬に株分けできます。

マユミ

- 別名　ヤマニシキギ
- ニシキギ科
- 北海道から九州まで分布している。
- 落葉広葉低木　高さ２～８ｍ
- マユミの名は弓の木ということから名付けられたものです。

（特　　徴）

紅葉も美しいが、実をたくさんつけた様はなお美しい。果実はやや四角形で径１㎝位、９～10月ころ紅色に熟し、仮種子が４裂して赤い種子を露出します。雌雄異株。５～６月ころ淡緑色の径８㎜くらいの四弁花が枝の下部に咲きます。葉は対生し長だ円形で長さ５～12㎝。縁に低い鋸歯があり、両面はほとんど無毛です。

（扱い方の要点）

樹勢が強く、やせ地でもよく生育します。マユミは紅葉をみる木でないので半日陰でもよい。

（管理と手入）

植え付けは落葉期に行います。放任してもある程度の樹形を保つので、整枝の必要もないが、とび枝や多少の枝抜きを落葉期に行う。土壌は排水のよい腐植に富んだ湿潤地がよいので、土中湿度を高めるため堆肥、腐葉土を入れ夏期に敷ワラを行います。

（病　虫　害）

とくにない。

（実つきをよくするコツ）

マユミは個体差が大きく実つき、葉の色などに差があるので、実つきのよい、色の美しいものを選んで植えるようにします。日当たりの悪いところは実つきが悪く、根元を乾燥させると実どまりが悪くなります。また、むやみに枝を切らず、とくに長く伸びたものを切るとよい。

（利　　用）

盆栽や鉢植えに利用されることが多い。盆栽は幹を根元から切り萌芽させ、丈を低く仕立てます。

庭では、植え込みの前づけや、大株の単植がよい。

ムラサキシキブ

- 別名　ヤマムラサキ
- クマツヅラ科
- 北海道南部から沖縄、台湾、中国に分布し、広く植栽されている。
- 落葉広葉低木　高さ２～３ｍ

（特　　徴）

秋が深まるころ紫色の小さな実がたくさんついて美しい。

果実は、径３㎜の小さな核果が集散状に集まってつき、11月頃に紫色に熟します。花は６～７月ころ淡紫色の小花を多くつけます。葉は対生し、長だ円形で長さ６～12㎝で縁に鋸歯があります。

（扱い方の要点）

紫色のつやのある小枝は野趣に富み秋の庭木といえます。樹勢は強く、乾燥を嫌い腐植質に富んだ湿潤地を好みます。

植え付けは、３月から４月がよく、植穴に腐植質のものを十分入れ土中湿度を高くしてやるとよい。

（管理と手入）

とくに整枝の必要はないが、茂りすぎることもあるので枝すかしをします。枝すかしは途中から切らず根元から切って、自然に垂れ下がるような樹形にします。

（病　虫　害）

とくにない。

（花つきをよくするコツ）

乾くところや、大きな木の影では枝が軟弱になり花つきが悪くなります。また花芽は前年に枝につくので、秋以降の剪定は花芽を落とすので絶対避けます。

（利　　用）

茶庭、池の端などによく、和風の庭によく似合う。そのほか鉢植、盆栽によい。また小鳥もこの実を好んで食するので、給餌木としての利用もよい。

ヤマブキ

- バラ科
- 北海道、本州、四国、九州、朝鮮などに分布してる。
- 落葉広葉低木　高さ１～２ｍ

（特　　徴）

４～５月ころ、新葉とともに黄色五弁の花をつける。花径３～５㎝の花を小枝の先につけます。花は広だ円形。枝は緑色で細く、葉は互生して卵形、長さ３～７㎝で葉質は薄く、先が尖り、縁には重鋸歯があります。古茎は数年で褐色となり枯死する。

（扱い方の要点）

樹勢はあまり強いとはいえないが、適地であればみごとに生育します。山間の谷川沿いの湿ったところに、見事な群生をみます。このことから、半日陰の肥沃な適潤地がよい。

庭木としては、高木の下木として植えることが多いが、常緑樹より落葉樹の下がよい。

（管理と手入）

植え付けは10～11月、３月がよいが、地上部を切って植えればいつでもよい。元肥に堆肥、腐葉土を入れて高植えにします。根元に地下茎枝を多数発生するので、早目に切り取ります。

枝は古くても花をつけるが、３～４年に１回は枝を強く切りつめて、株の更新を図った方がよい。

（病　虫　害）

とくになし。

（花つきをよくするコツ）

日当たりや、やせ地は花つきが悪いので、土壌改良か移植をします。７月以降の剪定は、萌芽の形成に悪影響があるので避けたい。

（ふやし方）

ヤマブキは挿し木、株分け、シロヤマブキは種子を取りまきにします。２～３年で花がみられます。

（利　　用）

庭木として単植、群植、下木、前付けなどに用いられます。水辺、斜面によい。生垣にもよく、一部切花としても利用されます。

ユキヤナギ

- バラ科
- 本州中部以南、四国、九州などに分布している。
- 落葉低木　高さ１～２ｍ

（特　　徴）

春垂れ下がった枝に、白い花が雪が積もったよう叢生した小枝に、白色五弁花が咲き、枝全体が花の穂になって美しい。枝は弓形にやや垂れ葉は互生し、長さ２～３㎝の披針形で縁に細鋸歯があります。

（扱い方の要点）

樹勢は強く、あまり土質を選ばないが、日当たりと排水のよい有機質に富んだ肥沃土がよい。

（管理と手入）

植え付けは10～11月、３月がよく、堆肥や落葉を入れ高植えとします。

放任しても樹形を整えるが、古い株は花後に更新してやるとよい。また樹形を小さくする場合は、花の終わった直後に根元から切り新梢をださせます。この場合は、生長期間中であり断根を行い肥培をします。

（病　虫　害）

うどんこ病が発生したらカラセン水和剤を散布する。通風、採光をよくすればある程度防げます。

アブラムシがつけばエストックかディプテレックス乳剤を散布します。

（花つきをよくするコツ）

環境に合わないと花つきが悪くなるので、日当りのよい適地に移してやりたい。また夏以降の剪定は花芽を切るので行わない。

（利　　用）

公園や道路に列植や群植すると見事です。芝庭、池の端、前付けなどにもよい。古くから切花にも利用されています。

ライラック

- 別名　ムラサキハシドイ、リラ
- モクセイ科
- ヨーロッパ原産で、北海道、本州、四国、九州に植栽されている。
- 落葉広葉小高木　高さ１～７ｍ

（特　　徴）

４～５月ころ、枝先に狭い円錐花房をなして多数の紫色などの小花が咲き、香気があります。花冠は長さ１㎝の細長い筒状で先が４裂し平開する。葉は対生し、やや三角状の広卵形で長さ５～10㎝。

花色は白、淡紫色で一重、八重があります。

（扱い方の要点）

ライラックは暑さに弱いとされているが、園芸種で耐暑性のものもあります。

植え場所は、肥沃な排水のよい粘土質がよく、単植や群植がよい。他の木との混植を避けるようにします。

植え付け時期は11月から翌年３月中に、接ぎ木苗は半分くらいに切りつめ高植えとします。

（管理と手入）

放任しても樹形を整えるが、花が小枝の先端につくので、３～４年に１回強いせん定をして樹形を整えてやります。枯れ枝、細枝、からみ枝などは冬期間に切り取ります。枝を少なくした方が花房が大きくなります。強い剪定は花後にします。

施肥は冬期間に鶏糞をスコップに１～２杯埋め込み、花後の５～６月と９月に一～二握りほどの化成肥料をバラまきします。

（病　虫　害）

こうやく病が発生します。カイガラムシの分泌物に胞子が付着してつくので、カイガラムシの防除をします。

テツポウムシは根元をきれいにして、もしも侵入したらスミチオン乳剤原液を穴の中へ入れて穴をふさぐとよい。

（花つきをよくするコツ）

咲き始めるとその後はよく花をつけます。

日陰は避け、太い短い充実した枝を多く出させるように肥培します。花は枝先につけるので、７月以降の枝切りは避けます。

（利　　用）

庭木として多く利用されているが、鉢植、切り花にも利用されます。

（種　　類）

- トラゲン　　灰紫色で花は大きくないが、花つきがよい。
- マダム、レイモン　　白色八重咲きで花房が大きく、やや立條性。

チャーレズ・ジョリー　　紫紅色八重咲き、枝は細く、花は中くらい。

Q&A

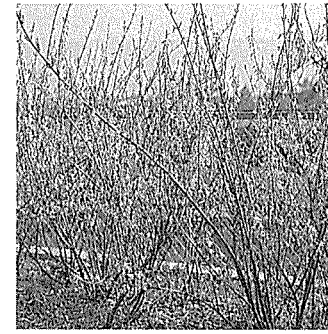
Q、ドウダンツツジの生垣をつくりたいのですが、植え方と間隔をどうすればよいか。

A、苗木は、高さ、60cm内外のものを、1m当たり3本の計算で用意します。

植付時期は、雪どけ直後がよい。外側が公道の場合は、境界より、30cmほど内側に植えます。これは生長すれば枝巾が40cmほどの枝張りに仕上がるためです。

ドウダンツツジは、紅葉が美しいので、9月にせん定をすれば紅葉がきれいになります。花を目的とするのならば9月せん定をやめます。

レンギョウ



- モクセイ科
- 中国原産で、北海道から沖縄まで広く植栽されている。
- 半つる性落葉低木　高さ２～３ｍ

（特　　徴）

３～４月に葉のでる前に黄色の花が咲きます。枝は長く弓状に伸び地上につくと発根します。ズイは中空です。葉は対生し卵形。長さ４～８㎝上半分鋸歯があります。

（扱い方の要点）

樹勢も強く、耐暑、耐寒性もあり、大抵のところでは育ちますが、日陰を嫌います。日当たりのよい肥沃地がよい。

植え付けは、10月から翌年３月まで植え付けられる。堆肥を十分入れ、高植えにします。

（管理と手入）

放任すると枝を四方へ出してからみ合うので、１ｍ位の幹を立て、そこから枝を伸ばすように樹形をつくります。

レンギョウのうちでも、枝が細く長く伸びるものをツルレンギョウといいますが、放っておくと幹が地をはうので、支柱を立てて誘引します。チョウセンレンギョウは、大きく湾曲する枝を叢生するので円形刈り込みがよい。

整枝は、冬期間と花後がよい。冬のせん定は花芽を切るので間引く程度とします。強いせん定は花後に行う。

（病　虫　害）

カイガラムシがいくらか発生する程度です。多発したときは、花後根元から切り取り焼却します。

（利　　用）

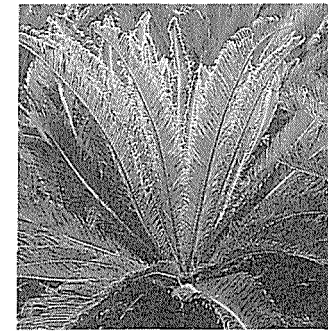
庭木として、日当たりのよい場所に単植か列植し、生垣、玉仕立や幹を立てたスタンド仕立てもよい。

（種　　類）

- シナレンギョウ　　黄色の花が下向きで、やや花が小さく、開花期はやや遅い。葉は狭だ円形。
- チョウセンレンギョウ　花は大きく、花色はやや紅みがかった黄色、ズイに小さな仕切りがたくさんあります。

4 〈つる性植物ほか〉

ソテツ



- ソテツ科
- 九州南部、沖縄、中国などに分布している。
- 関東以南の暖地に植栽されている。
- 常緑広葉小高木　高さ３～７ｍ

（特　　徴）

茎は太い円柱形で、茎全面に葉の落ちた跡があります。葉は大型の羽状複葉で、茎に集まってついています。葉質は硬く、線形をしています。雌雄異株。花は８月に開花し、雄花は円柱状に直立し、雌花は球状に集まり黄褐色の毛が密生しています。

湿地を嫌い、日当りの良い乾燥地を好む。また、寒地に弱く、暖地に良く育つ。潮風に強く、大気汚染にも強い。生長が遅く、寒さに弱い。

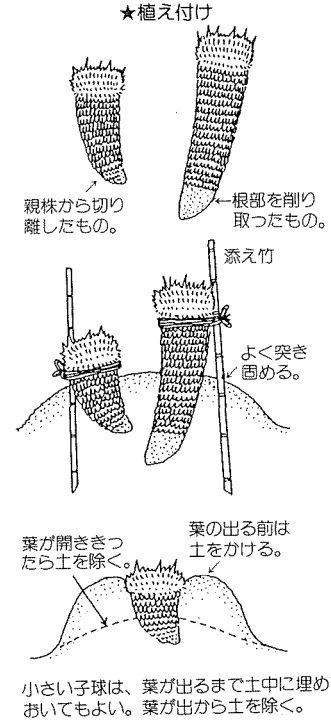
（扱い方の要点）

暖地系の植物であり、植え付けも暖かくなった５～９月がよい。混植を避け単植にします。

植え付けは、穴を大きめに掘り、堆肥や鶏糞をスコップ１杯入れ、土を10cmほど入れ、よく踏み固めた上にソテツを立てて、さらに土を入れ突き棒でよく突き固める。排水のよい場所でも30～50cmくらい高植えにします。植え付け後は支柱をして倒伏を防ぎます。潅水は植え付けの時だけでよい。

（管理と手入）

剪定、整枝の必要がなく、初夏に新しい葉が出たら古い葉を切ります。冬は防寒を要するのでワラ、コモで包むが、葉を全部切ったほうが寒さに強い。



（病　虫　害）

とくにない。

（育て方のポイント）

過湿によって根ぐされが起きた場合、腐った部分をナイフで切り取り、葉を落として２～３日後切り口が乾いてから植え直す。

（利　　用）

庭に単植がよい。一本ではさびしいので大小数本組み合わせて植えます。芝庭や洋風建築にもよく調和します。鉢植や、生け花にも使えます。

バラ

- バラ科
- 北半球の温帯や亜寒帯に100～200種が分布し、日本でも十数種類があります。
- 半常緑または落葉つる性低木
- 5000年前の昔から栽培され、交配を繰り返してすばらしい花がつくり出され「花の女王」とまで呼ばれ、その種類が数千種といわれます。

（特　　徴）

品種が多く環境や管理の状態にもよるが、総体的に樹勢は強いとみてよい。栽培は、日当たりのよいところで腐植に富んだ粘質土壌がよい。しかし、軽い土でも管理しだいでよく育ちます。

植栽は他の樹木との混植を避け、同じ種類を数本まとめて植えた方がよい。

（管理と手入）

植穴は大きく掘り、完熟堆肥、鶏糞、落葉などを多く入れ高植にし、根元に敷ワラをして保護します。

植え付けは、芽の動きが早いのでできるだけ春先早く植えるようにします。

種類によって、一季咲きのものと四季咲きのものがある。整枝はその違いによって差がある。一季咲きは、今年伸びた枝の先端に花をつけるのでとくに問題はない。四季咲きは、花が終ったらすぐ整枝します。

強いせん定は冬期間行い、花後のせん定は、小葉の５枚の葉の上で切る程度でよい。

（施　　肥）

よい花をつけるポイントは、施肥と薬剤散布であるといわれるくらい肥料を要求します。元肥とともに追肥として、６月と８月に油粕と化成肥料を等量混ぜたものを二～三握りバラまきをします。

（病　虫　害）

- うどんこ病　　春から秋にかけて、カラセン水和剤を７～10日おきに散布します。
- 炭そ病、黒星病　葉に黒褐色の斑点ができる病気で、病葉は焼却し、ダイセンステンレス水和剤、マンネブ剤などを一週間おきに散布します。
- カイガラムシ　　冬期間に石灰硫黄合剤を２～３回、または、６月、８～９月

にデナポン乳剤を散布します。

• アブラムシ　　マラソン乳剤やエストック乳剤などを散布します。

（花つきをよくするコツ）

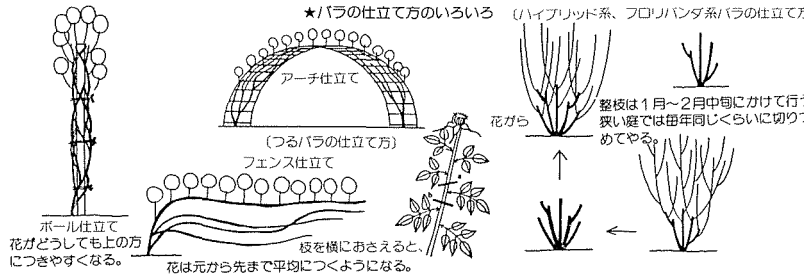
施肥と病虫害の防除を行います。放任すると花つきが悪くなります。また日当たりをよくしてやりましょう。

整枝は、小枝を切り充実した枝を残すようにします。

（利　　用）

庭では、広いところに単植するか群植すると美しい。芝庭によく調和します。つるバラは垣根に仕立てたり金網のフェンスにからませるとよい。その他、ポール仕立て、アーチ仕立などもできます。

鉢植えもよく、切花にも多く利用されます。



（種　　類）

バラは、バラ属のものを総称してバラと称しており、一般には西洋バラをさす場合が多い。

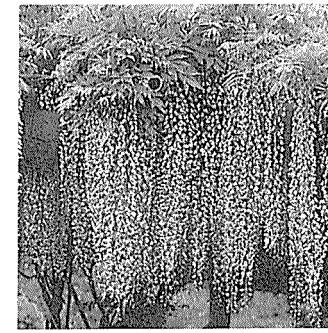
• ノイバラ　　日本在来で、5～6月に白い五弁花をつけます。

• サンショウバラ　静岡県に多く自生し、淡紅色一重の花を5～6月につけます。

• ハマナス　　本州中部以北の海岸砂地に生え、6～8月に紅色の五弁花をつけて、枝にトゲが密生します。

• セイヨウバラ　雑種性の園芸種で数千種があり、つるバラと木バラがあり、一季咲きと四季咲きがあり、花色、花の大小など変化に富んでいます。

フジ



- 別名　ノダフジ、ムラサキフジ、ヤマフジ
- マメ科
- 本州、四国、九州の山野に自生する。
- つる性落葉低木

（特　　徴）

4～5月ごろ、下垂した長さ30～60cmの総状花房をなして、淡紫色の蝶形花をつけます。つるは右巻きになり、葉は互生し、卵状長だ円形で若葉のとき毛があります。花は、房が長く下垂し30～90cmになる。

（扱い方の要点）

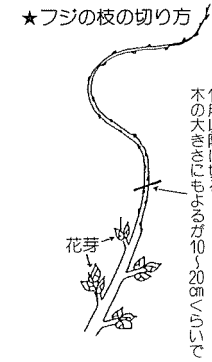
樹勢は、極めて強く、刈り込みも自由にできます。

土質は肥沃な粘土質で湿潤地を好む。日当たりのよいところか、半日陰がよい。

（管理と手入）

植え付けは、落葉期間中ならいつでもよい。植え穴は大きめに掘り、堆肥、落葉などを入れ高植えにする。なお、フジの根の掘り幅は、先端まで丁寧に掘って根を巻いて植えるようにします。

フジの花は、前生枝の短枝に花芽ができます。花が咲けば花房の元の部分にもつきます。春から夏にかけて伸びたつるは切らずにおき、11月以降に整枝をします。徒長枝や混んだ小枝も取り、採光通風をよくしてやります。



（花つきをよくするコツ）

花がつかないのは栄養生長が旺盛なためです。そのときは断根して窒素成分をおさえ、リン酸、カリなどを施し、大枝を抜いてやれば花がつきます。

（病　虫　害）

とくにない。

（利　　用）

棚仕立てが一般的であるが、空地や軒先に仕立ててもおもしろい。切り花、盆栽も可能です。

（その他の種類）

- シロハナフジ　純白色の花をつけます。
- アケボノフジ　淡桃白色の花をつけます。

- シダナガフジ　花穂が長さ１ｍ以上になります。
- 一歳フジ　幼木で開花し、花穂は30cmくらいになります。
- ヤエフジ　花が八重咲きになります。

Q＆A

Q、日陰に生えるゼニゴケは、どうしたら退治できるか。

A、名前がよいが、このコケが庭にべったり生えると、みにくく気持ちの悪いものです。

蘚苔類は、日陰で排水の悪いところに必ず生えてきます。

繁殖力は極めて強く、一生懸命削ってもまた生えてきます。鉢物をもつ人には全く困った雑草です。

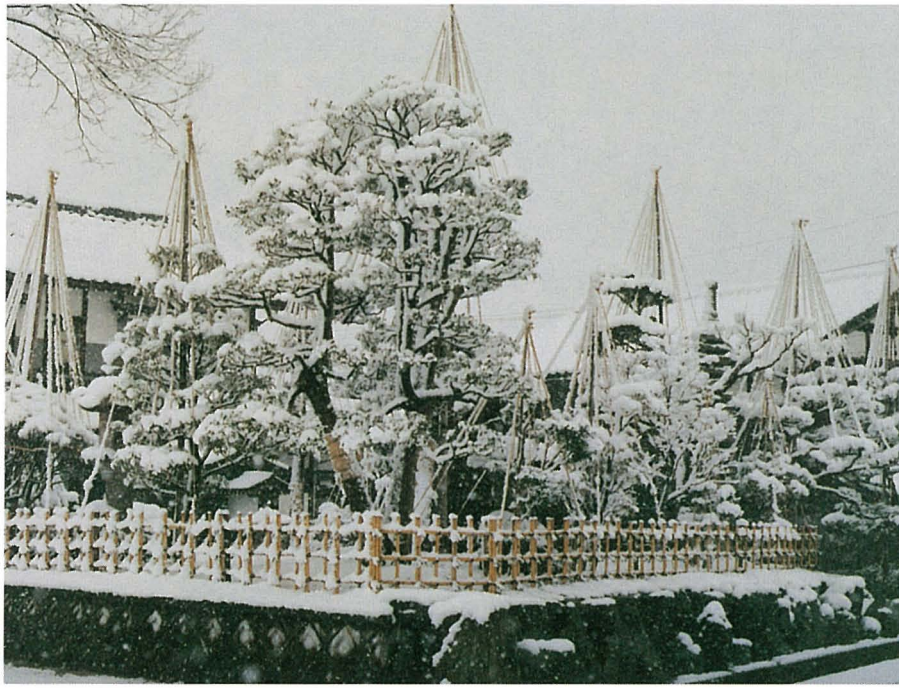
これを退治するには、食酢がよいでしょう。筆や、ボロキレに食酢を染み込ませ、ゼニゴケの表面から拭いてやれば１～２日で黒変します。周囲に影響がなかったら、熱湯をかけるのも一つの方法です。薬剤もあります。

Ⅲ 楽しい緑づくり

サツキ

フジ

カリン



フェニックス

1 住宅の庭づくり

(1) 楽しい庭づくりのために

庭の歴史は非常に古く、人類の狩猟生活が終り、住居生活に入る頃から庭が始まりました。

その頃は、庭に薬草や野菜や花を植えたりして、いわゆる家庭菜園的な機能をもつものでした。

そのような庭づくりの起源がその後、変遷をたどり現在のような多様な庭づくりになってきたものであります。

ここでは、金沢の兼六公園のような大庭園には触れないで、せいぜい200㎡くらいの一般住宅の庭を考えてみます。

富山は、東京や大阪と違い、冬は寒気が強く雪が降ります。

しかしながら、このような気候風土も、富山の庭づくりには決定的なダメージを与えることはありません。とくに冬の雪吊りの風情などは、かえって雪の降らない地方に比較して、変化に乏しい冬の庭にアクセントを与えてくれます。

また、雪が溶けて春になると、長い冬から開放されて樹木の新芽立ちと復活の喜びを感じます。

このような気象条件が、庭の形や樹木、草などの種類にも影響して、富山の庭の特徴を創り出しているものといえます。

庭の形のうえからの種類として、池や築山のある山水庭と、池があっても築山のない平庭に大別されます。

また、眺める位置から庭の中を回って見る回遊式か、または小面積の洋庭などに分けられます。

日本には、古来から日本独特の固有文化があったはずです。それは、種々の考証から、非常に開放的で途方もなくにぎやかで楽天的なものでなかったかと推察されます。

それが、仏教伝来、とくに禅僧の渡来により変化があり、明治に入って西洋文化の伝来も、今日の日本文化に大きな影響を及ぼし、その投影が今日の庭園や建築に具体的に表れております。

今日の日本庭園は、桂離宮の庭園に代表されるように、日本人独特の自然観による洗練された形が、世界に誇る庭園美として今日まで保存されています。

私達が、庭の形を考えるとき、今までどこかで見たことのある庭園美が、いつしか心の底に残っており、その形を自分のものとしながらこれからつくろうとする庭の形を決定します。

その形は、何等約束ごとはありません。自由に、その家独特のものを考え

ればよいわけです。流派などに係わる必要は全くありません。

ただ、庭は樹木や草などを材料の一部とします。したがって、これが永遠の生命を保つようにしなければなりません。さらに、今日まで、試行錯誤を繰り返しながらでき上がった、形の美しさの法則のようなものがあります。それらを利用しながら、その家特有の庭をつくりましょう。

(2) 庭づくりの知識と条件

ア 現況を考える

これからつくろうとする敷地や建物が、どのような間取りで、どんな形でできているか、その家に住む家族の構成はどうなっているかたしかめます。

立派な庭をつくろうとすればするほど、考えがまとまらないのが現実です。

しかし、種々の要素や条件を系統的に分けて考えてみると、案外よい結論がでるものです。

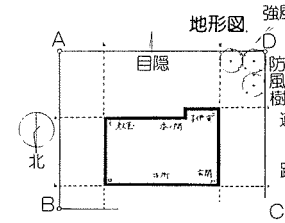
イ 地 形

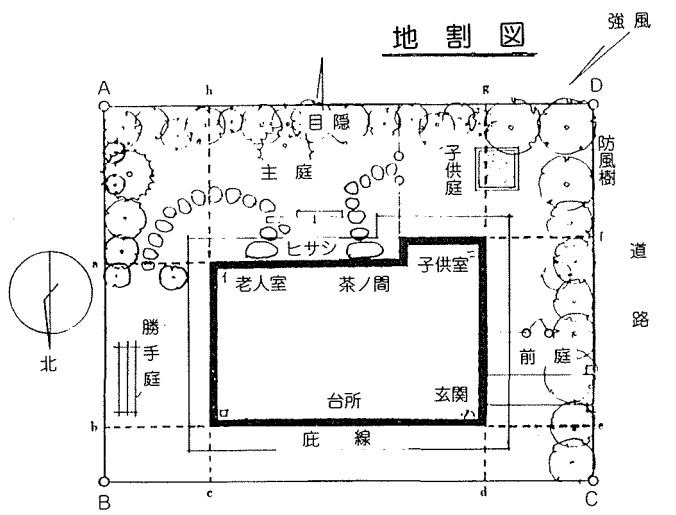
まず、第一に考えたいのは敷地の地形です。最近の住宅団地では長方形が多いようですが、建築家は大抵地積を有効に使うという考えから、建物の一辺を敷地の一辺に平行にします。

その結果、庭の敷地が細長い形となることが多いのです。

建物の最大の開放面が南向きとなり、奥行の浅い庭が多くなります。

富山では、春から夏にかけての強風は、ほ





とんど南西の風であり、この防風のため、敷地の南西隅に常緑樹を植えることが多い。

このような形は、まとめるのがいちばん困難です。反対に奥行の深い敷地はまとめ易い庭となります。

ウ　土　質

富山県の土質は、川の堆積土が多く、砂質壌土で一般に植物が育ち易く、やや酸性土が多い。

最近、山手に住宅団地をつくることが多くなってきましたが、粘土質が多く、重粘で排水の悪い場合も見られるようになってきました。

このようなところでは、砂土を入れ土壌改良剤を入れ、粘土質に強い植物の選定をすることを考えねばなりません。

また、粘土質では、高低差のある庭がつくり易くなり、地表が、砂質と異なり、雨が降っても移動しないのでコケが発生し易く、芝庭がくり易い。

エ　道　路

敷地周囲の道路も、庭でまとめる一要素です。

造園資材の搬入路にもなります。門から玄関までの前庭の形が、道路によってきまります。玄関への入口は、東南隅から北西隅までが福門入りといって縁起が良いといわれています。

また、反対に東北隅と西南隅は、鬼門入りといって嫌われます。

オ　日　照

隣接する土地に高いビルがあって一日中ほとんど日の当たらない敷地があります。

植物は、概して日陰地を喜ぶ種類は少ないが、耐陰性の強い植物を使わなければならない。

また、陰地はジメジメしているものですが、陰地でも乾燥する敷地があります。こんな場所は造園し難い敷地といわねばなりません。

カ　地下水

樹木を植えるには、植穴を掘らなければなりません。少し掘ると地下水がしみだす地下水の高いところがあります。こんなところは、普通の植え方では根腐れを起こして生育しないので、盛土をして植えます。

また、地下水位が低過ぎて乾燥しすぎるところもあります。最近冷暖房の普及で地下水を汲み上げることが多いため、樹木や草花が衰弱する現象がみられます。

いずれにしても、耐湿性、耐乾性の強い樹種を選ばなければなりません。

キ　借景と目隠し

借景とは、自分の庭に外部から何かプラスになるような景色がないか。例えば富山では北アルプスが見えるとか、富山湾や森林を、自分の庭の延長と

して設計することです。

せっかく、良い山の景色が見えるのに大木を植えて、外部の景色が見えないという例があります。

積極的に敷地外の景色を、自分の庭に取り込むようにします。

これに反して、外部に見せたくない風景がある場合、これを隠すことを目隠しといいます。

団地などの場合では、隣家の台所が見えたり、便所や勝手口が見えることがあります。

このようなとき、見えないように工夫しなければなりません。付近に高いビルがあり、いつも見下ろされている状能では、目隠し方法を考えねばなりません。

難しいのは、嫌な風景と山や海などの好ましい風景が同時に見えるところで、いずれかを犠牲にしなければなりません。

(3) 庭づくりのプラン

以上の条件を、できるだけ合理的に考えながら庭の平面形を考えます。

まず、方眼紙の一目を90cmとして敷地の形を写し、建物の形や方角線を入れて庭の形をどうすればよいかを考えます。

また、忘れずに軒下の線も入れます。軒下は雨露が当たらず、植物の生育は不向きです。よくこの部分を忘れて設計して、木を植えることができないことがあります。造園では、この部分を軒内といい、建物と庭を結ぶ重要な部分です。

ア　前　庭

門または、入口から玄関までの部分を前庭といいます。

道路を通行する人とともに眺める部分で、一見しただけで、その建物に住んでいる人柄がしのばれる大切な部分です。

通路が主役になりますので、通路を中心に考えます。とくに前庭の中が狭い場合、通路を中心に考えますと、狭い部分を二分することになり左右どちらも使いにくくなります。

このときは、通路を曲線にするか、片方に通路を直線に寄せて一方を犠牲にします。通路は、できるだけ歩き易い構造にします。

イ　主　庭

この部分は、庭で最も大切な部分です。

住む人の個性が、単的に表れる部分です。機能的には、眺めを中心にした庭座敷。老人には茶庭の形、子供には遊具などのある子供庭に分けて考えます。

座敷庭は、住んでいる人と来客が共に眺める部分です。池や流れのある庭、水のない枯れ山水。地表のコケを楽しむ植え込み庭。築山にするのか平庭にするのか、庭の平面形では様々です。

借景、目隠しも忘れてはなりません。

富山では、真南の池を嫌います。これは南は火の性で、相性が悪いという俗説からいわれたものです。

しかし、庭づくりには何等約束ごとはありません。自由に考えたいものです。

池や流れを考えるときに、それを横切る橋や庭石をどうするか、橋などは縦に見えては面白くありません、横に見て水の上に浮かんでいるように池や流れの形を考えます。

また。護岸の石組みでは、水面が狭く見えるようでは感心しません。手前はなるべく小さい石を用います。

流れの庭も、流れが縦に見えるようにしますと、奥行が強調され、高さの変化もつくり易い。樹木も流れの方向に傾いた形がよく用いられます。

雪見燈籠を設置する時は、なるべく水面に近く設置します。

ウ　勝手庭

庭の部分を機能的に考えるとき忘れてならないのは、主婦の縄張りになる勝手庭です。

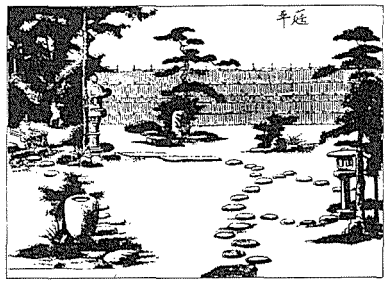
前庭と主庭を除く部分が勝手庭です。日常の生活で最も大切な部分です。

洗濯物を乾かす物干場、簡単な切花用の花畑、新鮮な野菜畑、カキ、クリなどの果樹畑など主婦の使い易い形で考えます。

(4)　設計のまとめ

これまで、庭の機能や形について主に考えてきました。

以上の目的に沿って、樹木の位置や石の形を平面図に書き込みます。樹木の枝幅は円形に書き込み、真直ぐな木なら円の中心に、傾いた木なら円の中心から傾いた反対側の幹の中心を書き込みます。どんな庭でも、庭は生き物です。除草、水やり等の管理は常に要求されます。手入の行き届かない庭ほど見苦しいものはありません。逆によく手入の行き届いた、コケも見事な庭には自然に頭が下がります。



冒頭に、庭の広さは精々200㎡位と述べたのはこの理由からです。家族で管理できるのは100～200㎡の範囲です。それ以上広くなると専門職の手伝いが必要になります。

2 〈生垣づくり〉

(1) 生垣とは

生垣は、隣地との境界や進入防止、防風、防音、目隠し、あるいは住宅や農地、工場などの囲いや仕切りとして、また気温の調節、空気の清浄化、市民にうるおいを提供するなど、その効用、役割も広い分野にわたっています。このように生垣は、実用面とともに、美観からもすぐれたものでなければなりませんので、計画的に進める必要があります。

生垣をつくるときに、まず第一に敷地全体の空間の中で、どのような種類、型にするかを考えます。第二に、環境条件を十分調査して樹種を決定します。地下水の高い所や、逆に乾燥の激しい所、日陰の所、風当たりの強い所、場所の狭い所、海辺に近いところなどがあり、これらの条件がいくつか重なっていることもあります。

(2) 樹木を選ぶ

ア　生垣用樹種として望ましい条件

- 芽吹きが旺盛で、強い刈り込みに耐える萌芽力の強い木であること。
- 枝や葉の分岐が密で、隙間がなく、さらに下枝の枯れ上がりが少なく長く保つ木であること。
- 気候や土壌などの環境条件に適した木であること。
- 樹勢が強く、病虫害に強い木であること。

イ　よい苗木の選定

- 根を見たとき発育が旺盛で、とくに細根が密生しているもの。
- 枝の量は比較的少ないが、均整がとれており、葉は著しく大きくもなく小さくもなく、標準型をしているもの。
- 節の間の発育がよく詰まっており、病害虫の加害がないもの。

ウ、生垣に使用れる樹種

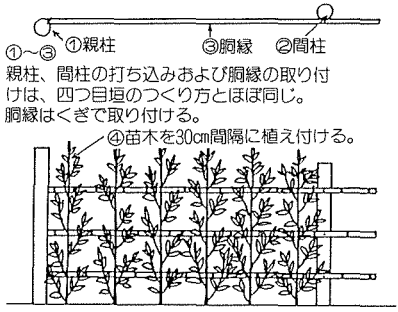
区　分	樹　　種
常緑針葉樹	アスナロ、イチイ、イヌマキ、イチョウ、カイズカイブキ、カヤ、クジャクヒバ、コノテガシワ、シノブヒバ、スギ、タギョウショウ、タマイブキ、ニオイヒバ、ヒノキなど。
常緑広葉樹	アオキ、カナメモチ、アセビ、アベリア、アラカシ、イヌツゲ、ウバメガシ、オオムラサキツツジ、カンツバキ、キリシマツツジ、キンシバイ、クチナシ、ヒサカキ、サザンカ、サンゴジュ、シイノキ、シャリンバイ、シラカシ、ジンチョウゲ、チャノキ、ツゲ、ツバキ、ネズミモチ、ハクチョウゲ、ヒイラギ、ヒイラギモクセイ、ピラカンサ、マサキ、モチノキ、モッコクなど。
落葉広葉樹	アジサイ、イボタノキ、ウメモドキ、カエデ、カラタチ、コデマリ、シモツケ、ドウダンツツジ、バラ、ヒュウガミズキ、ボケ、マユミ、ムクゲ、ユキヤナギ、レンギョウなど。
つる植物	スイカズラ、セイヨウキヅタ、ツタ、ツルウメモドキ、ツルバラ、テイカカズラ、ビナンカズラ、ムベなど。
タケ、ササ類	オカメザサ、カンチク、クロチク、ホテイチクなど。

以上のほかに、海岸地に適する樹種、花や実の美しい樹種、枝葉にとげがある樹種、秋の紅葉の美しい樹種、新芽の美しい樹種などがあります。

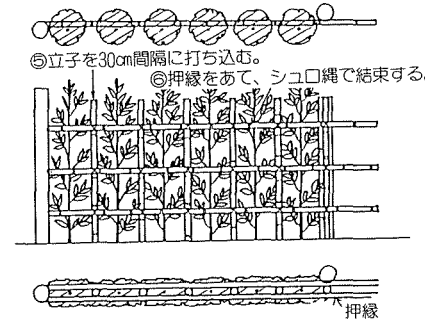
(3)　**つくり方**

ア　つくり方による区別

- 枝梢誘引生垣…まず竹垣（四ツ目垣）をつくって、苗木の枝梢を竹垣に誘引します。
- 押縁締め生垣…苗木と立子を胴縁とではさむように結び付け苗木を固定します。



枝梢誘引生垣



押縁締め生垣

イ　単植生垣と混植生垣

- 単植生垣…１種類の樹種でつくられた生垣です。
- 混植生垣…２種類以上の樹種でつくられた生垣で、混ぜ垣ともいいます。

(4)　手入れ

生垣の管理には、苗木を植え付けてから一応の完成をみるまでの手入れと、完成後の維持管理があります。

ア　苗木植え付けから完成をみるまでの手入れ

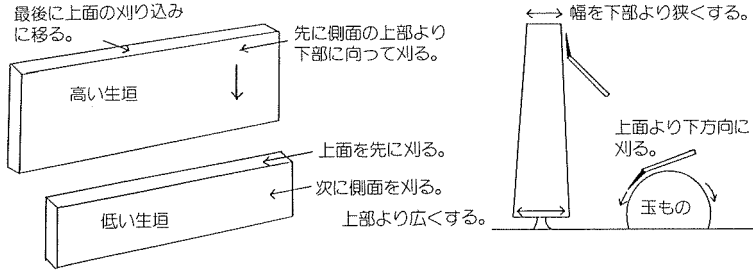
- 一般に庭木は、頂部優勢といい伸長する力が上部が強く、下部が弱いという性質をもっています。このため予定の高さに生長したら、なるべく早目に梢部をせん定します。

イ　整枝、せん定

生垣は全体をかなり強く刈り込むため、生長の盛んな時期に刈り込むと樹勢が大変弱ります。そこでその時期を避けて、１年に２回行います。

- １回目…春の新梢が伸び切って組織が充実した頃の梅雨期に行います。
- ２回目…夏から秋のはじめ頃に徒長枝、土用芽が伸びて樹形を乱すため晩秋に軽く刈り込み、不揃いを整えます。
- 生垣の型を大きく修正する場合は、早春の新芽が活動をはじめる前の休眠中に行います。

ウ　生垣の刈り込み順序と刈り込みバサミの使い方



エ　根切りと施肥

生垣は年数が経つと列植方向の根が交錯し、また道路側に寄ってつくられることが多いので、根が片方にのみ伸長し、ついに老化し、地中養分も欠乏してきます。そこで生垣に沿って溝を掘り、根切りをします。溝には堆肥や腐葉土、油粕などの有機質肥料を施して新根の発生を促進します。実施は秋から早春の新芽の動く前に行います。できれば２～３年に一度行いたいものです。

オ　枝の誘引

枝がまばらであったり、虫や病気などで枯れて穴があいている場合は、近くにある枝を引っ張り、穴をふさぐ作業をするなど、病虫害防除とともに常に手入れが必要です。

Q＆A

Q、切り花を長持ちさせるには、どうしたらよいか。

A、生け花として、花を長持ちさせるには、

1、花をさす前、たっぷりと入れた水の中で、斜めにハサミで切ります。斜めに切るのは、吸上面積を広くするためです。

2、花びんの水を、できるだけ毎日取り替え、全体に霧を吹いてやります。枯れてきた花や葉を取り除きます。

3、花をさかさにして、葉裏から水をかけてやって生き返らせてやります。

4、全体に霧を吹いて、新聞紙で包み、外に出して夜露に一晩あてても花はいきいきします。

Q＆A

Q、バラの10年ほど経ったものをもっているが、最近樹勢が衰えてきました。バラの寿命はどれくらいか。

A、バラは枯らさないで何十年もおくことが可能ですが、大抵の場合は5～6年で植え替えます。

今の西洋バラは、能力以上に咲かされているのです。よく育ちますが、山野の植物のように逆境に強くありません。

英国風の完全主義を基盤につくられたバラは、咲かないと衰えるものです。古木に照れくさそうに咲いているバラはみじめです。

バラのためにも、若木と取り替えてやりたいものです。

3 盆栽づくり

盆栽は、老若男女を問わず、大衆的な健全な趣味として、一般家庭にまで進入し、庭先や窓辺などによく見かけられます。盆栽は手がかかり過ぎるし、ご隠居様かお金持ちの道楽だと考え、一般には縁遠いものという一昔前の考え方をすてて、だれでもできるものです。

お祝いに盆栽を一鉢いただき、手入れを知らないため、枯死寸前の状態になりどうしたらよいか、よくこのような相談があります。

盆栽の育て方は、現代人の常識としてぜひ心得えて欲しいものだと思います。

そのためには、1鉢か2鉢でも自分で育ててごらんになることです。最低の知識があれば、当初案じていたほど育てにくいものではありません。盆栽のよさがわかって、おもしろ味も自然に加わってくるものです。

(1) 育てやすい樹を選ぶ

盆栽は多種多様ですが、そのなかで自分の好みにあうものを選びましょう。まづ選ぶときは、性質が丈夫で育てやすく、あまり手のかからない小型の樹を選ぶことが大切です。

高さ30cm以下で、場所をとらず、持ち運びや管理が容易で多年にわたり楽しめるものを選びます。

ア　四季を通して緑の葉があるもの。ゴヨウマツ、クロマツなど。

イ　花の美しいもの。ウメ、カイドウ、サツキ、サルスベリ、ザクロ、ツバキ、ボケなど。

ウ　春の芽出しと秋の紅葉の美しいもの。(秋) ニシキギ、カエデ、モミジ、(春) ケヤキ、ブナなど。

エ　美しい実が楽しめるもの。ヒメリンゴ、ベニシタン、ウメモドキ、ピラカンサなど。

(2) 盆栽を育てるポイント

ア　植え付け

前にあげた種類の樹を盆栽に育てるには、まず小苗の若木をこぶりの鉢か、浅鉢に植えます。小鉢には1本、浅鉢には2～3本群植します。植える時期は、春芽出しのころがよい。

植えたら、ジョウロで水を十分やります。しばらく風当たりの少ない日の当たるところに置き、乾いたら水を与えるようにします。半月ほどたったら、日当たりのよい風通しのよいところへ移し、水ぎれのないように潅水を続けてやりましょう。

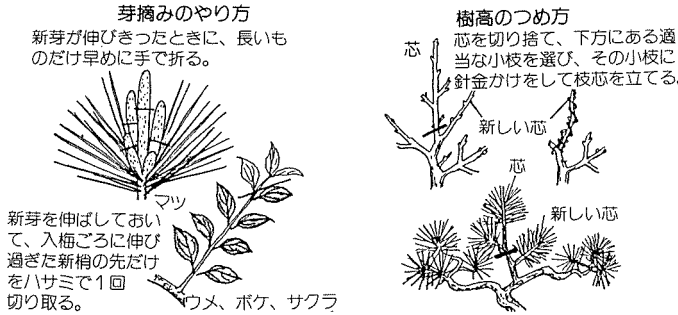
肥料は、植え替えした3週間くらいから、固形の油粕を少しづつ与えます。

液肥は薄いものをやり、濃いものはいけません。時期は春から梅雨ころまでと秋です。

イ　保護対策

新芽が伸び始めるころから、アブラムシ、アカダニ、カイガラムシ、シンクイムシなどが発生しますので、見つけ次第殺虫剤で退治します。

伸びた新芽は、6月上旬ころ芽先を摘みとり、混みすぎた枝をすかしてやります。



夏の暑いときは、マツ以外は、午後日の当たらない涼しい場所において、毎日、日没後に葉の先から水をかけてやります。

植え替えは、マツ類は3年に1回、その他は毎年春先に行って、3年～5年と日がたつうちに自然に樹姿がまとまってきます。

ともあれ、盆栽はけっしてむつかしいものではありません。素人でも、けっこう育てられ楽しめるものです。

(3)　盆栽の管理

盆栽は、そうやすやすと枯れるものではありません。愛情をもって必要な手入れさえしていれば、私達よりはるかに寿命が長く一生の友になるのです。

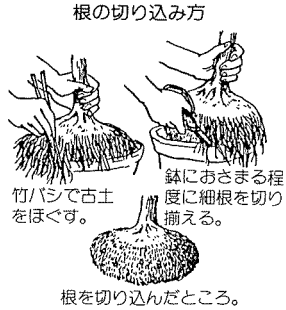
ア　植え替えの仕方

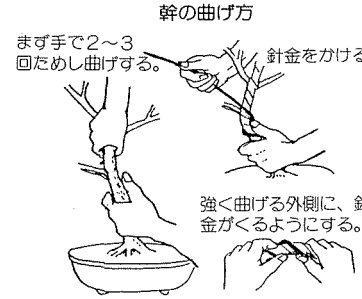
鉢に長く植えたままにしておくと、鉢いっぱいに根が張り、それ以上根が張る余地がなくなるので、健全な生育は期待できませんから植え替えが必要になります。

まず、樹を立て、正面から樹形全体をよく見て、混み過ぎた小枝や長過ぎる枝、枯枝などを切りすかし樹形を整えます。さらに裏側から見ていらない枝を切り取ります。

そのあと、樹を鉢からすっぽり抜き、竹ハシで⅓ほど土をほぐして落とします。古い土からはみ出している根を、ハサミで全部切り取ります。

植え土は、水はけと水もちがよく、あまり肥料分のない清潔なものを使います。





マツ類なら、赤玉土６、粗砂４の配合、雑木なら赤玉土６、腐葉土２、粗砂２くらいの割合です。サツキだけは鹿沼土２～３、赤玉土１、水ゴケを混ぜた土が最適です。

まず、鉢の底に目の細かいビニール網の小さく切ったものを入れて土どめをし、その土へ小砂利かゴロ土を入れます。次に植土を少し入れ、樹の表と鉢の前後を合わせてがっちり止め動かないようにします。

古土の回りに植土を２～３回に分けて入れ、そのつど竹ハシでよくつついてすき間のないようにし、コテなどで上から押さえて植え終わりです。

水を植土から十分やり鉢底から水が流れるまでやります。２～３日風当たりの少ない日当たりのよいところに置いて、一般盆栽と同じに扱います。

(4) 水の与え方

盆栽の置き場所には、必ず水ガメとジョウロを用意し、いつも汲みおきの水があるようにしておきます。

鉢の土の乾き具合をみて、乾いたつど水をやるのが理想的です。次のように朝夕定期的にやってもかまいません。

１～２月　２～３日に１回昼に少量づつ。
　３月　上旬は２～３日に一回少量づつ、中～下旬１日１回少量づつ。
４～６月　１日２回　普通に。
７～８月　１日２回　多量に、日没後葉水を与える。
　９月　上旬は１日２回多量に、中～下旬１日２回通常に。
　10月　１日２回普通に。
　11月　上旬は１日２回少量づつ、中～下旬１日１回少量づつ。
　12月　１日１回少量づつ。

(5) 肥料の与え方

生育条件や肥料の種類によって違いますが、一般的に使われる液肥は、油粕　１、水10の割に混ぜて、水ガメで十分腐熟させた上ずみ液をさらに10倍

の水に薄めて使います。

施肥回数は、4月に1回、5月に2回、9月に2回、10月に2回与えます。一回の量は、30cm内外の小盆栽1鉢に0.15ℓ、普通盆栽は0.2ℓ与えます。

玉肥は、油粕の粉末を水でよく練り、3～4cmのダンゴに丸めて平箱に並べ、雨のかからない薄暗い場所で発酵させたものを使います。花木や実物に与える場合は、液肥でも玉肥でも2割くらいの骨粉をまぜると花つきがよい。

玉肥の与える時期は、液と同じです。1鉢に1回の量は、小盆栽2個、普通のもの3～4個与えます。

(6) 置場所

なるべく日当たりと風通しのよい場所に丈夫な棚をつくり、その上に間隔をあけて置くのがよい。とくに雑木類は夏の西日を嫌うので、なるべく日陰になるところを選びます。

風当たりの強いところは、鉢を台や棚にしっかりしばりつけておきます。ときどき鉢の向きを変えて全体に光が当たるようにします。

冬は鉢土や枝先が凍らないように、軒下や縁側や霜よけの下へ入れてやります。

(7) 上へ進もう

今までは、盆栽の初歩のことについて書きましたが、幼稚園から大学まであります。老樹大木の樹姿を、盆栽上に再現するのは夢だと思います。

人はそれぞれ、素質とかいろいろの事情があり、どこまでやるかは自由です。しかし、初歩段階でやめるのは、普通の鉢植えと大差がなく、芸も妙味もありません。幼稚園で積んだ体験を、もう少し進んで小学校を終え中学程度までつめて、盆栽の名にはじない樹姿をつくるようになりたいものです。

別にむつかしいことではなく、幼稚園程度の手入れのできる人ならどなたでもできることです。ぜひ一歩、もう一歩進めて、よい盆栽を育ててみましょう。

4 観葉鉢物

私達の日常生活の中で観葉植物は、家庭では、玄関、応接間、居間、食堂、廊下、トイレ、ベランダまたは、オフィスのロビー、店のショーウインドーなどに多く利用されています。

現在、一般的に使われている種類は、約２千種を下らないといわれています。その代表的な種類について、楽しみ方や管理について説明します。

(1) ゴムノキ（クワ科）

我が国で栽培されているものは、約30種で一般に普及されているものは10種ほどです。

ア 栽培管理

- 温度　熱帯原産ですから、５℃位までの低温に耐えます。適温は10～15℃です。
- 日照　日光を好みますが、梅雨明けから９月初めまで日陰に置きます。低温期は十分日光を当てます。
- 用土　肥沃な土６に腐葉土２、川砂２位とします。
- ふやし方　取り木や挿し木によります。時期は６～７月に行います。
- 水やり　土の表面が乾いたら、水を十分やります。夏は毎日やります。
- 肥料　夏の生育期に２～３回置き肥をします（油粕、骨粉）。
- 植え替え　生育が盛んで、すぐ鉢が根でいっぱいになります。２年に１回は必ず鉢を大きくして植え替えします。時期は５～６月に行います。
- 害虫　アカダニにはアカール粉剤、カイガラムシにはスミチオン乳剤、アブラムシにはオルトラン乳剤により駆除します。

イ 代表的な種類

・インドゴムノキ（フィカス・エラスティカ）

幹はまっすぐに伸び、葉は長だ円形で葉肉は厚く、光沢のある濃緑色で、新葉を包む苞が赤くて美しい。

この変種に、斑入りインドゴムノキがあります。葉はやや丸味をおび、葉の縁や葉脈にそって黄色の斑が入ります。

・ロブスターゴムノキ（フィカス・エラスティカ・ロブスター）

インドゴムノキに比べ、生長が早く葉肉は厚く、しかも湾曲し、幹のところどころから根を出し繁殖は簡単です。

・**デコラ、ゴムノキ**（フィカス・エラティカ・デコラ）
葉は濃緑で丸味がある。
・**カワイゴム**（フィカス・リラータ）
葉は軍配形で波状をしており、他の種類より寒さに弱い。
・**ベンジャミンゴムノキ**（フィカス・ベンジャミナ）
葉は他のゴムノキに比べ小さく、枝がたれる性質があります。斑入りもあります。

ウ　その他

・下葉が落ちるのは、光線の不足です。また、冬の低温期は肥料は不要です。

(2)　シュロチク、カンノンチク

シュロチクもカンノンチクも、古くから観賞用として栽培されている常緑性低木です。熱帯系の植物ですが、樹姿全体が和物的な感じがあります。性質も強く、県内では鉢植えとして楽しまれています。

ア　特徴

・**シュロチク**　（やし科、中国南部原産）
一枚の葉は５～10枚に分かれ、葉幅は細く２～３㎝で緑色です。
シュロチクの斑入り種があり、観賞価値が高く園芸品種があります。鉢で観賞する場合は、５～15号鉢で、樹高は50～150㎝ぐらいが良い。
・**カンノンチク**（ラピス・フラベリフォルミス、中国南部原産）
葉は、手のひら状で光沢のあるつやつやした濃緑色です。茎は竹のような節があり、毛のようなもので覆われています。約100種近くの園芸品種があり、葉形、斑入りなどに特徴があります。

イ　栽培管理

・**温度**　冬は３℃以上あれば良い。高温の時は良く生育します。
・**日照**　夏場は半日陰に置きます。直射日光に当てると葉焼けを起こします。
・**用土**　荒い川砂植えで良く、腐葉土を１割位混ぜても良い。
・**ふやし方**　株分けでふやしますが、葉が４～５枚でた子株を使用します。時期は５～６月が最適です。
・**水やり**　川砂植えであるため、いつも水切れにならないようにします。夏の晴天の日は１日２回、それ以外は、土の表面が乾ききったら水やりをします。また時々葉水をかけてやります。
・**肥料**　川砂を主体とした用土のため、油柏の置き肥またはＩＢ化成肥料を５月、７月、９月に施します。またハイポネックスの液肥も施します。

・**害虫**　カイガラムシがつくことがあるので駆除します。

・**その他**　シュロチクの葉先が黄色くなるのは、冬の寒さのためです。きびしい寒さにあわせないようにします。

ウ　代表的な種類

・小判（こばん）葉は、濃緑色、葉肉が厚く幅が広く下に垂れさがります。葉の形が小判に似ています。

・達磨（だるま）葉は、光沢のある濃緑色で円形状になり、風車のような感じです。

・姫達磨（ひめだるま）実生からでた変種で葉肉は薄く、葉先は尖って、内側に巻きこみ、しとやかな感じがします。

・太平殿（たいへいでん）幹が太く、節間がつまり、葉幅が広く濃緑色です。

(3)　ヤシ類（ヤシ科）

ゴムノキとともに観葉植物を代表するものです。種類は3000種以上で、南九州にも自生しています。鉢用のものは小型の種類が多く、葉が羽状のものが人気があります。

ア　栽培管理

・**温度**　種類によって差があるが、観賞用は７～10℃位で、最低温度は一時的ならば０℃近くでも枯死しない。苗は低温に弱いので注意しましょう。

・**日照**　日光に良く当てますが、盛夏時は直射日光を避け半日陰に置きます。

・**用土**　排水の良い土に、腐葉土と川砂を20～30％混ぜたものを用います。川砂だけで植え込んでも育ちますが、肥料不足になります。

・**水やり**　ヤシ類は生育が盛んで、夏の生育期は、１日２回、春と秋は１回、冬は土の乾き具合を見てかけます。

・**肥料**　油粕の置き肥を生育期の５～９月に、他の観葉植物より多めに与えます。

・**害虫**　カイガラムシがつくことがあります。カルホス乳剤を６～７月に２～３回散布して防除します。

イ　代表的な種類

・**フェニックス**（フェニックス・カナリエンシス、原産地カナリー諸島）寒さに対してもっとも強い。幹は太く短く、葉は頂部でそう生します。葉はやや硬く、下部の葉は退化してトゲのようになります。

・**アレカヤシ**（クリサリドカルプス、原産地マダガスカル）高さは３～６ｍの矮性種です。枝は根元から分岐して株立ちになります。葉は羽状で淡緑色、葉柄は長さ40cm、黄色の地に褐色の細かい斑点があります。

- **ケンチャヤシ**（ホウエア・ベルモレアーナ、原産地オーストラリア）高さ4～5ｍ。葉の美しさはヤシ類で最高です。葉は長さ80～90cm、幅2～3cmで葉の先は尖り、色は濃緑色です。生育は遅い。
- **テーブルヤシ**（コリニア・エレガンス、原産地メキシコ）高さが2ｍくらいの矮性種です。幹は細い。葉は長さ50～70cmの羽状で、小葉は長さ20cm、幅2～3cmで長だ円形。葉色は光沢のある濃緑色です。
- **フェニックス・ロベニー**（日本名シンノウヤシ、原産地インド、アッサム地方）室内装飾用として人気があります。繊細な羽状葉で、葉がやわらかく女性的な優しさがあります。寒さにも強い種類です。
- **その他**　ワシントンニア・ロブスター（しゅろに似たヤシ）、マスカーナ・ラゲニカウリス（幹がとっくり状になる。）

(4)　**シュフレラ**（別名カポック、ウコギ科）

和名はヤドリフカノキというように、他の木によりかかって生育します。葉はヤツデを小型にした感じで、最近非常に人気があります。

ア　栽培管理

- **温度**　沖縄から台湾へかけての原産なので、高温を好むが、比較的低温に強く3～5℃で管理をします。モミジバアラリアは、10℃が必要です。
- **日照**　日当たりでよいが、夏は日陰に置きます。
- **用土**　水はけが良ければ、土を選びません。粘質土が多い場合はパーライトかバーミキュライトを混ぜます。砂質土では腐葉土かピートモスを混ぜます。
- **肥料**　生育期（5～9月）に、油粕置き肥を3回ほど施します。
- **水やり**　湿った状態にすると生育が良い。夏は葉水をします。冬は温度が保てない場合乾かし気味にします。
- **植えかえ**　小株の場合は、毎年鉢を大きくします。時期は5～7月に行います。根が固まった状態になれば、固まった根は切り捨てます。
- **病虫害**　ほとんどありません。

イ　その他　自立で直立する性質が弱いので、必ず支柱をたてます。芽吹きがよいので、どこで切っても、根が弱っていない限り間違いなく芽をだします。

ウ　代表的な種類

- シュフレラ・アルボ・リコーラは、細長い茎が立ちあがり分岐して株立ちになる。葉は互生して濃緑色の掌状の葉は葉柄が長く、小葉は10枚位に分

かれ細長い。

- ディジゴテヘカ・エレガンテイッシマは、直立する茎にモミジ葉状の葉がつき7～11枚に分かれる（モミジバ・アラリア）。

(5) ヘデラ

つる性の常緑低木種で、茎の節から気根をだして、他の植物などに付着して上に伸びていきます。熱帯植物でないので寒さにも強く、日陰でも徒長せず、支柱にはわせた鉢や吊り鉢にも向くため根強い人気があります。

ア　栽培管理

- **温度**　特に保温の必要はないが、冬の間は室内に入れます。
- **日照**　日当たりでも、日陰でも良く育ちます。
- **用土**　土質を選びませんが、川砂7、腐葉土3にします。苗のときは水ごけ単用植えにします。
- **肥料**　油粕の置き肥と液肥を月に1回追肥します。

イ　代表的な種類

- **ヘデラ・ヘリックス**（日本名セイヨウキヅタ、別名アイビー2）

  葉は長さ10cmで3～5に分裂して、アサガオのような葉です。葉の色は光沢のある濃緑色です。耐寒力は強く、冬は保温の必要はありません。

  なお、変種にヘデラヘリックス・トリカラー（ニシキヅタ）があり斑入り種です。

- **ヘデラ・ヘリックス・グレーシャー**（ダイヤモンドヅタ）

  葉は長さ2～3cmほどの小さいもので3～5に分裂して、葉色は緑色の地に淡黄色の斑と覆輪がはいり、葉肉は薄く、茎も細い。

- **ヘデラ・ヘリックス・ゴールドハード**　小型種の代表的な葉は、濃緑色で葉の中心部に黄色いハート形の斑が入る。

(6) クロトン（コーディーム・バリエガーツム、トウダイサ科）

観葉植物のなかで、最も色彩の変化があります。葉の色が原色で模様が変化に富んでおり、葉の形もいろいろあります。

葉の色は緑、桃、橙、赤紫、褐、黄色などがあります。

葉の形は、広葉、細葉、らせん、飛び葉、針葉系などがあります。

ア　栽培管理

- **温度**　年間をとおして日光に良く当てます。また温度の急激な変化は良

くありません。冬を越すには10℃以上を必要とします。生育適温は20℃以上です。

- **用土**　肥沃な土８に腐葉土１、川砂１の割合とします。幼苗の時は水ゴケ植えがよい。
- **水やり**　夏は十分水をかけ、冬は少なくし、夜は土が乾いている状態にします。
- **肥料**　高温時期によく生育するので、５～９月に油粕の置き肥を２～３回のほか、液肥で追肥を施します。
- **害虫**　高温、乾燥時期に、葉のうらにダニが発生します。スミチオン乳剤で消毒するか、葉水をよくかけると防ぐことができます。

イ　代表的種類・系統

- **アケボノ・クロトン**　広葉系の優良種で、株は大きくならず、葉は長さ10cm、幅５cmで葉は薄く、周辺が濃緑色、中央が淡紅色で新葉は黄緑色で美しい。日本でつくりだされた。
- **ハーベスト・ムーン**　広葉系で株は大きくなり、葉は15cm以上で、切り葉は生け花の材料に良く使用される。葉色は濃緑色で葉脈だけが黄色くなる。
- **インデアン・ブランケット**　大型で葉はやや細長く20cm以上になり、黒緑色で主脈周辺が赤橙色となります。
- **細葉系**　葉が長い系統のもので、長さ20～40cm、幅２～５cmになる。色彩は変化に富み美しい。
- **らせん系**　細葉系に似た葉で、下垂してらせん状にねじれる。葉色は濃緑色で、葉の縁が橙色になるものや、黄、紅、紫などの斑が入るものもあります。
- **針葉系**　葉の形が鉾に似ており、長さ10～25cm、幅３～10cmで、葉脈が黄や赤色になるものがあります。

5 〈実もの〉

(1) マンリョウ（万両）（ヤブコウジ科、常緑小低木）

濃緑色の葉に鮮紅色の実が映え、冬から春まで果実がつきます。

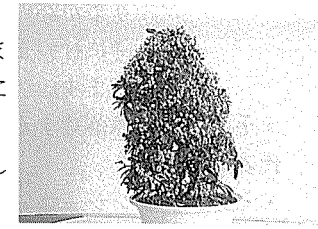
日本では、江戸時代すでに斑入り品種が多数栽培されていた。

- **自生地**　関東以西から四国、九州、沖縄の樹陰に自生する。
- **性　質**　暖地性で、日陰を好み、直射日光を嫌います。本県では戸外で越冬させるのは困難で、室内で管理します。
- **ふやし方**　品種ものは、接ぎ木、挿し木、取り木を行います。
  普通は３月から４月に種子を採取し、果肉を良く洗い、すぐまきます（取りまき）。用土は特に選びません。１年目はそのまま管理し翌春に鉢植えにします。３年か４年で開花結実します。
- **用　土**　湿った肥沃な土を好みます。赤玉土７、腐葉土３程度とします。
- **施　肥**　油粕と骨粉を混ぜ発酵させた肥料を、４月と６月に施します。生育期間は肥切れしないようにします。
- **水やり**　生育期間は、表土が乾かないようにします。冬は３日に１回でよいでしょう。
- **害　虫**　アブラムシ、カイガラムシが発生します。エカチンかカルホス乳剤で防除します。
- **植え替え**　４月から６月に行います。鉢の底から根のでているものは、ひとまわり大きい鉢に根をほぐし1/3くらい切りつめて植えます。
- **種　類**　マンリョウ（赤い実）、キミノマンリョウ（黄色の実）、シロミノマンリョウ（白い実）、オオミマンリョウ（大きい実）などがあり、葉に白い斑の入るものや、波状のものなどがあります。斑入りなどの品種ものは、性質がやや弱い。

(2) ピラカンサ類（バラ科、常緑低木）

ピラカンサ類はトゲがありますが、実のつきが良く鉢物として多く利用されています。その他、庭木、生垣、切り枝として利用します。

- **性　質**　樹勢は盛んで耐寒性があります。日当たりを好み、日陰では実つきが悪くなります。他にローズデール（大実の園芸種）もあります。



- **ふやし方**　さし木は春先には前年生の枝を、6月から7月に今年の枝を挿します。実生は果肉を取り除いて春にまきます。
- **用　土**　土質を選びませんが排水を良くします。
- **施　肥**　油粕や配合肥料を施します。
- **水やり**　生育期間中は十分にやります。冬の間も常緑樹ですので、3日に1回午前中にやります。
- **害　虫**　アブラムシ、カイガラムシが発生するので、スミチオン乳剤かカルホス乳剤を、発生初期10日間に1度散布します。
- **その他**　生長が早いので、放任しておくと樹形が乱れます。萠芽力が強いので強い剪定をしても、どこからでも芽を吹きます。
ムクドリ等が果実を餌にします。

代表的な種類

- **タチバナモドキ**（別名ホソバトキワサンザシ）中国原産で、日本へは明治時代に渡来した。高さは2～4mになります。果実は橙黄色に熟します。葉は細長く革質です。
- **トキワサンザシ**　西アジアの原産で、日本へは明治時代に渡来した。果実は鮮紅色に熟します。葉は卵型で濃緑色で光沢があります。
- **ヒマラヤトキワサンザシ**（別名インドトキワサンザシ）ヒマラヤ原産で、日本へ昭和初期に渡来した。高さは2m位になります。葉は長だ円形で革質である。果実は橙紅色に熟します。

(3)　**ミカン類**（ミカン、ユズ、キンカン）

- **植え付け**　4月から5月に植え付けをします。深植えにならないよう、苗木の接ぎ木部を必ず地表にだします。
- **温　度**　年間をとおして日光を良くあてます。また温度の急激な変化は良くありません。冬を越すには10℃以上を必要とします。
- **肥　料**　植え付け、植え替え30日後ぐらいに、有機配合肥料（N.P.Kを含む。）を10号鉢で10gほど置肥します。
- **水やり**　春から秋まで乾かさないように十分に水やりをします。
冬は10日に1回ほど行います。
- **隔年結果**　ミカン類は隔年結果がおき易いので、豊作の年は、あまり多く実をつけさせないため摘果します。摘果の目安は果実1個当た

り葉が25～35枚必要で、生理的な自然落果が終わる８月上旬以降に行います。また果実を収穫後、お礼肥として化成肥料を施します。

- **その他**　春落葉するのは、冬の寒さか乾燥によることが原因です。

代表的な種類

- **ミカン**（ウンシュウミカン）

温暖な気候を好み、最低温度－５℃以下になると栽培が困難です。
鉢物の場合室内に入れるようにします。果実は食用になります。

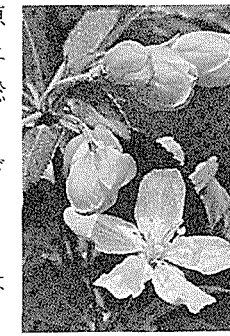
- **ユ　ズ**

ミカン類のなかで、耐寒性があり、冬屋外でも栽培できます。
結実は10年たっても実がならないこともあります。ただしカラタチ台木に接ぎ木したものは早く結実します。

- **キンカン**

ユズ同様耐寒性があり病気、害虫もほとんどありません。食用だけでなく観賞用としても優れている。

(4)　**ヒメリンゴ**（バラ科リンゴ属）



鉢物として栽培されているヒメリンゴは、中国原産で別名イヌリンゴと呼ばれています。このほかエゾノコリンゴ、アルプス乙女等の小型のリンゴを総称していうこともあります。果実がさらに小型のミヤマカイドウがあり、ハナカイドウを含めてカイドウ類を区分します。

ア　実つきを良くするために

ヒメリンゴで花つきが悪く、実がならない原因は次のようなことが考えられます。

- **短枝がない。**　木が若いか、強剪定のため徒長枝ばかりになっている。鉢が大きすぎるため、水や肥料が豊富で生育が盛んである。
- **短枝があっても花が咲かない。**　日照不足か、花芽分化期（７月から８月）に水不足。
- **実った短枝には花芽がでない。**
- **花が咲いても実がならない。**１鉢しかないか、昆虫がいないので受精しない（自家不和合性が強いため。）。

イ　ヒメリンゴの実つきを良くする方法

- 開花期がほぼ同じで花粉の多い異種または異品種を近くで栽培し、開花期に薬剤散布を止めて、昆虫の活動を活発にします。
- 人工受粉を行います。リンゴの仲間であれば、どんな花粉を用いても良いわけでなく、他家受粉（別の種、別の品種で受粉する。）が原則です。ミ

ヤマカイドウの花粉は優れています。
ハナカイドウは花粉の不能なものが多く、受粉樹にはむきません。

- **用　土**　赤玉土、桐生砂、鹿沼土を中心に川砂、ピートモス、腐葉土を加える。肥料は秋から冬に元肥を施し、開花期には施しません。
- **置き場所**　日当たりの良い場所に置きます。夏は葉焼けを防ぐため、やや遮光します。
- **水やり**　水を好み乾燥を嫌います。とくに開花から実止まりまでの１ヶ月間は、絶対に水をきらさないようにします。

豆知識

◦鉢植の花が咲かない

鉢を買ったとき花芽があったが葉が落ちてしまった。隣の家では花がきれいに咲いているが私の家のものが咲かない。このようなことをつきつめて花の咲かない原因を整理してみると、

(1) 剪定による原因

花芽の分化期以降に剪定や整枝をすれば、花芽を切ってしまうので咲かないのがあたりまえです。

花芽の分化期に剪定や、切りつめるのでなく、枝を間引くようにして行います。ツツジ、ツバキ、アジサイ、アザレヤなどがよく失敗します。

(2) 肥料が原因

一般の肥料とくに、窒素質肥料を多く与えると花芽がつきません。植物は弱ってくると、子孫を残さねばならないため花を咲かせ種子をつくるわけです。肥料のやりすぎは生育が旺盛になり花芽分化をする状態にならない。

対策として一年間肥料をやらない。分化期前に根を傷める。鉢土を乾燥させて鉢土を老化させたりします。

(3) 水やりが原因

鉢花が咲かない、花つきが悪い場合の原因の一つが水やりです。真夏、真冬に水切れさせたり、年間通してやり過ぎによって花芽が飛んでしまう、ロードテンドロン（西洋シャクナゲ）の花飛びの原因です。

(4) 置き場所が原因

光が不足して花芽ができない場合が多い。また低温の場合もあり、アザレヤ、ツツジで花飛がありますので、日の当たる場所へ移し替えます。

(5) 病虫害の原因

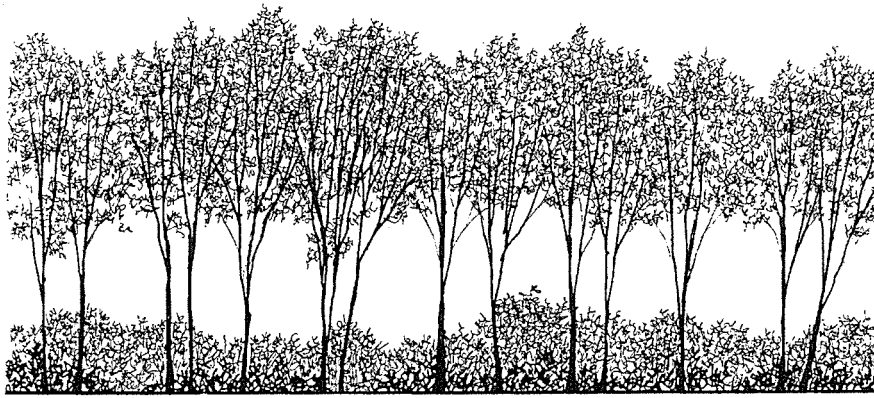
ツツジ、サツキなどに、シンクイムシが発生し、つぼみの中を食害するためつぼみを枯死させますので、殺虫剤を散布します。

Ⅳ そ の 他

1 〈 花ことば（樹木） 〉

東洋でも西洋でも、古くから花にまつわる神話や伝説があり、花の形に思いをよせたり、色や香り花の性質などから湧きでるイメージから、詩文、逸話、故事来歴から花ことばが生まれました。

そのほとんどが、西洋で中世の騎士が愛する女性に贈った無言の意思や感情を伝える言葉が、今に伝えられるようになったものと考えられます。



樹　　種	花　　言　　葉
アケビ	才能
アジサイ	移り気、冷たい人
アセビ	犠牲、あなたと二人旅をしましょう
イチイ	悲哀、死
イチョウ	鎮魂、長寿、荘厳
イボタノキ	禁制
ウメ	忠実、高潔、上品、忍耐、独立
ウメモドキ	明朗
ウルシ	変動に耐えよう
エニシダ	謙遜、卑下
オオデマリ	約束、天国
カイドウ	大胆、無遠慮
キイチゴ	嫉妬、後悔、羨望
キョウチクトウ	深刻な友情、親友（赤）、恵まれた人（白）
ギョウリュウ	犯罪
キンモクセイ	初恋、謙遜
クチナシ	清浄、純潔
クリ	尋常ではない
クレマチス	高潔
ゲッケイジュ	名誉、勝利、戦勝の表彰
コデマリ	努力する
コノデガシワ	一生変わらぬ友愛
コブシ	友情
サクラ	純潔、淡白、精神美
ザクロ	円熟した優美、子孫の守護
サザンカ	理想の恋（白）、謙遜（赤）
サルスベリ	雄弁
サンザシ	ただ一つの恋、希望
サンシュウ	持続、耐久
シデ	装飾
シモツケ	無益

樹　　種	花　　言　　葉
シャクヤク	内気、はじらい、はにかみ、憤怒
シュロ	勝利
ジンチョウゲ	光栄、永遠、不死、快楽を求める。
スイカズラ	友情、献身、愛のきずな
スギ	堅固
スモモ	忠実、貞節、約束を守って下さい。
センリョウ	可憐
チヤ	追憶
ツゲ	克己、禁欲、冷静
ツツジ	節制、愛する喜び、初恋
ツタ	美しさが唯一の魅力
ツバキ	気どらない優美さ（紅）、申し分ない魅力（白）
トチノキ	ぜいたく
ナナカマド	用心、慎重
ナンテン	良き家庭
ニンキギ	危険なあそび
ニセアカシヤ	友情、親睦
ニワトコ	あわれみ、同情、熱心
ヌルデ	巧妙
ネコヤナギ	自由
ネムノキ	歓喜
ハギ	想い、思案、内気
ハクモクレン	壮麗
ハシバミ	仲なおり
ハゼノキ	真心
ハナズオウ	裏切る、疑惑、不信用
バラ	愛、恋愛（赤）、純潔（白）、愛の告白（つぼみ）、うすれゆく愛（黄）
ハルニレ	威厳、愛国心
ヒイラギ	剛直
ヒイラギナンテン	激しい感情
ヒノキ	不死、不滅

樹　　種	花　　言　　葉
ヒマラヤシーダ	強さ（思い切ってあなたのみに生きます。）
フ　　ジ	恋に酔う、歓迎
フ　ヨ　ウ	繊細な美
プラタナス	天才
ボ　　ケ	熱情
ボダイジュ	熱情の恋、結婚（花）、夫婦愛（樹）
ボ　タ　ン	はじらい、富貴、壮麗
ポ　プ　ラ	悲嘆、哀惜、勇気
マ　サ　キ	厚遇、知恵
マ　　ツ	不老長寿、慈悲
マ　ユ　ミ	艶めき
マルメロ	誘惑
マンサク	呪文、霊感
ミ　ズ　キ	耐久力
ム　ク　ゲ	繊細な美、信念
ムラサキシキブ	聡明
モクセイ	謙遜
モクレン	自然への愛、荘厳、恩恵
モ　　ミ	時、昇進、高尚
モミジ	自制、ひかえ目、謹慎、隠退、保存
ヤ　ツ　デ	分別
ヤ　ナ　ギ	悲哀、追悼
ヤブコウジ	明日への幸福
ヤマブキ	気品が高い、待ちかねる
ユキヤナギ	田園の幸福
ライラック	初恋の感動
レンギョウ	希望、達せられた希望、深情け

2 めでたい縁起木のはなし

古くから、松竹をはじめ、縁起木のよい木とされてきたものがいくつかあります。ゲンをかつぐのではないのですが、よく観察するとそれなりの魅力があるものです。

★ マツ

四季を通じて緑を失わず、老木の姿は気品があります。縁起木でも筆頭格です。

★ タケ

どんな強い風雪にあっても折れることのない強さ、繁殖力の強さ、成長の速さが畏敬の対象になったもの。古来中国でも清雅や風情が愛されてきた。

★ ウメ

生命力が強く、老木になって樹皮一枚だけで生きている姿は崇高です。寒風のなかで、ふくいくとして咲きほころぶ様は感動的です。

★ ナンテン

難を転ずるの語呂合わせもあって、玄関口によく植栽されてきました。葉は解毒作用もあり、料理にも添えられます。

★ センリョウ、マンリョウ

植物分類上は全く関係がないが、縁起のよい名称からであり、寒い冬の庭に、真っ赤な実をつけて彩りを添えてくれます。

★ フクジュソウ

まだ雪も消えやらぬ早春の山野辺に、葉に先立って光り輝やく黄金色の花を咲かせます。正月用の寄せ植えにも使われます。別名「元旦草」ともいいます。

★ ダイダイ

柑橘類の一種で、熟してからも一年近く実を落としません。前年の実が自然落下するころには、今年の実が色づきますから年中美しい果実がみられます。

★ ユズリハ

ゴムノキに似た大型の葉を茂らせる常緑樹です。新しい葉が生長するのを待って、古葉が落ちることから名付けられました。

正月のしめ飾りは、ダイダイの実とユズリハの枝をあしらわれるのは、「代々譲る」の語呂にちなんで、一家の繁栄を祈る願いがこめられています。

3 〈 庭と庭木のおもな手入暦 〉

庭の手入れは、一般的に四季おりおりの樹木の剪定や、肥料やり、生垣の刈り込み、芝刈りなどであり、4月から翌年3月までの、主な庭木に対する手入れについて整理してみました。

4月

作業の種類	樹種及び作業のポイント
植え付け、移植	（常針）キャラボク、コウヤマキ、コノテガシワ、ヒメコマツ、イトヒバなど。 （常広）シイ、ネズミモチ、ナンテン、イヌツゲ、カナメモチ、モチノキ、モッコク、カシなど。 （落広）カキ、イチョウ、シラカバ、サルスベリ、エニシダ、アジサイ、サクラなど。
挿し木	ナンテン、アオキ、カイズカイブキ、イヌマキ、レンギョウ、サルスベリなど。
剪定するもの	ウメ、カイドウ、ジンチョウゲ、アオキ、ヤツデ、コデマリなど。
病虫害	うどんこ病の防除は、ジネブ剤。アブラムシ、オビカレハなどをＤＤＶＰ乳剤で防除をします。
その他	雪吊りの取りはずし、ブドウの皮むき、生垣の修理

5月

作業の種類	樹種及び作業のポイント
植え付け、移植	アオキ、カシ類、カナメモチ、ツツジ類、ツバキ、サザンカ、モチノキ、モッコクなど。
整枝、剪定	アセビ、ツバキ、コデマリ、ユキヤナギ、レンギョウ、ニワウメ、ウツギなど。
挿し木	ヒバ、カイズカイブキなど。
芽摘み	マツのミドリ摘み、カイズカイブキ、ヒバ類など。
薬剤散布	病気の予防に2週間おきに3回くらい殺菌剤を散布。かび類（かび病、さび病、褐斑病など。）にベノミル剤、マンネブ剤が効果がある。
追肥（お礼肥）	ウツギ、ハナミズキ、ライラックなど

6月

作業の種類	樹種及び作業のポイント
植え付け、移植	落葉樹は行わない。常緑樹も一般に適期でないが、ヤシ類、サツキ、シイなどの一部は可能
整枝、剪定、芽摘み	ヒバ類の芽摘み。下旬以降は常緑広葉樹の整枝、剪定、生垣の刈り込み。
挿し木	ツツジ、サツキ類、アジサイ、ハナミズキ、ウツギ、ベニカナメ、ツバキなど
薬剤散布	カイガラムシ、アメリカシロヒトリ、チャドクガなどには、スミチオンかマラソン剤を発生時に集中的に散布。うどんこ病の防除
追肥（お礼肥）	花木は、花の終わった直後に施す。

7月

作業の種類	樹種及び作業のポイント
整枝、せん定	シイノキ、シラカシ、アラカシ、マテバシイ、ウバメガシ、イヌツゲ、キャラボク、ゲッケイジュ。生垣の刈り込み
挿し木	ツバキ、サザンカ、カナメモチ、カイズカイブキ、ヒバ類など
薬剤散布	アメリカシロヒトリ、チャドクガの幼虫、カキノヘタ虫、ツジグンバイ虫、ハダニ類、赤星病、黒斑病などが発生
マルチング	ツツジ、シャクナゲ類にはピートモスを、バラには堆肥かワラを敷く。
土用干し（鉢物）	ウメやカイドウの花芽のつきをよくするため水を控える（2～3週間）
乾燥防止	一般には水やりの必要はないが、今春植えたものは潅水します。

8月

作業の種類	樹種及び作業のポイント
移植	（常広）ツバキ、サザンカ、モチノキ、モッコク、カシ類
整枝、剪定	シイノキ、シラカシ、アラカシ、ウバメガシ、イヌマキ、キャラボク、モッコク、ツバキ、サザンカ、針葉樹など。
挿し木	ツバキ、サザンカ、カナメモチ、イヌツゲ、アベリア、ヒバ類など。
薬剤散布	アメリカシロヒトリ、チャドクガの2回目の発生。ハダニ、ツツジグンバイなど前月に引続き発生する。うどんこ病の防除
乾燥防止	今春植え付け、移植したものは潅水します。
その他	台風前に樹木の支柱補強

9月

作業の種類	樹種及び作業のポイント
植え付け、移植	シイノキ、カシ類、ツバキ、サザンカ、モチノキ、モッコクなどの常緑樹、イヌマキ、ヒバ類、カイズカイブキ、ヒマラヤシーダなどの針葉樹、ボケ、ボタン、シャクヤク、シャクナゲ、アメリカハナミズキなど。
挿し木	ボケ、ツバキ、サザンカ、クルメツツシなど。
接ぎ木	（芽接ぎ）モクレン類、モモ、バラ、サクラなど。（腹接ぎ）カエデなど。
薬剤散布	モッコクハムシが発生する。サツキ、ツツシのシンクイ虫にＤＤＶＰ乳剤を散布。その他は8月と同じ。
台風対策	枝ぬき。支柱の取り付けなど。
根回し	翌春移植したい木は根回しを施し、細根をよくつくっておく。

10月

作業の種類	樹種及び作業のポイント
植え付け、移植	針葉樹全般。ウメモドキ、マユミ、ニシキギ、ボタン、シャクヤクなど。
タネの取りまき	ハナミズキ、ナツツバキ、マユミ、ニシキギ、ウメモドキ、コブシ、カリン、カシ類など。
整枝、せん定	ウメ、サクラ、カイドウ、ロウバイなど。
挿し木	ボケ
根回し	翌春移植したい木を行う。
マツのコモ巻き	マツ類につくマツケムシは、冬地面におりて越冬するため幹にコモを巻き、誘い込んで越冬させ春焼却する。

11月

作業の種類	樹種及び作業のポイント
植え付け、移植	針葉樹全般。常緑樹は行わない。落葉樹はウメ、カエデ、コブシ、ニワウメ、ムクゲ、フヨウなど。
株分け	ボケ、ユキヤナギ、レンギョウなど。
整枝、剪定	カシ類、モチノキ、ウメ、カエデの徒長枝の伸びたもの。生垣の刈り込み。アジサイ、レンギョウの間引き。タケ類の古竹の切り取り。
タネ取り	カエデ、サルスベリ、ハナミズキ、ムクゲなど。
防寒対策	マツ類、マキ類、カエデなどの雪吊り。サツキ、ツツジなど低木の雪囲いを行う。

12月

作業の種類	樹種及び作業のポイント
植え付け、移植	（常緑）コノテガシワ、スギ、ヒバ類、マツなど。（落広）コブシ、ガクアジサイ、ニシキギ、イチョウなど。（常広）アオキなど。
整枝、剪定	ヒバ類、マツ類の枝すかし。樹形仕立て木の徒長枝、秋芽が伸びたものの刈り込み。ウメ、カエデ、サルスベリ、モクレン、ボケなど。ハギ、フヨウの地際での更新
タネ取り	カシ類、ナンテン、ピラカンサス、マンリョウ、カエデ、ハナミズキなど。
タケの整理	クロチク、マダケ、モウソウチクなど、古株のこんだところの間引き。
防寒、耐雪	マツ類、マキ類、カエデなどの雪吊り、ヤシ、ソテツなどのコモ巻き。
その他	アカマツ、クロマツなどのもみあげ。

1月

作業の種類	樹種及び作業のポイント
植え付け、移植	雪がなければ、マツ類、トウヒ類、カエデ類、サクラ類、ハナミズキ、マンサク、ハナモモ、バラなどが可能
整枝、剪定	サクラ類、モクレン類、ハナミズキ、ヤマボウシ、ナツツバキ、カエデ類、シラカバ、ハギ、ブナなどの落葉性の庭木
薬剤散布	カイガラムシの防除は、マシン油乳剤。病気の防除に石灰硫黄合剤を20日おきに3回くらい散布する。サクラのてんぐす病の被害枝の切取り。冬期こぶ病の防除
防雪	雪吊り、棚類の防雪
施肥	花木、実ものに寒肥を施す。

2月

作業の種類	樹種及び作業のポイント
植え付け、移植	マツ類、トウヒ類、ヒバ類の針葉樹、落葉性の庭木の植え付け。
整枝、剪定	落葉樹、針葉樹は可能
薬剤散布	カイガラムシ、アブラムシは前月に引続き行う。
挿し木	レンギョウ、ユキヤナギ、コデマリ、バラ、ナンテンなどの落葉樹
タケの整理	庭に入っている小型のササ、タケの刈り込みや枝の切りつめを行う。
施肥	花木、実ものに行う。中旬までに終わらせたい。

3月

作業の種類	樹種及び作業のポイント
植え付け、移植	落葉樹、針葉樹、タケ、ササ類など
整枝、剪定	落葉樹は上旬までに終わらせる。
挿し木	(常緑) タマイブキ、カイズカイブキ、キャラボク、スギなど。(落広) ユキヤナギ、コブシ、サルスベリ、イチョウ、エニシダなど。(常広) マサキ、ゲッケイジュ、ヒイラギナンテン、ハクチョウゲなど。
薬剤散布	石灰硫黄合剤は樹の芽出し前に行う。
防寒具の取りはずし	マツに幹巻きしたコモなどの焼却。雪吊りの取りはずし。
接ぎ木	ウメ、サクラ、フジ、ハナミズキ、バラ、カイドウなど。

参考文献

書名	著者	発行所
実用園芸百科		園芸文化協会
365日の園芸百科		主婦の友社
樹木アートブック（高木編）		アポック社
雪国の植栽樹木図鑑		北陸建設弘済会
原色樹木大図鑑		北隆社
園芸大百科事典		講談社
庭木1、2、3		主婦の友社
庭木のふやし方、育て方	船越亮二	文化出版局
原色庭木盆栽の病虫害の診断		農文協
富山の植物	進野久五郎	富山文庫
家庭の園芸		小学館
庭木に緑化樹	飯島　亮	誠文堂新光社
富山県道路緑化マニアル		富山県土木部
雪国の植栽		北陸建設弘済会
緑化技術ハンドブック		全国林業改良普及協会
とやま花づくり		花と緑の銀行
花ことばファンタジー	中村俊子	保育社
観葉植物		文研出版
観葉鉢花		山と渓谷社
花木		山と渓谷社
植木100種の剪定		日本放送協会
緑化樹木の病害虫	上　小林　亨夫 下　小林富士夫	日本林業技術協会

さくいん

樹木名	ページ	樹木名	ページ	樹木名	ページ
アオキ	127	シャリンバイ	147	ボケ	156
アオギリ	78	シラカバ	93	ボタン	157
アジサイ	140	ジンチョウゲ	135	ポプラ	103
アベリア	141	スギ	70	マキ類	74
イチイ	68	ソテツ	166	マサキ	136
イチョウ	111	タイザンボク	62	マツ類	75
イヌツゲ	128	タブノキ	65	マユミ	159
ウツギ	129	ツガ	71	ムクゲ	125
ウメ	79	ツツジ	149	ムラサキシキブ	160
ウメモドキ	121	ツバキ類	63	メタセコイヤ	112
エニシダ	142	ドウダンツツジ	148	モクレン	105
エンジュ	81	トチノキ	94	モチノキ	66
オオデマリ	122	ナツツバキ	95	モッコク	106
カイズカイブキ	69	ナナカマド	96	ヤツデ	137
カエデ類	82	ナンテン	152	ヤナギ類	107
カクレミノ	113	ニシキギ	153	ヤマブキ	161
カシ類	58	ニセアカシヤ	97	ヤマボウシ	109
キョウチクトウ	130	ネズミモチ	118	ユキヤナギ	162
キンシバイ	143	ハイビャクシン	138	ユズリハ	67
キンモクセイ	114	ハギ	154	ユリノキ	110
クチナシ	131	ハクチョウゲ	155	ライラック	163
ケヤキ	85	ハナカイドウ	123	レンギョウ	165
ゲッケイジュ	115	ハナズオウ	124		
コデマリ	144	ハナミズキ	98		
コノテガシワ	120	バラ	168		
コブシ	86	ハルニレ	99		
サクラ類	88	ヒサカキ	119		
サザンカ	116	ヒノキ	72		
サルスベリ	91	ヒマラヤシーダー	73		
シイノキ	61	フウノキ	100		
シジミバナ	145	フジ	170		
シモツケ	146	プラタナス	101		
シャクナゲ	132	ホオノキ	102		

●編集委員の方々

委員長	笹倉慶造	県自然保護協会事務局長
委員	金岡トモ子	富山女子短期大学助教授
〃	加茂正三	県緑化造園土木協会副会長
〃	高木直秋	県立中央農業高等学校教諭
〃	平一敏	県農地材務部農林管理課長
〃	横江敏郎	(財)花と緑の銀行専務理事

●執筆していただいた方々　（五十音順　敬称略）

石崎力	県立有磯高等学校長
岡本益男	県立中央農業高等学校教諭
桐林秀雄	県林業試験場造林課長
久郷正基	久郷一樹園主
高木直秋	県立中央農業高等学校教諭
前田光春	県立中央農校高等学校教諭
安田洋	県林業試験場経営特産課主任研究員
牧野光六	マキノカメリア園主
野上寿明	晴香園主

●写真を提供していただいた方々

幡谷広司
山本和雄
稲盛寛

編集後記

かねてから当銀行では、グリーンキーパーの活動の手引書として、花や緑のハンドブックの作成に対しての要望が多く、その必要性を痛感していました。

緑に関しては、本県は積雪地帯という気象的な悪条件下にあり、緑化樹の生産量も少なく、また緑化技術も手さぐりの状態にありますが、県内の緑化関係の先達にお願いし、分担して作成しました。

何分にも単年度で作成しなければならず、写真、その他資料の収集に苦労いたしましたが、ようやく発行するまでにこぎつけました。

この冊子の作成に当たり、編集委員および、執筆者の方々に多大の御苦労をおかけいたしました。心からお礼を申し上げます。　（山崎）

とやま緑づくり

発　　行　財団法人 花と緑の銀行
富山県婦負郡婦中町上轡田42
電　話（0764）66－2425

印　　刷　株式会社チューエツ
富山市上赤江町２丁目８－６
電　話（0764）32－4171